

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

253
198

始



253-198

栗山周一著

現今の殺人的教育

東京 二松堂書店

大正
10 3 18
内交

序

教育者は横暴なる官僚輩の爪牙に罹り、
無邪氣なる被教育者は自覺なき教育者
に其の新芽を摘み取らる。あはれ悲惨
なる現代教育の末路よ。是を名附けて
『現今の殺人的教育』と言ふ。敢て天下の
具眼者に捧ぐ。

著者識す

目 録

一、現今の教育は人を殺しつゝあり……………一

二、貞操をひさぐ者豈賣笑婦のみならむや……………九

三、神聖教育の破壊と官僚教育の建設……………二七

四、首切るぞ……………四四

五、校長室の會話……………五八

六、悲慘なる哉初等教育者の末路……………一〇〇

七、眞の教育者は喧嘩する者なり……………一四九

八、教師は一體生きて居るのか死んで居るのか……………一六二

九、鐵窓裏の教育……………一八七

一〇、私は如斯女性を教養してもらひ度い……………三八

一一、無茶苦茶教育……………三三

一二、盲を開けモツと大事を考へよ……………三九

一三、鐘 詰 教 育……………二九六

現今の殺人的教育

栗山周一著

一 現今の教育は人を殺しつゝあり

私は唯今から表題の様な考察に筆を取らうと思ふ。唯今から述べて行く本書の内容は、實は自分にも書き上げた上でなければ一寸ドンなものになるか想像がつかかねる別に系統を立てると言ふでなく、心に浮ぶまゝを、浮ぶ順序に筆に現はして見ようと思ふ。唯此の不系統なものをも系統的に考へると考へぬは讀者にある事だから私は何の臆面もなく此の物語を傳へる事としよう。自分がかうした不系統な、言はゞ隨筆の様なものも臆面なく發表する所以のものは自分の體驗上止むに止まれぬ内心の要求からなのである。何ソソなものも發表しなくても良いではないか、ケレ共私は本書の内

容の様な事を言はなければ満足が出来なくなつて来た。言つてしまはふ。何かまふも
 のか。真剣なる血あり熱ある眞の教育者であつたら一人や二人は私に共鳴して被下る
 事だと思ふ。何れにしろ私は序文に書いた通りの男なんだから、又本書の様な事を述
 べると言ふ事が、私の天より授がつた責任ある仕事だと信ずるから、此所に本書の筆
 を起す事にしたのである。

此所まで書いてサア何から廣げ出していか解らなくなつた。先づ殺人的教育の意
 義位をもち出して本書の起筆としようと思ふ。私の此所に持參して居る殺人的教育で
 ふ風呂敷の中には種々雑多なものが入れている。長い間の教育界での買物が皆此の風
 呂敷の中に入れてあるのである。今此の土産を讀者諸君の前に廣げ出して味はつても
 らはなければならぬ。何なりと味つて貰い度い。

或る日私の神樂岡の寓居を訪ふてくれた高等學校の學生が、「先生此の頃の教育なん
 か實に成つて居ませんね。」と言ふ。「實際成つて居ませぬが成つて居るとも見られま
 す。學生は不思議想にして居たが「何故です」とも言はない。デ私は更に言葉をつい

けた。「實際今日の教育は無茶苦茶なんです。眞に成つて居ませぬ。デ私は成つて居
 ないと申しました。ガ之を逆に見ると其の無茶苦茶教育と言ふものがよく成つて居る
 と思ひます。」「ハハア逆定理でやられましたね。」實際現今の教育は成つて居ない。
 到る所に私の所謂殺人的教育が行はれて居る。教育者は官僚に殺されて居り、被教育
 者は自覺なき教員に其の新芽をつみ取られて居る。今の教育なんかは一度破壊してし
 まはなければ駄目である。私が本書の筆を取つた動機は此所からである。

殺人?!! 聞いても恐ろしい様な氣がする。私は此の殺人てふ事に二種ありと思ふ。
 眞の殺人に二種ある。確にあると信ずる。第一は法律の罰する殺人、第二は法律の罰
 しない殺人である。某大官が高利貸を殺して信濃川へ投じたり、悪少年團が大阪の私
 立女學校の生徒を恥しめた上に殺して森林の中に隠したり、戦争で殺し合つたりする
 殺人は、その武器は切れ物である。或は首を締めるものもある。鐵砲で打ち殺すのも
 ある。即ち肉體を殺すのである。息を止めるのである。之はお互に對者同志がやる事
 で其の範圍もせまいのが常である——戦争は別であるが之はお互に覺悟の上で殺し合

ふんだから、私の此所に言ふ意味とはならぬが——要するに範圍もせまく、殺してしまへば一方は殺されてしまい一方は繩にかけられて監獄へ行くだけで事は済んでしまふ。私は殺人子爵桑原某の隣に住んで居た事があつたが、桑原が餓餉屋の嚙を殺した。所は大極殿の前である。殿上華族が餓餉屋の嚙を所もあらうに大極殿の前で殺した。そしてその行方がわからぬので警察の方でも困りはてゝ居た。新聞は初號活字で殺人子爵を書き立てた。桑原の寫真や餓餉屋の嚙の寫真まで貴重なるべき新聞紙面を無造作に使つた。一寸附け加へて置くが此の餓餉屋の嚙は新聞紙が書き立てる程の美しい顔は所有して居なかつた。堂々たる殿上華族の子爵様がお惚れになる程の美人では更でない。いや是はいさゝか脱線したが、さて桑原は山科の山中に一ヶ月も野ら犬や山猫の様に巢を作つて生活して居た。遂に桑原の祖先である菅原道真、即ち天神様の命日二十五日の日警察へ引かれて行つた。當時の新聞は太平洋がひつくり返つたか日本の國が三角になつた様書き立てた。しかしそれはお隣に住んで居た自分でもハ、ンと言つただけで何の影響もない。桑原と言ふ一人の男と餓餉屋の嚙と言ふ多分女だら

うと思ふこの二人の間に起つた事で、桑原が引かれて行つても、嚙が殺されてもトンと我々に關係が少くない。即ち是は法律の罰する殺人である。所が所もあらうに法律が罰しないからでもあらう、公然と學校と言ふ真正なる場所教育と言ふ看板をかけて毎日毎日可憐なる兒童や生徒を殺して居る。世の中の人々は手の内の玉である可愛い子供を毎日此の殺人場へ通はせて不思議とも思はぬ。何も知らぬ子供はかくて日々自分の靈を殺されて行く。桑原が嚙を殺したのは何の影響もないが、此の國家の將來を脊負ふべき有望の兒童生徒がかくして新しき芽生を摘まれてしまつて居る。殺人とは必ずしも肉體を殺すの意ではない。精神を殺されても矢張り殺人である。土岐哀果氏が教育實驗界誌上で、

私の長女が來年學齡に達するのですが、それを唯便宜上その現在の住宅の附近の小學校に入れると言ふ事が今から考へても苦痛です。劃一的に文字を習はせると言ふ事が主なだけの理解のない教師達に、どんな天才であるやもわからぬ芽をいぢらせ

る事は父として乃至は人類の一員としてすまぬ事の様に思ひます。——大正五年八

月

土岐氏は教育者ではない。故に教育の内情はあまりに御承知がないかも知れぬ。然るに是れだけの苦痛がある。私の如き教育界の経験は苦痛位な文字で説明しつくす事が出来ぬ程に現在の教育を恐れて居る。肉體を殺されるのはそれで終りである。幾百萬の児童が殺されてはたまつたものでない。全く殺人教育である。私は今此の殺人教育の内面に立ち至つて説明しなければならぬ。

・アムドレーエフは小説「闇」の中で「善人となるのは恥しい。」とリユーバの口から言はせて居る。何と力強い言葉ではないか。善を伴うて居る凡庸な社會に對して抛げ付けた怖ろしい擯斥呪詛の大音聲である。眞に善人となるのは恥しい。余等教育界に居たものは撰奨されたり叙勳されたりする事は恥しいと思ふ。凡そ社會の人間を二つに分類する事が出来る。第一は世の中に用ひられて居る者と——つまり容れられて居る者——でない者である。容れられて居ない者を又二つに分けて偉大なる人物と、水平線以下のマイナスとである。大賢は大愚の如しで、共に社會に容れられて居ない

のである。社會と言ふものは何時の世も變りはない平凡な人間の世界である。平凡な世界は平凡な者しか入れない。天才が其の時代を超越したものである以上、其の時代に入れられないのは當然の事である。キリストを見よ、ブルノーを見よ、ゲーテを見よ、ワイルドを見よ、かく擧げて來ると實際々限がないが大愚がその時代に入れられぬと等しく大賢も又その時代に入れられる事がない。或人が天才は一種の狂人であると言つたが、確に天才は狂人である。平凡な善を伴うて居る社會の人々から見れば狂人であらう。しかし之を天才の方から言はせると其時代の社會の人々は確に低能兒であると言ひ得やう。天才の言葉や行爲は到底平凡な俗人の感知し得ざる所である。理解し得ざる所である。新舊思想の衝突に依て親子すら心の合はぬ世の中に、まして偉大なる天才の敏感なる思想が理解出来やう筈がないのである。如此考へて來ると天才が時代に容易に入れられぬと言ふ事は幾何の定理や哲學の範疇よりも正しいと見てよい。而して社會の文化も教育も此の天才に依らなければ進歩しないのだから困つたものである。

つまり教育者にした所が同じ事である。教育的に何の主義も定見もなき盲目の官吏——俗吏——や官廳から、撰奨されたり推奨されたりして居る教育者が公々然と教育界の大道を白晝に濶歩して居る世の中だから困つたものだ。而して又多くの理解なき教育者は之等官廳の御用教員を以て吾々の理想的模範人物視して居るんだからたまつたものでない。天才的の教育者——そんな者は百に一つも無いかも知れぬ——が推奨されたり、叙勳されたりして居るのである。つまり私の言ふ現在に入れられて居る者に屬して、我々の語るに足らぬ者ばかりである。官吏や官廳に推奨されたり重要視されたりして居る教育者はつまり之等に使用されて居る御用商人の一種である。俗界を超脱して眞の自由なる教育の天地に猛進しようとするならば官廳と衝突せざるを得ぬ。つまり官僚教育でなければ上にも容れられぬし下にも受けが悪い事になる。官僚とは金も無いくせに頭の高い奴である。何しろ權利と言ふ頗る無暴なる利器を以て下教育者に向ふからたまらぬ。昔は武士の試斬と言ふものがあつて百姓町人なんどは大變に恐れたものである。今の教育界は何時でも官廳や俗吏が教育者を試斬す

る。デ教育者は徳川時代の百姓や町人の如くビクビク者である。權利を以て教育が出来ると思つて居る俗吏輩は困つたものであるが、試斬にビクビク者の教育者も更に困つたものである。しかし之も萬止むを得ない事になる。月に三十圓や五十圓の俸給をもらつて妻子一族を養つて行かんければならず。裏長屋のみすぼらしき二階の一室をかり受けて子供のオシメは毎日書齋の窓に日の丸の旗とまがふ程にひらめかしながら着るものは更なり、食ふものすら心にまかせぬ都會の教育者などが、徒に官吏の試斬りに會してはたまつたものでない。あゝ、斯くして明治大正の教育は既に失敗に終つた。確に失敗である。さて此の教育は今後どうなる事であらうか？ 考へて見るだけでも身の毛のよだつ様な感じがする。私の殺人教育論は先づ此所から出發せねばならぬ。

二 貞操をひさぐ者、豈賣笑婦のみならむや

賣笑婦と言ふものは肉の切り賣りをする者である。などゝ如何にも知つたらしく言

ふとお笑になるかもわからぬが、此の様な事は讀者のよく御承知の事だと考へて今更事新しく賣笑婦の定義なんかはしない事とする。却説直ちに本論に突入して私の考を聞いてもらいたい。私でも……「私でも」とでもを附けると私は大聖人であるかの如く自家廣告をする様であるが、決してそんな自家廣告ではなくて申すのです。私は新井白石の様に自家廣告をするのは大の嫌いだから、決してそんなお考でお讀みのなき様に申上げておく。……デ私でも一度や二度は賣笑婦と話した位の事はあるから……ヒヨツとすると一度や二度ではないかも知れぬが、まあそれはどうでもよいとして……次の話もまんざら作り話ではない事を承知して居てもらひ度い。却説、嘗て私は或る賣笑婦と話して、意外にも感銘した事があつた。當時の自分の日記をひもどいて其の娼婦の言に唯ならず真理の含まれて居る事に驚くと共に、今一度會つて話して見たいと思つて居るが、スデに今頃何所の天地に流浪するやら、どんな淪落なライフを送つて居るやら再び彼の哲學に接する事が出来なくなつた。教育上の議論をしようとする本書の巻頭から、どうも賣笑婦の話なんかを持ち來るてふ事

は、いさゝかならず權威を殺ぐと言ふ感じが無いではない。しかしそれは舊い考へ方で、決して賣笑婦だからとて賤しめたものではない。實に偉大なる大哲の言と等しき感銘を我輩に與へたのは彼であつた。賣笑婦にだつて偉い者も居るし、教育者だの視學だの文部大臣だのだつてそんなに偉い方々のお集りでもない。中には賣笑婦にもおとる人々もあるから、私は少しも赤面しないで此の物語を續けるであらう、大哲、大聖ソクラテースでもアゼンスの娼婦に人生觀を學んだではないか。私か一娼婦に學ぶに何の不思議もない。實際世の中の人は人間同志の會話にでも壁を設けるからよくない。彼は小學校の教師だから何も知らないなど、考へて居るのは中等教員である。何中等教員が何だ。外國語の一つ位を知つてなど、考へて居るのが大學の先生達だ。日本人は何人にも同じ様につき合ふ事を知らぬ人類なんだから困つてしまふ。之は別の話であるが、嘗て中學校の入學試験に「有無互に相通じ」と言ふ小學校の教科書の韻文が出た。之に漢字は假名をつけて略解を附せと言ふのである。入學志望の某小學校卒業生は小學校で先生から教はつた通りに「イウムタガヒに」と言ふ風に「有無」を

「イウム」と假名をつけた。此の生徒は幸にして入學が出来たが、入學して後先生の曰くが面白い。「有無」は「イウム」ではない。「ウム」だ。生徒は眞面目になつて、デモ私は小學校で「イウム」と習ひました。と。先生曰く「何？小學校で習つた！小學校の先生が何知つて居やう。小學校の先生なんかこんなむつかしい事は知らんのだ。」と。ケレども此所の韻文は七五調となつて居る。「ウム」と讀むと字が足らぬ。何程馬鹿の小學校の先生かは知らぬが、「有無」を「ウム」と讀む位な事は知つて居るだらう。しかし此所では字が足らぬのと「ウムタガヒニ」と讀むとゴロが悪い。此所では確に「イウム」でなければならぬ。「イウム」と讀む事は此の場合でなくても全然誤りではない。笑つた者が反つて笑はれなければならぬ。トカク日本人は自分でエラがり度がる。自分の頭のないクセに壁を設けて話をする。誰とでも同じ様につき合ふ事を知らぬ。人間と人間との談話だと考へてくれぬ。何己よりはアカヌ奴だとしてしまふ。

話が一寸横へソレたが之は又改めて書く事にして、此の私の話かけた事を讀ける事

とする。デ私が賣笑婦と話した事も決して悪い事でもない。私は知事の前であらうが大臣の前であらうが、娼妓の前であらうが私の話は少しも變らぬ。己と同じ人間だと對する。子供にでも決して大人に對する時に變りない。デ私が眞剣で話して居るんだと思つて聞いて被下。本書が婦人方に讀者を得た場合も決して赤面して被下いまずな。大哲ソクラテースでも娼妓の言に感銘したではないか。人間は體驗してこそ初めて理解する事が出来るのだ。

「お前は、如何なる理由や境遇があらうとも、人生の最悲惨事、最破廉恥である此業を、如何なる考から撰んだのか？」私の娼妓に對する質問はこうであつた。ところが實際私が問ふた言葉はこの様なむつかしい言ひ方とは違つて、もつともつと平凡に通俗に言つたのであつたが、此の娼妓は初め看護婦をして居て、後横濱の居留地に居たとかで英語と佛語はスラスラと喋り立てるなかなかの理窟屋であつたので大變に私の問もよく理解して聞いてもくれたし答へてもくれた。私の間に對して彼の返答は眞に社會の裏面を洞察し、人生生活の致命處を指摘して居る。今その返答の内、本書に

必要なだけを書いて見る事にする。實際の問答はまだ長く長かつたのである。

私は此の仕事をして私に適當した仕事だなどは夢思つて居りませぬ。丁度壯丁が兵役を以て自分に最も適當した仕事だと思はぬ様に。實際此の世の中が神の樂園であつたならば決して兵士を置いて戦争をしたり殺し會つたりする必要はありませぬ。兵士と言ふ仕事は要は殺し會ひではありませぬか。誰れだつて人を殺したり殺されたりする様な仕事を好むものがあるものですか。私だつて左様です。どんな娼妓だつてこんな仕事を好んでする者がありませうか。しかし私は或る止むに止まれぬ自己の境遇から此の仕事を選ばなければならぬ事になりました。いや私が撰んだのではない。流れ流れて此の淵に沈んでしまつたのです。高峰風草や木がなびく様に、私も此の深淵に沈んでしまつたのです。沈む迄には随分に悶躁いたのです。しかし滔々と流れよる奔流は悶躁いても悶躁いても遂に浮ぶ瀬がなかつたのです。流れて浮ぶせゝらぎのなき私は此の深淵に身を沈めて憐れな運命に翻弄さるゝ残骸を枕席に横へて居ますし、かし私のみならず多くの我國の乃至は全世界のかうした婦女子はその大多数が皆私の

様な道を踏んで、最後は金の爲に此の仕事に従はなければならぬ運命であつたのでせう。之は唯平凡な世間普通一般の娼婦の取る經路なのでせう。そして私等はかうして毎日の肉の切り賣りをして居ます。しかし、しかし私は、決して決して精神迄も賣つては居ませぬ。世の中には堂々たる紳士にして私等一般娼婦の如き肉の切り賣りをして居る人々が澤山にあるではありませぬか。肉の切り賣りどころか、精神迄も、此の尊かるべき靈の切り賣りをして居て少しも不思議とも何とも思つて居ない男子達が——澤山の男子達が——否とよ我國大多數の男子達が——澤山にウチヨウチヨして居るではないかと思ひます。私達はそれ等の男子達と比較して見ると私の職業がさまで悪い事をして居るとは思はず。男子に劣つて居るとも思はれませぬ。種々お話をしなければお解になりませぬでせうが先づ私の考を今少し聞いて被下い。」とて大變に眞面目に話し出した。實は自分を新聞記者だと思つたらしい。彼が社會を罵り、社會を怨み社會を誹り切つて居る心理がよく自分に受け取れたので自分も眞面目になつて聞いてやつた。「先生まあよく聞いて被下いよ。私、こつた職業に従事して居るのは前に

も申す通り男子が男盛りになつて必らず兵役に服すべき義務があるのと同じです。私
 はいつも兵士に行つて居るのだと思つて居ます。自我を忘れ、自我を没脚し、主義も
 主張も捨て、唯是れ帝國の爲と、あの趣味も樂もなき仕事に従事して居る兵營の男
 子達は、上官の命は是れ朕が命と心得て、自分の精神に反らざる様な事でも甘じてし
 なければならぬ。今日は自分の思ふ通り考へる通りなど、言ふ事は少しも出来ない。
 彼等は電光石火物ともせずで自分の身も心も共に捧げて居るのでせう。對者は國家の
 大であるが私がお客に身を捧げると同じです。お花に上つて居る間は私の身體はお客
 の自由です。貞操を破られやうが如何しられやうが私が拒否する事は決して出来ない
 此の世界が總てに神聖な神の樂園であつたならば兵士も要りません、私の様な娼
 婦も不必要なのに違ひありません。若しか我々の仕事が悪いとならば社會は此の悲惨
 なる婦人達を救ふべきです。彼は此所迄話して來てしばらく胸に手をあて、ため息を
 した。そして思ひ出した様に興奮した様子を見せた。「大體娼婦娼婦と賤しめますが
 此の賤しい娼婦を買ふべき男子達も又娼婦と同じではありませぬか。買ふ者がなければ

ば賣る者も無い筈なんでせう。男子は花代を拂つて娼婦を買ふ。娼婦は花代を男子に
 出させて男子を買つて居る。つまりお客は澤山の花代を拂つて私達娼婦の所へ身を
 賣りに御出になるのでせう。女子が貞操をひさぐのが悪いのならば男子が清かるべき
 童貞を賣つて居るのも同じく悪いと申さんければなりません。貞操とか童貞とかは
 お互に半分々々ではありませぬか。女の貞操をひさぐのが悪くて男の童貞を賣るのが
 悪くないと言ふ非論理な理由は少しもない。娼婦の肉を買ふものは娼婦に肉を賣る者
 です。若しか私に精神までも捧げ得べきお客がありますならばそれは眞の夫婦であつ
 て決して汚れたものではありません。娼婦だからとてラブはあります。若し愛なき夫
 婦がありますならば假令それが法律上風俗習慣上で正當なる手續のもとに成立した
 ものであつても娼婦と少しも變る所がありません。唯肉の交際ばかりではありませ
 ぬか。」

私は此の貧弱なる一娼婦、此のあはれなる賤業婦から聞いた十数分間の話は堂々た
 る大教育者の言より以上に私を感動せしめた。私は此の娼婦の言を以て博士の論文に

も優つて居ると思つた。彼が「娼婦を賤しいと言ふならば、娼婦を買ふ者も矢張り賤しい」と言つた一言は確に正當であると思つた。世には眞理と正義に向つて突進する事を看板として堂々紳士然としながら、内面官僚に阿諛して自己の尊かるべき主義、主張てふ立派なる貞操を賣り、唯是れ自分の上達と、出世をのみ希望して居る者がある。否とよ現在の大多数が皆それである。之等は自己の靈肉を共に賣つて居るものである。菊地寛氏の文藝往來にバアナアド・シヨオの言葉を引いて、「現代の如き社會組織に於ては婦人が生活の爲に賣淫する必要に迫らるゝ如くに、男子も又生活の爲にその節操を賣りつゝあるものが多い。余は政治家、學者、文藝家等に於て賣淫の事實の甚だ多きを見る。」と言つて居るのはよくその要を盡して居て面白いと思ふ。氏は尙、男子が現代の社會に於てその男子的節操を維持する爲に必要なは經濟的獨立なり小説家にして作家の良心を金の爲に賣らざるを得ざるは、經濟的獨立なき爲なり。われ作家の末席に在りて常々思ふ事は作家にも恒産の必要なる事なり」と。

私は此所に教職にある人々の賣笑的實例を擧げるべく頗る容易である。それはあま

りに澤山の實例を持つて居るからである。換言すれば私の知つて居る教育者は殆んど悉くが賣笑婦と變りはない。否賣笑婦にも劣つて居るからである。しかし私の見聞は私の足跡の到る所と新聞や雑誌の報する所に限られて居るから、之を全國に求めらば随分に極端な例も出て來ようと思ふ。例へば視學と稱する頭のない官僚、似而否教育者の所へペコペコと頭を下げて物品を持參する。持參するのはおしくしておしくて仕方がないがさりとて持參せざれば自分の榮達に大變な關係がある。あはれ薄給に泣く教育者も、妻女や子供の着物も先づ買はないで苦しい所帯の一部を裂いて之を官僚に貢がなければならぬ。貢ぐ者が悪いか貢がるゝ者が悪いかの問題は別として、兎に角是れが常體である。貢ぐ者も貢がるゝ者も決して不思議とも思はずあやしと反省する者もない。かくして頭の低級な教育者も追々と地位の向上をはかる。それは良いとしても國家將來の教育を考へ偉大なる人格を有する教育者はあはれ是筆の低級教育者に先を越されて悲惨なる生活に凋落して行くのである。教育眼のなき兒童の父兄等は男女教員の關係問題などには大業に騒ぐがこんな事には一向御承知のない様である

男女關係位は何でもない事である。否之が正當なる愛の上に立つた關係ならば大に獎勵すべきである。戀愛もなし得ない様な熱も血もなき教育者がゴロゴロして居る間は教育界も寂寥たるものである。男女關係については別に節を改めて書く事とするが今此所に一つの實際の挿話を書いて見度いと思ふ。

所は〇〇市である。〇〇町〇〇に近くU小學校と言ふのがある。此の小學校は〇〇市に於ても有名な學校で官僚の御おぼえことに目出度く、市内に於ける中心學校とまで唱はれた事があつた。そんな事はどうでも良いとして此所にNと言ふ校長が居た。子守校長と言へばおそらく〇〇市の教職に居る幾千の教育者は知らぬ者はあるまいと思ふ。子守校長の由緒來歴はかうである。學問もなければ思想にも暗く人格は下劣と言ふ言葉を以てしても尙十分に評し得ない程に低級なN校長が、如何なる理由でか〇〇市有数の大小學校長の位置を占め得たであらうか。萬人等しく不思議の眼を以て見た。蓋し不思議でも何でもなかつた。毎日學校が放課の時間になると何なりと考へ出した持參品を手にして校門を御出になる。足の向ふ所はいつもU視學の宅である子守

校長のニツクネームは尙謎が解けないが視學先生には二三人の子供がある。抱いて遊ばなければならぬニツク三ツの子供や、電車道路へ出るのが危険だからたれか付いて居なければならぬのや、Nは毎日かくして視學の子守役をつとめたのであつた。果然何人の發見にやあらむ子守校長のニツクネームは市内に有名なものとなつてしまつた。是れ位の事は尙許して置いても良いであらう。果然U小學校長と言ふ榮冠は彼の頭上に下つた。彼の經營するU校は一通りや二通りではすまなかつた。Nの人格の下劣を言ふ者は日に加はつた。而して皆首になつた。今は占め得たりと思ひけん。Nは毎日學校では一箇年數萬圓の經費を自由にした。自己に阿諛する者はドシドシ増俸した。しかし阿諛する者は女子に多かつた。果せる哉墮胎問題が起つた。男色問題が起つた。髪切り問題は起つた。親書の秘密を漏洩した問題が起つた。兒童生徒が教員の爲に妊娠したと言ふ問題が起つた。如斯有様で社會はソレ見たかとはかり皆Nに同情する者はなかつた。同情する者は唯一人U視學のみであつた。然るにNは平氣で居た。鐵面皮にも子守をやつて居ればどんなにかなると思つて居た。然るにはからざりきU視

學は〇〇市へ轉じた。自己の位置は危険になつた。しかし既に此の時には彼はすでに相當の財産を作つて居た。しかし貪欲なNは更に悪智恵をしばり出した。實際無學な低級な人物には又それに相當した貪欲を考へ出す者である。

Nは更に新しき視學を自己藥籠中の者としてしまつた。あはれ何事も知らざる無邪氣なる兒童生徒は此の奸策に翻弄さるゝ事をも知らず貴重なる長き未來を誤りつゝ、あるのである。けれども社會の批評は刻々にせまつた。彼は遂に居たゝまらなくなつて來た。如何に鐵面皮でも遂には心に恥ぢた。彼はU校よりも更に大なる學校に轉じた。而して今に於ても同じ過去の奸策を弄して居ると聞く。Nの宅の前を通るとU校のオルガンの音が今に音を立てゝひやくのを聞くであらう。Nの娘C子が師範入學の時代より備品臺帳の不完全なるまゝに持ち出した公器である。

私はこんな細かい話を持ち出さうとは思つて居なかつた。しかし筆がすべつて此所まで書いてしまつた。私は話の序に更に此の奇怪なる挿話の他の一面を物語るであらう。舞臺は矢張りU視學に關係する。何人が言ひ出しけむ。U視學の宅の風呂はいつ

も菓子箱でわかすと。私は風呂をわかつて居る所を見た者ではないから確實には言ひ兼ねるが、私が田舎で大野と言ふ郡視學の事を聞いた事があつたが、郡視學の宅は衣類は昔から購入した事がなかつたと言ふ事も知つて居る。或る男は高島屋の呉服切手五十圓也で榮轉をしたとか、或る女はその貞操を視學にさゝげて學校内で男教員をボロカスにやつてのけたとか、實際こんな細かい事は數しらすあるにちがひないと思ふ。U視學の風呂は毎日菓子箱でわいたと言ふ事もあまりに大それた話ではあるまい。或る郡部から市内へ轉じ度いと希望を持つた青年教育家が市役所に出頭して履歴書をひろげ、U視學に市内轉任を願つた。所がU視學テンデ御あいてになさらぬ。今の所満員だから採用相かなはぬ。けんもほろゝの挨拶に青年教育家は頗る落膽して引き取つた。路々フと思ひついた事は視學が大變に酒がすぎだと言ふ事である。「ヨシ」直に思案一決、朝日ビールの特製一ダースを購入して直ちに車を飛ばし、U視學の宅を訪ふた。そして車夫に命じて此の持參品を持たしめ、先程は市役所の方で御多用中御手を取り誠に恐れ入りました、之は誠に失禮ながらさし上げてくれとの事で持參致しまし

た。「車夫は玄關口へビールーダースを置いて立ち去らうとした。所が丁度U視學はその時チャンと歸宅して居た所であつた。「オ客様は。「オ客様は只今門先の車の上で御まぢ被下います。「ウンさうか、一寸來てもらつてくれ。「ハイ。車夫はペコリと一つ頭を下げて門先へ出て行つた。之と相前後して本人、即ち青年教育家は視學の玄關口に現れた。「オヤまあ上り給へ、どうぞこちらへ。「しめたつ?! 青年教育家は泰然と奥坐敷へ通つた。成功! 視學は先に役所で面會した時と顔の形は變つて居ない。あのグリ〜目丸である。眼鏡越しで話す男である。髯も別に短かくなつては居ない。矢張り同じ男なんだ。但し註を加ふるならば其の態度や言葉である。マルで役所と打つて變つた親切らしさに青年はしばしアキレて言葉も出し得なかつた。「役所の方で考へた時は満員だと思つたがね、君が歸つてから一人缺員のある事を知つた。で直ちに採用致す事にしよう。「計畫はテツキリの中、心の中で笑ひながらも百拜して退出に及んだ。U視學は〇〇市の教育課長として轉じた。〇〇市に於てもあまり面白からざりし一人の教員。職を辭して有り切りの貯金一百圓を引き出し〇〇市へはせた。何か商

賣もがなと考へた末、菓子箱に此の有り切りの財産一百圓也を下敷として課長Uの宅をたゝいた。そして理化學の機械を賣つて居る事を告げた。「何分ヨロシクねがひます。「の一言を残して退出した。今晚は宿賃もなくなつてしまつた。親友某の宅を訪ふて一夜の宿を乞ふた。明日市役所へ出頭を命ぜられてマンマと御用商人として指定せられ、市内各學校の理科の注文を一手に引き受ける事が出来た。何所にでも御用商人と言ふものがある。前に引いたN校長なんか此の御用商人をウマク使用したものだつた。注文もしない物の金銭を請求させるのは此の御用商人に限る。物品のないのは校長はチャンと知つて居る默認して置く。そして無形の請求書の金銭は、校長に入る事になる。〇〇市は當時各學校の理科の機械は皆市の方で一定に市に於て購入する事になつて居たとの事である。こんな事實は一體何を語るものであらう。

私は大分に細かく書き出した。デあまりクダラヌ話に讀者の倦怠をまねかん事をおそれてクドクドしくは話さない事にしよう。がしかし今一つの挿話は是非本書より割愛する事が惜しいと思ふから述べて置く。或る市の教育課長の妻君は花や茶が上手だ

との事であつた。課長と同國であると言ふ他に何等一面識もなき某教員は、度々宅を訪ふた。まではよろしいとして自分の妻にも度々訪問せしめて茶や花の教授を乞はしめた。表面決して茶や花の教授の看板を出して居るのでもなければ初めは課長も妻君も困つて居たがしかし家庭と家庭との連絡は是れで出来た。かくして彼の俸級は昇天の勢であつた。で是れだけ聞けば表面は頗る美しいのであるが其の内面に於ける魂膽は真に下劣極まるもので、此の暗中飛躍は確に命中して驚くべき増俸になつた。此の男は大分に呼吸器の方面が悪くて同輩の者もそれとはなく避けて居た。が病氣位は肺病であらうが何であらうが引きの上には少しも効を奏しなかつた。

私は澤山の實例を所有して居る。讀者もそれぞれ澤山の例を御承知だと思ふが、一事は萬事、唯是れだけで十分に説明して居ると言つて良いと思ふ。私はあまりに澤山此所に書きつらねすぎた。がしかし要は教育界は——否とよ我國大多數の教育界は皆大同小異である。小學校と言はず中等學校と言はずすべて軌を一にして居る。本書には更に中等學校の方面も書いて見たいと思ふが、要するに殺人教育が行はれて居るん

だ、何も不思議ではない。官僚的教育に殺人教育はつきものである。教育は真正でなければならぬ。自由でなければならぬ。眞の教育者は人格の力によらなければ不可能である。

三 神聖教育の破壊と官僚教育の建設

實際日本人は困つた性質をもつて居る。あはれなる小島の根性の日本人よ。政治上の事はさて置く。例へば都會に於ても何々縣人會。何郡出身者會。驚くべきは何村出身者會。私は決してかゝる會合を悪いとは言はぬ。しかし向三軒兩どなり皆日本人ではないか。轉居して他の町へ行くと二三日はソシラ顔をして居るが、日ならずして「あなたは何國何村の方ださうですね、私も何郡何村の何某、故あつて三年前此の地に參り」とあつて「何卒御心安くねがひます。」となり直ちに御心安くなつてしまふ。そして他の府縣の者を排斥する。外國へ行つても東京府や大阪府が出来、神戸市や横濱市が出来。何町何村も出来て他の日本人を排斥する。同志討をやる。そして

日本人の小島の根性を遺憾なく發揮してしまひ、日本人排斥運動となる。反ストライキ運動と言ふヒンソな事をやつて米國人にいやらされてしまふ。何も日本人と言ふ考を忘れてしまつて何縣人である何郡何村人である。自分さへ良ければ良い。他の日本人は外國人と同じ事である。同情もなければ博愛もない。成るべく上の方の權力のある者を落して自分が甘い汁を吸はうとする。こんな國では博愛を目的とする赤十字社や愛國婦人會などの發達しさうな氣づかひはない。赤十字社にした所がどんな目的かも理解しない者どもが良好い加減な經營をして居る。随分に澤山な金をかけて一たい何をして居るのだからぬ。私は矢張正社員であつたが、此の頃斷つてしまつた。私一人が退會したつて大々的の社には何の影響もあるまいし、わけのわからぬ變な看板のみ大きい博愛事業よりも私には私の仕事がある。私は實際赤十字社や愛國婦人會なるものは全然不賛成ではないが、日本人のやつて居る之等の會は全然不賛成である。私は一年に二圓や三圓の金をおしむのではないが、こんな會合に金を出すのが氣分が悪から斷つてしまつた。日本人の小島の根性にては到底博愛なんかの出来る民族で

はない。博愛どころか他人を迫害してやらうと考へて居る者ばかりが多い。博愛と迫害とはよく似た音であつて其の實質は黒と白とである。天と地と程ちがふ。赤十字社や愛國婦人會のどんな立派な建物があらうと、どんなに澤山の金が集まらうと、眞の博愛なんか日本人には何が出来る者か。皆官僚の良好い道具である。官僚の關係した似而否博愛である。こんなものに金錢を出す位なら門に立つてあはれなる國民の爲に犠牲になつた廢兵共の爲にはかつてやるが良い。實際日本人は困つた民族である。外國へ行つては少しは心得ると良い。千里比隣の文明な社會では旅の恥はかき棄ててではない。日本式官僚式を發揮してしまふ。官僚萬能の民族である。何々官衙御用達。何々官立學校御用達、何でもかでも御用達で成功するのが日本商人である。日本の大建築物は皆官僚のものである。官僚萬能である。弱き小學校教員の前で大臣風をふかす視學先生も一步長官の前では頭はペコペコである。眞理も理想もあつたものか。此所に教育の無方針が生れる、眞理と理想とを曲げて官僚の使丁となる督學官に督せらるゝ下には眞理や理想を曲げた教育が行はれる即

ち殺人教育が行はれるのである。こんな教育に甘んじて堂中の玉を毎日學校へ通はせて居る親の心が知れぬ。實際教育者は安定して教育する事が出来ぬ。薄き月給に妻子一族を養ひ、裏長屋の一隅に井底よりもせまき天地を見つゝ、己が門弟の訪に來るも恥しうなむと、日々官僚の試しざりに會はむ事をのみおそれて、あはれ文明の利器も使ひ得ず、「電車にのると高うつくから」と。テクテク歩を運ぶ破れ洋服の小學校教員の生活が、彼等官僚には快と見ゆるなり。人をあはれむの情なき官僚は小學校の教員を見て己が使丁とおもへるらし。使令小學校教員は此の虐待を以てして、尙且つ甘んずるとせよ兒童の教師に對する態度は如何なるぞ。私は國家教育の凋落甚だしき極みなるを見て、短評するの勇氣出でず。筆を机上に置かんとして置く能はざるものがあるのである。

小學校教員は法の定むる所によると随分に澤山の金がもらへる様になつて居る。丁度藥屋の廣告の様だ。何病、何病と藥屋の廣告ほど薬がきくものか否かは醫者でない私には解らないが、小學校教員に關する給與金は法文の上では随分あるのであるから

實際それが法の通りに實行出来るものならば決して赤貧に甘んじなくても良いのであるが、實は藥屋の廣告と何ぞ撰ばむ。少しの御利役もないのである。法は絶對である法を以て給與すべしと命じて、位置に不安定なる小學校教員は強く主張も出来なければ、有難き御剃刀をいたゞく事すら出来ぬのである。文部省が如何に法規を改正しても、如何に小學校教員の優遇を叫んでも、あはれ運命なき生命は如何なる醫師と雖も引き止め得べからざる如く、薄命なる小學校教員よ。弱き者は汝有衆なりけり。甘い所へは蟻がつき、土方の勞働賃金は親方が頭をはつて行く世なるぞかし。

随分に小學校教員の手當は本俸の外に多い様に思ふ。例へば移轉料と言ひ住宅料と言ひ年功加俸と言ひ年末賞與と言ひ、さては旅費出張費等を加ふるならば随分なる金になる。と言ふのは之を正當に出してくれさへすればであるが實は何所も左様でないのである。丁度泣く子に菓子的一片を與ふる如く、まるで涙金である。名ばかりは何々費何々料と澤山に並んで居てその實は殆んど金としては使ひ様もない程のお剃刀をいたゞくのである。此所に奇怪な事は法文で「給すべし」と規定しても「何卒之だけは

寄附してもらひ度し、とか「棄權してもらひ度し。」と言ふ事で治まるのが多い。何たるヒンソな事であるか。小學校教員の移轉料や出張旅費をわづかばかりの涙金を寄附してもらつたり棄權してもらつたりしなければ立ち行かぬのならば、いさまじう小學校をつぶしてしまつたらいいだらう。

之について〇〇市の例を取るところである。移轉料や轉任旅費は之を棄權せよと言ふ約束でなければ市に採用はしてもらへない事になつて居る相だ。〇〇市と言ふ大々的の都市に於て一小學校教員の移轉料や旅費を棄權しなければならぬか。之が山間僻邑の村であり、村の經濟の貧弱なる所に於ては或は之を給與するにさしつかへる事があるかも知れぬが、〇〇市と言は、東洋はおろか世界に於ても大きい方に數へらるゝ都市ではないか。その〇〇市に於て一小貧弱なる小學校教員の旅費や移轉料を棄權せしめなければならぬと言ふ事は〇〇市のみならず日本の恥ではないか。文部省は給すべしと命じて居て〇〇市のみは例外とすとは言つて居ない事は法文に明である。抑々棄權とは何事であるか。我國は立憲國ではないか。その立憲國民に棄權を強制する

とは何事であるか。而して貧弱なる小學校教育者は此の屈辱も甘んじて受けなければならぬ。實はこうである寄附すると言ふ事は少しばかりの金だから大さうげに手續や用途に困る。そこで棄權させてしまふのである。しかし之等の經費は豫算にないのかと言へばさうでない。經費はあるのであるが然らば何故に之を給さないか？之等の經費は校長會なる官僚の御用商人が私して居るのである。校長會が部下教員には秘密にその膏血をしぼつて居るのである。親方が子分の頭をはる土方階級のするてふ事を己れもして見むとするものは知らぬが何とヒンソな事ではないか。何たる醜態事ではないか。只今でも左様である。

何所かでも書いて置いた通り校長なんか言ふものは、眞に現代教育の如何なるものを自覺して居る様な男は一人も居ない。居ないのみならず皆古い頭の所有者で、頭すでに徴が生えて居る。カラして部下教員を月旦する能力を持つて居ない。校長連中よりも部下教員の方がズツとえらい人々があるのであるから、……否とよ多くの小中學校が左様だから……致し方がない。古い頭と言ふ奴は困つたもので新しい事を進

歩した事を言ふてやつても少しも理解する程に解つた奴が居ないんだから仕方がない。視學様が御巡回になると神様が佛様の御座つた様にして祭り上げる。視學なんか言つたて教育課長だと言つたて皆御役人である。御役人と言ふ者は法律を背景として權利で以てやり通すんだからたまらぬ。教育が權利で出来るものなら易々たるものだ。即ち是れが官僚教育である。デモクラシーがどんなものか御解りにならぬ。文部大臣や自分の懐ばかりふくらす文部大臣の下にハイ／＼言つて頭をペコ／＼下げて居る大學の先生達もあるんだからたまらぬ。元來日本の大學でも官僚學者が多い。つまり御用學者である。人が知らぬかと思つて平氣で居るが内心は野心満々たるもので。時が来れば己れが總長になつてやらう、己れが學長になつてやらう。いや己れは今度大臣にならう。議員になつて一と儲けしてやらうなど、考へて居る連中が上位を占めて居るんだ。デそんな大學教授連の講義はいつも微の生えた十年も十五年も前の原稿で教授して居るんだから新しいとか改良とか言ふ事は少しもない、皆外國の學者の受け賣りかヤキ直しばかりである。學問は金錢の事や名譽の事を考へて出来るものではない。

己れは一つ博士になつてやらうなど、考へて居る様な奴にロクな學者はない。夏目さんが博士を返してしまつた所は流石は夏目さんの夏目さんたる所でエライと思ふ。夏目さんが博士を返した時、三宅博士であつたか？ 確には記憶して居ないが、夏目君は博士を返した相だがアレは博士に執着がある事を證明して居る。博士號なんか有つても無くつてもどうでも良いものだ。どうでも良いものならば、ヤルと言ふ時貰つて置いたつて良いではないか。執着があるからヤルと言ふものを辭退しなければならぬ。ソんなに固くなつて返したりする必要はないではないか。と批評した事を記憶して居る。けれども多感なる天才の頭腦はちがふ。官僚輩の授與するてふケガラハシキ博士號なんかは受けるに忍びないのである。日本人は支那人と同じ事だ。肩書で賣れて行く肩書さへ立派であれば内容はどうでも良いんだ。ソレに論文なんと言ふものを提出して博士號を被下いなにか請求して居る學者が澤山あるんだからタマらぬ。昔の人は此の邊はたしかにエライ所がある。肩書なんか執着して居る者は少ない、ことに高僧などにたると随分にエライ人が澤山出て居る。元來博士號なんかは自分で請求する性

質のものでは御座らぬ。カラして夏目さんなんかは文學博士夏目など、著書にでも書いてはテンデ御話にならぬ。唯單に夏目と書いてある方が有難い。現今何々博士など言はるゝ人が著書なんかは何々博士何某など、表紙にも中にも又はカバーまで博士號を書きあらはして居るのを見るとなさげなくなる。あんなに博士を看板にしなればならないのだらうかと。博士など言ふ者は他人が見て大に崇拜し尊敬して自然に博士とあがめるのでなければならぬ。自分が請求する様な鐵面皮なものではない。日本人は由來どうも馬鹿で博士やの學士やの肩書を見ると唯有難い人だエライ人だなど、考へてしまふ。自分の村や町の人であればエライ人でもあまりにエラク思はぬ。他から出て來た人はアマリ感心出來ない様な人でもヒゲでも生やして一寸風采でも良いと何とエライ人だなどと思ふ。之では日本も進歩せんツイ。殊に立派なカバンなんかを引つさげてフロツクなどを御召になつて居るならば、すぐ感心してしまふ。之は野蕃人の風俗性質をよく現はして居る。朝鮮なんかでも官僚や教員や巡查などは立派な風をして、金ピカで居ないと言ふ事をきかぬ相な。日本の内地人でも少しも變りはない。何

々博士でビツクリしてしまふ。殊に我國は權力の遺傳する國で、ロクでもない華族なんか言ふ貴族が居て、民百姓の特權を占領してしまつて居る。馬鹿でもエライのが日本の國の族姓である。華族だつて人間だ。何も自働車の運轉手と戀に落ちた鎌子をせむる必要は更らない。運轉手だつて堂々たる人間ではないか。鎌子も女である。美しい男に惚れるのはあたり前だ。私だつて惚れ度い人は澤山あるが、不幸にして先方が御氣に召さぬだけの事だ。惚れたり惚れられたりする事は人間の本性だから致し方がない。父母の色慾に依つて今日自分があるのだ。自分が今日あるのは父母の色慾の結晶だ。何でもない事でないか。鎌子だから戀をしてはならぬと言ふ事はない。鎌子の父母が鎌子の問題で大官を辭したとか當時の新聞に傳へたが、何も自ら責を引いて辭退する必要もない。鎌子が戀に落ちるのが悪ければ鎌子を生んだ父母の色慾そのものが悪いと見なければならぬ。民百姓は駈落しても新聞にはテンデ問題にしないが華族が駈落ちすると太平洋がヒツクリ返つた様に書き立てる。何も華族だから駈落ちがよくない民百姓だから良いなど言ふ道徳はない筈だ。之等は皆過去に於ける教育の失敗

から来た誤解である。然り殺人教育が行はれて居たのである。話が變な所にソレてしまつたが又もとの官僚教育にもどる。喋らして置くとは何ぼでも喋る奴だと、讀者は思はれるかも知れぬ。シカシ私は言ふべき事はザツクバランに言つてしまひ度い性質なんです。かうして何でも私の心に浮んで来た事は漏れなく言ひ度い、ガかなしい事には紙面があまり澤山にない。カラ割愛しなければならぬ點が澤山ある。マア聞いて被下、讀者の御爲にならぬ様な事は言はないつもりで居る。あまり御役人様の悪口を言ふと御叱りを被るかも知れない。御叱りを被つたら其の時の事さ。何もお叱りを恐れる事もいらぬ。ガしかし出版禁止をやられると如何にお喋りのすきな著者もいさゝか困るから、其の邊も心得て書くつもりで居る。喋り度うて口まで大方出かけて居て、黙しなればならぬ處もある。

マン、フウ、シンク。人は物おもふ。物をおもはぬ人はないが、おもふて價值ある様な事を思ふ人は少ない。知者はたしかに尊いものだ。我國の官僚に今少しおもふて價值ある様な事を思ふ人があつてほしい。

外來思想を恐れるのは官僚である。自由解放の叫びを恐れるのも官僚である。見よ人類の歴史は自由と解放を要求する記録ではないか。外來思想によりてはぐまれたる國民道徳ではないか。世界の歴史は僧侶貴族商工階級の解放を行ひ、今や將に女子や無産者の解放に着手しつゝある。而して此の解放の歴史は殆んど多くが外來思想の御恩ではないか。言は、我國の思想史の主潮は是れ殆んど外來思想だと言つてよいのではないか。民本主義など、言は、官僚は直ちに危険思想なりとして國體問題と結びつける。爰ぞ知らん國體の尊嚴に累を及ぼす者は寧ろ彼等官僚輩の無智である。彼等こそは眞に危険人物と稱すべきである。教育も此の通りだ。主義も主張もうちすて、唯官僚の使丁となつて居りさへすれば御氣げんが良いが、何分の理屈でも言はうものなら、理が非でも非が理でも首になつてしまふ。良くて悪くても良い唯頭を下げて忠勤ぶりを發揮するだけで良いのである。まことに教育の官僚化は困つたものだ。

師範學校長なんかは官僚でないといつたらぬ。自分の部下の教諭を二人も府視學にして間接に知事の御氣げんを取る。師範の附屬には優良學校を附許して知事の御刺刀を

いたゞく。何も教育の爲にやつて居るんでも何でもない。自分の榮達と官僚に阿諛する道具として教育をやつて居る。小學校の先生が六年の男女兒童に豫習てふものを作る。「己れは本年何人中學校へ入れた。」「イヤ己れは何人女學校へ入れた。」と。かくして中等學校へ一人でも多く入學させた者は増俸もしてもらへる。よき位置にも進める。マルで小學校は女學校や中學校の豫備學校の様なものだ。ソシてかくしなれば官僚の御おぼえが良くないんだ。デ我をきそふて入學の準備に全勢力をそゞぐ。馬鹿も此處に至りて極まり、教育を愚弄する事の甚だしき極みである。産なくして玉の輿に駕せむは決して難き事にあらずで、諸君、力なくしても校長の椅子を占めむ事は容易である。諸君が若し一日も早く校長となり首席となる事を欲するならば、諸君が過去に於ける神聖なる教育法、地味なる教育法を棄てよ。而して貧しき俸給の一部分を割きて課長や視學校長等の甘言を買へ、尙出來るならば視學や課長と同じ學校を出で來れ。廣島高師出の視學の下には廣島高師出の校長が集り、東京高師出の校長の下には其の同國の人や同村の人々が集る。カクして日本人での同志討をやる。

實際日本には閥と言ふものがある。大體之がよくない。門閥と言ふものも一種の閥だ。家柄が良いとか悪いとか言ふ。家柄がどうしたんだ。同じ人間でないか。丁度先に語つた通り、自働車の運轉手だつて人間だ。堂々たる日本人だ。華族の女が惚れたつて不思議でも何でもない事だ。ソレをやかましよう言ふのは閥と言ふ見地に立つから問題になる。華族と言ふ一つの無意味なる閥があるからよくない。人間に生れながらにして等差をつける。士族だとか平民だとか、中には今でも新平民だとか言ふ人もある。つまり。權力の遺傳だ。權力が遺傳する様な變な事が公然と認められて居るんだからたまらぬ。華族にだつて娼婦よりひどい娘がある。京都は随分に貧乏華族の多い所だ。その華族の娘に私が知つて居るだけでも随分に娼婦よりひどいものもある。新平民にだつて大學の教授もあれば博士も澤山出て居る。ソレは何も不思議な事ではない同じ人間なもの。然るに閥と言ふ變な階級をつける。神は人間を創造する時にこんな不自然な階級なんかをつけて置かなかつた筈だ。大體閥と言ふ困つたものがある。之は早くどうかしななければならぬ。乃木大將があれだけの遺言を無にして閥を立て、居る

困つた男が日本人にあるんだからひどい世の中だ。鐵面皮も程がある。閥は更に引いて學閥と言ふものがある。同じ學校出が結束する。ソシテ他の學校出を排斥する。官學を出たものは力がなくてもいばりちらす。ソシテ私立學校を排斥する。官途につく者にも官學出が多い。ソレだから官僚と言ふ困つたものが閥をくむでいばる。師範學校の先生でも例へば東京高師出の多い所は廣島高師出を排斥する。實際師範學校なんか言ふ所にロクな先生は居ない。コセ／＼した貧弱な先生ばかりだ。ソレが皆閥をくむで居る。中學校でもよく似て居る。小學校になるとソノ府縣の師範學校出が閥をくむ。ソシテ視學などが自分の同窓やら同郷の者を引き出して大に實權をにぎらせると言ふ様なソシテな事が出来てくるとする大問題が起る。閥同志が排斥し合ふ。ソコで視學なんかはスグ人格はすて、權力でやつてのける。「首切るぞ」にきまつて居る。切られて困るのは小學校の家計に貧弱な先生である。視學や課長と言ふ奴の最後の武器は「首切るぞ」である。可愛さうなものだ。小學校教員でも切られて良い者は少ない。僅に俸給をもらつて妻子一族を養はんければならぬ。首になつたら明日から困る。デ

正義でないとは知りつゝも堪忍袋をしめて切齒沈黙しなければならぬ。皆様は御承知でないかも知れぬが、京都の四條烏丸の角は京都で随分のにぎやかな地點で電車の往復最も頻繁な處だが、此處に雷巡査と言ふ者が居る。法の規則通りに道路法を注意するならば良いが、通行の良民を何の事なく苦しめて居る。蕃聲をばり上げて法を亂用し、交通の良民を困らして居るが、本人様は巡査だと言ふのが御おぼえよろしく得意然として居る。法規の理想と運用を解しない彼等無學の巡査輩は止むを得ないとして、教育督學の地位にある者が無鐵砲なる官僚式を發揮して、權利を亂用する。ソシテ良教育をイチメて快哉を叫んで居る。實に横暴も極まり社會風教上如何に害あるやを知るべからずである。然るに小學校の教員にもよろしくないのが多い。彼等權利を以て教育を斷せんとする奴共にスグ阿諛して、アブラ虫が蟻につきままとふ様に、甘い汗を吸はうと考へてばかり居て、眞の本職たる兒童教育なんかは、上官によく見えたら良いのだ。何少し位は兒童を犠牲にしたつてかまふものかなど、大變な言語同斷な事を考へて居る者がある。校長や視學の言ふ事がシャクにさはつてサポタルのはま

だ良いが。彼等の前で阿諛して内面サボタル奴が一番品性下劣だ。ソんな教育者が居るから日本の初等教育も進歩しない。

四 首 切 る ぞ

我國の教育は前にも言ふ通りに「首切るぞ」と言ふ權威、威壓を以て官僚が教員と言ふ職人に形式教育を強制して居るのだ。丁度大工の親父が丁稚に「之を削つておけ。」「此の鑿を磨いて置け。」「ハイ。」と言つた調子だ。此の柱が床柱になるのやら便所の柱になるのやらも知らずに、唯一生懸命言ひつけられた通りに磨いで居る。削つて居る。教育者は丁度大工の丁稚だ。こんな教育には創造もなければ思想もない。兒童こそ良い面の皮だ。若し官僚が言ふ通りにしなければソレコソ「首切るぞ」だ。此所に首になつても良い教育の爲だなど、思つて自分の主張を通す教育者が何名ある。官僚と言ふものは蛙の様に兩棲生活をして居るんだ。官僚は蛙である、雨のふり相な時には良い聲をしてなが、天氣がつくと黙してしまふ。水の中にでも生活するし、

陸上にもでも生活する。上には頭をさげて鳴かねばならぬし、下にはエラサウにしなればならぬ。蛙によく似て居る。兩棲生活！ナント急がしい事だ。ソシて上には權利も義務もすてゝつかへる。下には首切るぞでおどす、おどす位なら案山子だつておどすが、本たうに切るから恐ろしい。此のケチ臭い世の中に首を切られてタマルものか。ケレドも「首切るぞ」とやる。徳川時代の首切番人の様なものだ。ソシて首切つて置いて、ソレ見た事か己は首を切るぞとて他の者までがおどしかける。首を切つて自分の人格や仕事が上がるとおもつて居るんだからやりきれぬ。嘗て〇〇市で市長や課長が市内の小學校長の首を皆切るぞとやつた。ソコで校長先生皆ヒヨロ／＼としてしまつた。〇〇市百に餘る小學校長の内、私の首を切つて被下いと言つた者が一名もなかつたとは何たる腰ぬけであるか。切れるか切れぬか一度切つて見ると切れアチがわかつて良いんだ。所が官僚なんか言ふ者に相手になつたら損だ。彼等は首を切つたりはつたりすると上官の御おぼえが良いんだ。丁度臺灣の番人が一個でも首を多くとる事を以て名譽として居るのと同じ事だ。丁度生蕃の様なものだ。此の大正の御代に

も至る所に澤山の首切役人が居て無げに人の首を切る。マアおそろしい世の中になつて来た。或る校長の言に「おれは首を切られても良いが他の校長が切られると困る、から自分は何も言はないでおいた。」とはあまりにアツカマしすぎる。良くも言はれたものなりけりだ。

「首切るぞ」之は視學や課長など言ふ人々の金言なんだ。こんなウマイ言葉はないんだ。ソコで「首切るぞ」「ハイ切つてもらひませう。」と出られる小學校長が何人あるか。先生方が何人おちやる。暑中休暇には何を子供にさせた。「ハイ之々是れだけの宿題で之だけの成績で御座います。生徒は何回集めました。林間學校の成績はかうです。海濱學校は之だけです。」と申述べる。子供には可愛さうだとは思ひつゝも上官の御下命と御顔色を見なければならぬ爲にツマリ自己の位置の爲に子供を犠牲にしてしまふ。私の知つて居る學校でかう言ふのがある。校長様がお歸宅になる迄は教員は皆居なければならぬ。職員會など言ふと校長が質問なんか出しても部下教員で殆んど何も言ふ者はない。早く歸宅したり理窟をこねたりすると御機嫌が悪い。ソシてねつ

てねつてねり上げて一時間位は皆な沈黙を守つて居る。言つた所がモノにならぬ。專政的にやるから職員が何程きめても御おぼえよくない時には御採用にならぬ。立派な帳簿が書棚にギツシリつまつて居る。ソシて教員は毎日帳簿製作や教授週録の製作に追ひまはされて居る。實際教育は事務ではない。頭の禿げた校長が毎日官僚に阿諛すべく教員を事務員にして居る。帳簿をキレイに美しく立派にして置く事は悪い事ではなからうが、ソレが本職となつては教育も何もあつたものでない。教案や週録を作らんければ教授の出来ない様な先生は先生の價値なしだ。教室の中で教案をたよりに教授しなければ出来ぬなど言ふ教師の授業は拜見しないでもダメだとおもふ。作ると言ふ事は必らずしも書かなければ作れぬ事はない。頭の中で作つて置いて然るべきである。大學の教授がムツカシキ科學的講義に、ソノ講義を正確に系統的にする爲に手びかへを持つて教授するのは當然であるが、對者は兒童でないかソノなもの、授業に教案の入るやうな先生であつたらダメだ。所がソレを強制するんだ。何の爲であらう。校長が長官視學に阿諛する爲に他ならぬ。視學が御光來になる。先づ應接の間に案

内する。校長様は御説明の爲多忙を極める。ソラ來たぞ視學だぞと言ふ事が各教室に傳はる。今まで椅子にかけて教へて居た先生直ちに立ち上る。視學が校長の先に立つて各教室を御巡視になる。生徒は起立して最敬禮をする。出て行く。サア樂だ又椅子に依つて教授をしようかな。何だ。丁度芝居の様だ。權利と首切りの名刀を以て教育をしようとする官僚教育は皆此の通りだ。馬鹿な事だ。教師は椅子によつて懐手して居ても児童はよく活動して行くと云ふ様な訓練が必要だ。シカシ教育的の頭のなき官僚からは之がよくないんだからたまらぬ。讀者諸君。私の言ふ左様な教育をしたら首デスぞ。首になる事をイヤがる教員は決して視學が來ても椅子に依つて懐手して居る様な事はしない。視學が歸ると椅子と懐手だ。書いて置きなさい。自分が小説位讀んで居る。視學が御いでになるとスグ最敬禮だ。何故こんな芝居をするんだ。何別に不思議はない。首になつたら困るからだけの事だ。教案や週録をはじめ、教師の手を入れた成績物、その他一切合切の帳簿が何程美しく出来たつて教育ソノモノとは何の關係もない。教育とは帳簿を立派にする事とはちがふ。教育とは教案や週録を澤

山に書く事とはちがふ。教育とは時間でピシピシやる事とはちがふ。教育の目的は學校で習つた事を總て忘れて後に残るものが。それだその或るものを得ようとするのが目的だ。その或るものとは何か。曰く人格である。

諸君は尙耳新しい事だと思ふ。丁度今から七八年も前の事だが京都帝國大學に澤柳とか言ふ總長様が御座つた。御承知の如く孝道とか言ふ變な書物を書いて出した人が孝道てふ書物を御覽になつてもわかる通りにあまりに有難くも何もない本だ。古い古いカビの生えた様な事はばかり書いて、テンと我々の思想と共鳴しない。話は一寸横道に入りかけたが此の孝道の著者先生が泰然と總長様の椅子に腰をかけて「ウム、ドウも此の大學には老朽の教授やタチの悪いのが居る。オレが一つ首にしてやらうかなエヘン。」と咳拂をして、自分が老朽事にたえない様なクラシツクの頭の所有者だと言ふ事を忘れ、二三名の教授を首にした。「首切るぞ」だ。首を切つて自分の價値が上ると思つて居るのが可愛い。何官僚式の總長てものは、こんなもので教授てなものは機械同然に思つて居るんだ。ソコで一番に怒つたのは法科、今の法科部の先生、ヨシ

クラシツク
と云ふ教
和らぬし
見こころ

學問は自由だ官僚式のアノ頭のない總長に此の神聖なる學問が自由にしられてたまるものか。直ちに辭表を一束として總長の前にさし出した。實は法科部の先生達は私の考へより考察すると他の分科の教授達より元氣がある。正義は正義でやり通す。首になるなら一人も残らず首にならう。ナニ大學は總長ばかりの大學だあるまいし。デ總長に辭職を勸告しても良いが法科部だけの總長ではない。イツソ法學部だけ皆辭職しようでないかと話は直ちにまとまり、外國留學中の教授や講師までも皆その由電報で通じ、承認を得た上で一名も残る者なく辭職書に署名連判した。流石の總長も青くなつた。實際京都の法學部には新進の頭の良い先生が多い。他の分科の教授達はランデ蛇のなま殺しの様にして居た。他の分科の内でも流石にエライのは谷本博士だ。自分が首になる所までヤリ通したのは見上げた教育上の神だ。私はいつも思つて居るが廣瀬中佐が軍神ならば、谷本博士は教育の神であると。私は博士に一面識もない、又講演もあまり聞かぬが、博士の著書はまことに痛快である。私は谷本博士の著書は一冊ももれなく讀んで居るが、他の教育上の書物と比較にならぬ。アレ位な大家、アレ位

な人格者が我教育界に今二三名もほしい。博士は通俗にはあまり評判がよくない。人は皆博士を評して下劣だと言ふ。然り天才が時代に容れられてないのはあたり前だ。昔から天才は決して其の時代に容れられなかつた。谷本博士の人格を下劣だと稱する者は眞に崇高なる此の人格者、偉大なる教育學者を知らぬ者である。日蓮が其の時代に容れられなかつたのも彼は天才だからだ。話は又他の方へそれ出したが元へもどる却說法學部の先生達、運署連判で以て辭職の届をさし出した。「首切るぞ」を武器として立つて居る澤柳とか柳澤とか、但し吉保ではないが、一寸と青くなつた。大阪の大新聞は京都法學部の全滅を三段切りで傳へる。總長青くなつて直に辭表を懷にして東上文案部大臣に面會して有りし物語をした。由來官僚てふものは自分一人で所置する事が出来ぬ。皆上の御方に御相談になる。何も教育上色々と戦つたらいい。上の御方に御相談は御無用だ。自分も辭表を一所にさし出して責任のある所を明にすれば良いのだ。が總長御相談に御出馬になる。その後詳しい事は申しますまい。文案大臣の仲裁か何かで總長は首になつてしまひ、教授達は従前通り授業を開始する事になつた

私は教授連がヤツたストライキは良い事だとは言はぬ。が官僚式の権利を以て教育が出来ると思つて居る教育上の敵、教育の害虫を殺してやるのには之位な元氣があつて然るべきであると思ふ。マア教授連が辭職届を始めてくれてよかつたが、實際官僚式の教育と言ふものはこれ位なものだ。

私は此所に一寸註をつけ加へなければならぬが、それは人格者てふ事である。世の中の人一般に此の人格者てふ意味を取りちがへて居る。世の中の人々が言ふ人格者てふ人物は、多くは物も言はねば屁もこかず式で、無策無能、唯事なれ主義で上手に皆の御機嫌をとつて居る者を指して言ふんだ。ソんな者は私の所謂人格者でも何でもない。つまり極論せず。理屈と膏藥は何處へでもつくと言つた風な男、ソレが人格者として見られるんだ。キリストの如く正義と主張の爲ならば十字架も敢て辭せずと言ふのが人格者だ。ブルノーも同じだ。殺すものより殺される者の方がエライのだから困る。かくて偉大なる人格者、崇高なる哲人が無學無知の凡夫に迫害を受けたるの夥しき事よ。馬鹿者の集りほどおそろしき者はない。

私は此所に一のエピソードを挿入したい。他でもないが前に述べた法學部の問題である。あの問答の起つた當時或る田舎の小學校の校長様と郡視學様の問答が面白いんだ。名は御氣の毒だから秘しておく。京都の大學は大變にモメてますね。「ウンもめてるね。」「實際總長や校長に部下の首を切る權利がない様な事では學校は治まりませぬね。」「ソウだ。首切つたつて何だ。首切る位な事は我々は朝めし前の仕事だ。」「校長に首切る權利がなければ校長の價値てふものはありませぬ。」「面白いではないか。首切るのが校長や郡視學の本職と見える。首切る事が唯一つの校長が部下教員と異なる特點であるらしい。こんな校長様や郡視學様がウチヨ／＼しとるんだからお話にならぬ。」

出る杭は打たれる。アマリに頭能の明晰な、偉大なる教育眼のある教育者は打たれる。教育者は事務をコチ／＼とやつて帳簿でも美しうして置けばいゝんだ。私の友人が次の歌を私によこした事がある。

うづだかく運び出せし書類をば

努力のことはめたまふ視學
教案をあとから書くといふ程に

たはけた事を我もするかな

此の歌を讀むだ男——私の友人は校長にケリ飛ばされた男なんだ。シカシ此の男は歌や俳句に精神をたむけて何一つ反對はしなかつた。おとなしい男であつたから手むかはなかつたがあまりに無暴な校長だと思つた。すぐに首切るぞとやる。所が此の男首にしられては困る。家貧にして糊口に窮す。胸に手をあて、無念や黙しなければならぬ。私は此の件についても随分に詳細に知つて居るから書き度いと思ふが、今一つ別の例をもつて来る。前に述べた大學の問題を批評した校長である。此の學校に八木菊枝(本名)と言ふ女先生が居た。私は此所へ本名を登載する理由は他でもない。私は同女史には一面識もないが名だけは承つて居た。ソシて女教員の内でも随分にエライ人もあるとひとそかに崇拜をして居た。で私は此所に同女史の悪口を書くんではない。未知の文學者同女史の、一面識もない同女史の、その才能を發揮せしめ得なかつた首

切校長が憎らしいから敢て此所に引くまでの事だ。で八木女史は大變に文才の秀でた文學者であつた。京都に文學の雜誌を起して盛に新文學に熱中した人だつた。私はその文章を度々同雜誌で拜見した。號を「しのゝめ」と言つた不敵の名文である。今し我文壇に名を出さう。名のりを擧げようとして居た利那首になつてしまつた。彼の首を切る事を以て無上の校長の特權と考へて居る校長の爲に無届缺勤てふ理由も何も貧弱な法文によつて遂に首になり、免許狀は取られるは、女子師範在學中の學資金は返却を命ぜられるは、實に氣の毒千萬な事にしてしまつた。何でもない事が原因で文學者としてはエテシテよくある我が強い所を押し通さうとした所が、何女子がエラさうに何を言つてるんだ。首切るぞとやつてのけたので、あはれや前途有望の才筆を空しく葬つてしまつた。自由なる天地に生き、自然の美妙を味はむとして返つて無能の校長の網にかゝつた。今は何處の天地に自然を樂しんで居る事か私はその後の消息は聞かぬが、大變に意志の強い、男まさりの女史であつた。何、女史は才筆を以て雜誌に花をさかせる。各地より同感者の書狀は教育室の机の上に山をなす。校長も一寸嫉んで

居た所が、女史は平氣で登校退校の途次冬であれば女子用の將校マントをきて帽子をかぶり、夏ならば軽い洋装にムギワラ帽子をかぶる。職員室では敷島をくゆらす。田舎と言ふ所は眞に田子作の集りである、凡夫野郎の集りである。かくて女史は一般村民から憎まれた。村民の御機嫌ばかり取つて自分の榮達をのみ之事として居る校長の所へ種々の小言が出てくる。遂に首を切つてしまつた。免許狀は褫奪してしまつた。何も女子だから將校マントが悪い筈はない。女子だから雑誌や新聞に才筆が振へない理由はない。女子だから煙草をくゆらす事が悪い。道徳は何所にも存して居ない。あはれや校長の毒牙にかゝり、校長の村民の御機嫌を取る爲の犠牲にされてしまつた女史は其後筆を捨てたのか、心機一轉他の方面に向つたのか、私は知らぬが、彼の才筆が彼の首になる機會を與へたのであつた。田舎の校長、ソンのものに創作上の妙味が解つてドウなるものか。ソンの無風流な低級な校長に文學が解つたら日本國中の人々は皆文學者になつてしまふ。

田舎の校長や郡視學に教育を理解した様なものは居ないが、此の八木女史を出した

女子師範學校も又頗る開けて居ない。由來女子の學校の先生達に開けた人は少ないがまして京都府女子師範學校の所置には驚いた。母校の名を汚したと言ふ理由のもとに校友會の名簿まで女史の名を削つてしまつた。女史は校友會までから首になつたわけだ。何所が如何様に悪かつたのか。何所が母校の名を汚すんだ。母校自ら名を汚して居るのではないか。當時大阪朝日新聞は女史に大變な好意を以て二段切りで書きたてた。新聞に書いた男——記者——は私のよく知つて居る男なんだが、實際女史の人物を最も正しく觀察したのは大阪朝日新聞であつた。何故に首にするかが不明である。無届缺勤位は別にソコまでやる必要もあるまい。男と關係したと言ふではなし、眞に無鐵砲な事をやつたものだ。困つたものは思想のない無知無學の視學や校長である。「首切るぞ」は随分に「試し切り」のあるものだ。徳川時代の武士の試し切りと同然である。かくて「殺人教育」は大都市のものなから田舎や山間にまでひとしく行はれて居る

五 校長室の會話

教員の増俸なんかは真に良いかげんなものだ。何と言つても頭の古い連中でなければ校長にしないんだから致し方がない。教育は一般の社會よりもズツと進歩して居なければならぬ。然るに頭の古い連中しか校長にしないんだから進歩しさうな筈がない切つても血の出ない様な古朽の先生の校長だと舊思想を得意然とふり廻すんだからやりきれぬ。古い頭の者は古い頭だと自覺して居るならばまだしも事だ。古い頭のクセに少しも古いと言ふ自覺がないから、何程新しい知恵を與へてやらうとしても石地蔵に説教して居る様なものだ。現代の作家の小説にはよく此の新舊思想の衝突を書いたものがある。小説で讀んで居てさへニクラシイ感を起す。まして自分が實際古い思想の頭に出くわすならば、頭を思ふ存分擲つてやり度うなつて来る。之は何處でも同じである。中等學校でも大學でも同じ事だ、大學なんかは随分に科學的に出來て居る様でも實際上の方に居る教授なんかは古い頭しかもつて居ない。デ大學へでも女子を

入れようなど、言ふ場合小壯學者が何程賛成したつて少しも御かまひはなく公然と鐵面皮にも反對してしまふんだ。何古い頭の奴は何處にでも居るさ。ソシて此の古い頭で一世紀昔の夢を見て居るんだ。何も不思議はない。古い頭と言ふ自覺が少しもないんだからね。お前の思想は古いなど、言はうものなら眞赤になつて怒る。自惚の強い奴は致し方がない。新しき進歩した思想の所有者は如何にモガイてもダメだ。古い頭で判断してしまふんだ。ソシて新思想なんか言ふものなら直ちに危険呼ばはりをしてしまふ。ソレは理想だけれども出來ない。退々とやつて行かう。」と尙早論と言ふ頗る消極的な意氣地なき説を唱へて平氣で居るんだ。實際尙早論と言ふものは理解して居ない奴が唱ふるよき逃路なんだ。オレは知らぬとかわからぬとか言ふ事が恥しいものだから直ぐ尙早論と言ふ逃げ路にかくれてしまつて自分の品位を落さざらんとする。可愛相な奴だ。俸級でも頭のない奴が首になると困るから校長にペコ／＼頭をさげると増俸するが。正面から反對したり。職員會で校長をいちめ様ものなら上げてくれる氣づかいはない。眞に教育の何物たるかを解し、眞に自由なる天地に息きむと努力し

て居ようものならドシ／＼と落ちてしまつて「後の鳥が先になる」のである。新聞などにあらはる、學校内の鬭争などはその極校外にもれ出たまでの事で、實際世間に知られて居ない問題や事實はより極端なものが随分に澤山ある。

殆んど始末に了へない問題が到る處に澤山あるとして見ると、一度此の現今教育はタ、キ毀してしまはなければダメである。私は右に述べた處は更に後の方に述べ度いと思ふが、此處に擧げた問答は實際のまゝを書きつらねたものである。某小學校のNと言ふ校長と一青年教育家との押問答である。

「一寸御伺ひ致しますが、只今校長は何か御用が御有りになるのですか。」

「いや、別に用事はありません、何か御用ですか。」

「はい、一寸あなたに承り度い事があるのです。」

「あゝさうですか、承りませう、まあこちらへ。一たい御用と言ふのは、御用件は。」
「用件と言ふのは頗る複雑なんです。先づ私は第一に次の様な事を承り度い。此の頃

あなたは私を排斥しようと思つて居らつしやる様に見受ける。私を輕蔑しようと思つて居られる。私を侮辱して居らるゝ。其の根本的理由が承り度いんです。」

「それは困りました。私は未だ嘗て今君のおつしやる様な事は寸毫も考へた事がないんです。でそんな御質問にお答する何物もありませぬ。がしかし君の御尋ねより伺つて見ると何かの誤解か、或は何人かの中傷なんでせう。そんな事ではないんですが。」

「いや、私は決して誤解して居ないつもりです。又他人が中傷したと言ふ事でもないそれは事實が證明して居るから私の推察はさうならねばならぬ様に考へたのですが。」

「ハ、ア、困りましたな、何かなの事實が證明して居ると言ふのは。」
「お困りになる必要はありません。事實として顯れて居るではありませんか。例へば今回の増俸は如何です。福田君は私と同時に師範を出た男でせう。私よりも三年先に此の學校に俸職して居るから此所の學校では私の方が日尙淺い。しかし私が此所へ赴任した當時福田君は三十五圓で私が三十圓。即ち一段席が私は下であつた。あなたは私に「福田君は君より一段席が上だが近い内には同様にしよう」とおつしやつた。未

だ耳あたらしき先年の四月の事實ではありませぬか。然るに今回の増俸は福田君が二階級も飛んで四十五圓になり。其の時に於てさえ一階級の差のあつた私はようやく三十五圓にしてもらつたと言ふ始末。無論私は福田君の如く敏腕なる人間ではなからうと思ふが、しかし福田君に對して自分は遜色なきだけの能力は所有して居るつもりで居る。

「いや一寸御伺ひ致しますが、何か君は福田君と意見の衝突でもありましたのですか。」

「それはあなたの誤解です。私は福田君に對して一寸の遺恨ももつて居りませぬ。御承知の通り同君とは公私共に大變に親密にして居ます。でありますから唯今申上げる事も決して福田君を中傷しようと思つて言ふんではないので、唯その比較の引き合せにもつて來たまでです。其邊は誤解のない様に御ねがひ致したいものです。で私に何か操行上の失敗とか何かがあつたとか、又は教育上或る缺點をもつて居るとかであれば致し方がないが、自分一個人としては決して左様な事がないと信じて居る。で若し

左様な事があると御考へになつたのならば、其の事實を言つてもらひ度いし、いやそれは私の將來の爲いす。又福田君を三十五圓から二階級飛ばした四十五圓とするに對して私は一階級飛んだ三十五圓になつたと言ふ事實は何を意味致しませう。さらでだに一階級のちがつたのでありませぬか、まあ一階級位は追つ着けるかも知りませぬが、今度は二階級ちがふ様になつたとすれば、二年や三年には追つつける氣づかひはない。之は私が當校へ赴任した當初の御言葉と矛盾して居ると思ふんです。それで私がそれ程に力のない教員なれば力がないと。缺點があれば斯々の缺點がある。失敗があればその點を明確に御示し被下れば私も満足する次第です。要するに福田君に追着ける事が過去に於ては可能であつたのです。が今度は先が以て不可能になつたのです。で其點を御示しにあづかり度い。」

「色々お話を承りますと大體あなたの御話がわかりましたが、私は君に決して過去に於て福田君より劣つて居るとか、君に失敗があるとか、又は操行上の缺點があると云ふ様な事を發見した事もなし、考へた事もないのです、君は今感情に激昂して居

る様ですが、私としては過去に於ても十分に君の爲に盡したつもりで居ます。只今度も市役所の方であの様な風に致したので私としても大變に不足に思つて居ます。實はいつも私の申請した様にしてくれない。でこんな風になつてしまつたのです。いつも申請の時には君の名を缺かした事はない。が市役所はどうしても私の申請通りに取扱つてくれぬ。此所が私の大變に殘念に思ふ點なのです。今度の辭令に於てもその通りになつて居れば君の感情を害する事なく、職員の間柄も圓滿に行けるんだつたのです。此所は私の力の足らぬ所だと思つて被下い。しかし君も五圓だけは増俸したではありませぬか。」

「當然です。市内の職員一名も残らず五圓は増給して居るではないですか。そしてその増給の金は手當として我々が過去に於ても當然受けて居た金です。で五圓の増給と言ふ事は事實は増給でなくて、言はゞ金の名目を變へただけで當然過去に於ても受けて居た金ではありませぬか。あれを以て増給したなどはあまりなお言葉です。それこそ人を馬鹿にしたお言葉ではありませぬか。」

「わかりました。しかし市役所の方で取扱つてくれぬ場合はやむを得ないでせう。」

「市役所の方で取扱ふと否とは私の關した事でない。私はあなたに申せば事足りるしあなたはあなたの意見を私に言つて被下ればいゝ。市役所がどうこうは私と直接の關係がないでせう。申請はあなたが市の方へなされるんだから、その申請を取扱ふとか扱はぬとか、私の知つた事でないが、私はあなたの部下としてあなたに申上ぐれば事足りるとおもひます。つまり唯今のお話を承りますとあなたの申請を市の方で尊重しないんですね。」

「はい、さうです。」

「然らば何ですか、あなたがなさつた申請と言ふものは空文なのです。」

「空文と言ふわけでもあるまいが、十分に尊重はしてくれませぬ。しかし可成一人でも多く増給したいと考へて居ますから市の方でも二階級上げてくれた人々が澤山あればある程私はよろこんで居る。で此の人は増給する事は一寸まつてくれなどは決して言つた事はないです。」

「すると職員組織と言ふものはどんなに崩れてもいゝと言ふお考なんですか。」

「いや決してそんな考ではありませぬ。」

「でもさうではありませぬか。あの。」

「いや一寸御まじ被下。職員組織に關しては校長の権限になつて居ますから、そこは淺學でも此の私におまかせを願ひます。」

「それはあなたの申さるゝ通りで校長の権限でせう。いやさうにちがひありません。しかし私はおまかせするとかしないとか。職員組織をかうせよなど、言ふのではない。私も長く小學校の教職に就いて居るから、職員組織が校長の権限であるかないか位は私として十分に知つて居るつもりで居ります。しかし職員組織が崩れると言ふ事を申上げたのに對して、崩れないとおつしやるならば、その理由を承り度いのです。其理由を承つても決して校長の権限を侮辱したり。校長の威信を落したりする様な事はありますまい。又それについて批評を敢てする事も何等さしつかへがないでせう。批評は自由でなければならぬと思ひます。」

「それはその通りです。では承りませう。」

「一寸初めに申上げる事を忘れましたが、私が増給の事を言ふと言ふのは金銭がほしいからではないのです。いやほしいかも知れませぬ。一家四人。老母あり妻あり子ある私。三十五圓の私に取つては大なる御惠與の報酬だかわかりませぬが、事實に於て米價六十六圓の今日米代しか當りませぬ。で私としては大分あつがましい申分だとも思ふが増給してもらひ度いのは山々です。しかしそれは先づ一般の平行もある事です。市の方でも大變に此所に留意して居る事は事實らしいが、之は問題外としても金の爲に私は此の様な鐵面皮な事を申すのではない。私の腕にはまだ熱き血潮が通つて居ます。たとへ一錢でも一厘でも心にもあらぬ金は決して受けませぬ。で五圓の増給をしてもらつて、その五圓の金が欲しいのではない。私は私の名譽がほしい。私の位置がほしい。福田君との對立として、私も私の位置がほしい。教育は金や名譽で出来る事ではない。がしかし金や名譽もないよりもある方が良いにきまつて居る。」

「いやわかりました。してその職員組織の崩れると言ふ事を承りませう。」

「一寸御まら被下。唯今の私の考を今少しお聞き被下。あなたは嘗て或る職員に
 「彼は何でも彼でも言ひ度い事を言ふ。あれは頗るあの男に損がある。」とおつしやつ
 たと言ふ事を聞いた。まことにお説の通りでたしかに損がありませう。しかし私は損
 得と言ふ打算をするのであれば初めから教育者と言ふ頗る物質的報酬に遠ざかつた仕
 事に身を沈めては居ませぬ。打算をすれば教育者と言ふ様な事は一日も出来ませぬ。
 打算しない所に教育者としての貴い所があると思ひます。自分の報酬の打算をして見
 ればお話にならぬ。であまりますから私は家族を養ひ得ぬからとか生活が出来ぬから
 とかの理由で増俸の小言を言ふ者ではないのです。増俸してもらへば生活はより豊富
 になり。精神上も大變に嬉しいにはちがひないが。そんな消極的な、主觀的な、個人
 的な、言はゞヒンソな事の爲にあなたの貴重な時間を拜借して居るのではありませぬ
 今少し一般的な、教育的な廣い意味に於て御聞き被下る事をねがひ度い。即ち嘗てあ
 んなたがおつしやつた様に俸給はその人の教育的價値に對する報酬であるとすれば、(之
 はあなたが嘗て私に申された事であるからあなたの御説と致して置きました) 私は福

田君より二階級だけの價値がないと言ふ事になる。其の價値のないのは如何なる點で
 あるかを明示してもらへば事足りるのでありますが、先刻からのお話によつても少し
 も明瞭にならぬ。」
 「いや私は何でも彼でも言ふからつて其の人の損得になる様な事は決して致しませぬ
 しかし事實は損です。」
 「それがあなたを疑ふ第一歩なんです。」
 「で私は決してそんな考を以て其の人の損得になる様な事はしないと云ふたでせう。」
 「しかし「事實は損だ」とおつしやつたでせう。心内にあれば必ずや外にあらはれるも
 ので、あなたが某職員に「あの男の損だ」とおつしやつた事と符合するから疑問の第
 一步だと私は言ふんです。つまり自分の意見は之を避忌なく言ふと言ふ事が損になる
 わけですね。」
 「私は左様な事を言つたのではない。が一般の社會では損だと言つたのです。」
 「一般の社會では損だとして、教育界ではどうでせう。」

「教育界でも一般の教育者の人格が高まらない現今に於ては損だとおもふ。唯それは理論としては大變に良い事なんです。」

「理論として良い事で、事實は悪い事なんです。」

「事實としても良い事なんでせう。しかし一般の社會はさう好意に解してくれませぬね。」

「私は社會や教育界が、避忌なき意見の發表に對して悪い解釋をしようが損にならうが、教育の爲ならば損得は考へませぬ。がその避忌なき發表ですね、それを以て人の損得を考へる様な校長や教育當路者が多い世の中であるから困るとおもふ。例へば少々御無理な御注文もハイ／＼つて引き受けるとか、教育上不爲の事でも自分の榮達を考へて先づ黙してしまふと言ふ様な事は眞の教育者のする事でない。それならば尙可いとして、兒童が澤山送り物をすれば良い點をやるとか落第しかけて居ても止すとか言ふ様な事がある相です。尙校長の宅へ物質的の送り物をすれば増俸するとか言ふ様な例ですね。私はムネクソが悪くなつて來ます。私はそんな事を思ふと馬鹿らしくて

教育界になどは居られない様な感じが致します。實際京都の教育界なんかテンデお話にならぬと思つて居ます。校長の居ない所では随分に校長のヒドい悪口をタラ／＼申し述べて、表面校長に反對の様に見せかけ、事實は校長の宅を度々たゝいては阿諛を之れ事として居ると言ふ様なのが随分に澤山ある。」

「此所の學校には君の言ふ様な人物が居ない筈ですが。」

「筈だか、筈でない所が私の疑問な所なんです。私は先程のあなたの態度なり言葉なりから推して教育者の損だとか得だとか、損得と言ふ事は要するに物質的な事なんでせう。武本訓導の如きは如何です。職員會の時なんかは公然と校長黨でない如く見せかけて同僚を瞞着し晩になるとあなたの宅を訪ふては内面阿諛を之れ事とすると言ふ話である。」

「それは私が來よと命じた事でなし、自分勝手の事だから私の何とも解しかねる處です。」

「まあ理屈と何とかは何所へでもつくからさうとなさい。しかし一般の輿論はたしか

に正しいと思ふ。」

「困りましたね。」

「そんなにお困りになる必要はありませんまい。あなたが良いと信じてなさる事だから良いでせう。何だかあなたに大變にあてつけた様ですが事實ですから致し方がありません。私はそんな下劣な事をするやつは聞いただけでもムネクソが悪い。校長に阿諛する！。そんな事は気分が悪い。けれども此の阿諛と言ふ奴がね、随分にキクものでね。」

「では次のお話を承りませう。」

「そこで職員組織が崩れると言ふ事を申し上げますが、あなたは何程、又たれが俸給が上つてもよい。俸給ならばたれから上つても上ると言ふ事は良い事だとおつしやつたです。」

「左様常に私は信じて居ます。」

「けれども物には順序と言ふものがあります。此所の學校は女教師のみがドン／＼上

る。例へば先年の七月は女子五名に對して男子一名でせう。その十二月は又々女子二名限りでせう。その二名が七月に上つた者ばかり。」

「君のお話は僕の前に説明した事を又繰り返して居る。私は正直に市役所の方へ申請しても、市役所の方でそれを取扱つてくれぬ。此の點が私の……」

「イヤお待ち被下い、それは聞き度くない。私の申上げ様と思ふ事は他にあるのですから、今少しの間御聞き取りをねがひます。そして市役所の方で云々は承知して居ます。」

「では承りませう。」

「私は女教師だから必らず男教師よりもダメだとは申しませぬが、大體そんなにする程の女教師が一人でも居るんですか。」

「少くとも或る男教員よりも良い女教員は居ると認めて居ます。」

「成程さうかもわかりませぬ。けれども我々男教員と俸給に於て遜色なき女教員が八名まであり。先年の七月と言ひ十二月と言ひ女教師のみの増俸と來て居る。そして今

年は又先に申した様な事になつて居る。男教員の或るものよりも良き女教員が一人位は居るだらうが、八名もあの有様は何の事です。女教員の或る者は「校長に妻君がなから我々は大変に幸福だ」と言つて居る由であります。あの藝者式の笑ひをしてあなたに阿諛して居る春山女教師の如きがあなたは優良教員だと御覧になるのですね。」

「具體的に人物を指し示されると困るが、まあ大體良い方だと見て居る。」

「良い方だとは優良教員だと言ふ事でせう。」

「まあ大體さやうな意味になります。」

「ハ、ア、すると校長に藝者笑をして見せる女教師が優良なんですか。ね。」

「それはあまりに言ひすぎた言葉だと思ふ。私は私の考察に依て優良と認めるので、決して笑ひ様がドウのコウのと言ふ意味ではない。だから教育者としての内面觀察に依つて左様認めるのです。彼が藝者笑をするとか、又は私に阿諛するとかは私の知る所でない。私はそんな事は知らぬ。」

「けれども時々ストロブの周圍に於ても「なんと美しいキメの細い手をしてゐるね。」とか「なんと太い手だね。」とかつて春山の手を握ぎつて見たり、あの様は何です。」

「それは何たる言葉です。私はそんなおぼえはない。」

「それはおぼえが悪いんです。見て居た者があるのを何としませう。」

「それはウンだと確答する。」

「ウンでない事は證明する者が二三名もある。あなたが何程否定せられても、事實過去に於てあつた事として之を取消すわけには行きませぬ。私は大體一小學校々長をいぢめて快とする程に小ではないが、事も此所に至つては極れりとおもふ。大體あの女はどんな女だと思つて居らつしやる。」

「ハ、ア、すると君は女教員の俸給が高すぎる。からして職員組織が崩れると言ふんですね。」

「イヤ、女教員の俸給が高すぎるのではありませぬ。男教員の俸給が安すぎるんです。」

又價値もなき女教員を増俸して男教員は之に比例する事は出来ぬ。是れが第一によくない。又同じ位の位置に居るべき者に益々等差をつけてお互の感情を害して居る。之が第二。例へば福田君と私との如き。又首席が缺ければ更に首席を入れ、次席が缺ければ次席を入れ、中間が缺ければ中間を入れる。下の方に居る者は上りつこなしです。首席が缺ければ、當然次席がその位置に進み、かくして追々と下の方より上げて行く。斯くして上から上からと上つて行く、此所に我々の樂みがあり、上下和氣霽々として仕事にいそしむ事が出来る。下の方に居る者も、上の方が缺ければ、追々と自分よりも下の方が加はつて来る。かくして榮達の道が開かれ、後進もよろこんで仕事にいそしむ事が出来る。あなたの様な事では下の方に使はれて居る者は上りつこなしになつてしまひます。」

「私は良い教員があれば尙々現首席の上へでも入れて行く、中間に良いのがあれば入れる。之は教育上の効果が大きだからかうする。それは私の権限でありまして又方針であります。」

「わかりました。唯私の申し上げた事にも眞理がある事は御承知をねがひ度い。そして現在二十名餘の男教員は少くとも此のあなたの仕打ちに腹を立て、居ます。」

「それは止むを得ない。」

「しかし教育はあなたの言はるゝ様に権限や權力を以て壓迫しつゝ、進歩するものではないとおもひます。之も権限だ彼も権限だと官僚式の権限づくめで進歩するものは機械に等しい。人間を化石にして使用する場合はそれでよいかも知れませぬが、人間が化石や土偶でない限り、さうした教育は形式一片に流れた、精神のないものになつてしまひます。で私が職員組織が崩れると言ふのは、形に於て申すんでない。其の精神的內容に立ち人つてしか申すのです。」

「イヤ、私は權力を以て壓迫しようとは思つて居ませぬ。唯現在の所やむを得ぬと思ふて居ます。」

「いつも止むを得ぬ止むを得ぬとおつしやるが、そんな事ではいつ教育が進歩向上するんです。止むを得る時がいつくるんです。」

「ソレは解らぬと思ひます。しかしいつか來るでせう。」

「ソレでは一步深く立ち入つてお伺ひ致しませう。あなたの御意見は大體解りました私の考とは大分にちがふ。いや教育方針が根本に於てちがふ。しかし是れは別問題と致しまして、さてあなたが然らば増給をなさつたり、他より引き來つて上位なり中位なりに置かれた教員は、皆あなたの教育上、良好な教員なんですか。」

「まあさうです。」

「すると此の學校でも良好である教員や、良好でないのやがゴツチャに三十餘名も居ると言ふ事なんですね。」

「まあさうですね。」

「私の様に避忌なく言ふ男は良好でないんですね。」

「いやさうは申して居らぬ。君も良好な教員だと認めて居ます。」

「すると良好の程度がちがふと言ふ様なお考で。」

「まあさうです。けれども君は最も良好だと思つて居ます。お上手を言ふんではない

のです。」

「變な事ですね。私が良好の最もなものとして、私と同期に卒業した福田君も最も良好として、そして初めは一階級しかちがはなかつた俸給が今度は二階級ちがふと言ふ事になつた。之は最も良いもの、又最も良いものと否とあるわけですね。」

「私は實際そんなに迄細かくは考へて居ない。君の様にさう細かく穴探しをされては困る。」

「イヤ私は穴探しは致して居らぬ。けれども事實さうであり、結論もさうなるでせう。」

「まあ、しかし、大體はさうなるかもわかりませぬ。」

「すると私には一寸御伺致し度い事があるのは、私も最も良い教員、福田君も最も良い教員、さうして置いて、福田君は二階級私よりは上へ増級した、と言ふ事が私の今言ふ最良の教員の内の又最も良い教員てふ事になるわけですね。すると此の最良教員と最々良教員と此の二つは何を以て見分けられるんです。つまり人物の價値判定は如

何なる方法に依つて定められるのでせうか。」

「それは解らぬ、私はたゞさう信ずる迄です。」

「然らば何等價値判定の標準はないわけですね。」

「別にありません。」

「それは不公平です。その不公平が職員組織を亂すんです。何等の標準もなく人間に等差をつける。それは人間を馬鹿にしてかゝつて居るんです。でつまり袖の下廻る子は可愛い、と言ふ所から、最々良教員も出来れば、袖の下を廻らぬ者は普通の教員テナ所に祭り込まれる事になるんですね。」

「私は袖の下を廻つても廻らぬでも、實際に於てそんな事は常々考へて居ないんです。」

「デモ事實が證明して居るでせうが。」

「ソレはあまりに君の心が小さすぎる。」

「イヤ、そんな事はありませぬ。デハ一步を進めて御伺ひ致しませう。例は幾多所有

致して居ますが、先順序に御伺致しませう。第一由訓良導ですが、彼は男と關係のある事を御承知なんでせう。私は詳細に承知致して居ますが大體あなたも御承知なのでせう。」

「ソんな事をたれか言つて居た様に思ひます。」

「アレがあなたの最良教員なんでせう。」

「ソんな事はありませぬ。」

「デモ過去に於て左様なお考を以て居られた事は事實なんでせう。ソレが證據にはドシ／＼増俸なされた事實が證明して居ませう。優良教育者であればこそ増俸もするんでせう。そして尋常一年生を持たせて置いて午前中でブツ切り上げて午後は遊ばせて置くんでせう。私は眞正なる戀愛については大に奨励しても良いし、優良教員であれば大に増俸して優待しても良いと思ふが一體彼は如何なる人間だと思ひになるんです。」

「ソレはあまりにひどい、彼の操行についても聞いては置いたが大した事もあるまい

と思ひます。」

「私は先にも申しました通り真正の戀愛關係であるならば之を許可して然るべしと思ふ否とよ大に成功させても良いと思ふ。が彼は先日來二週間も休んで居るでせう。あれはY病院へ通つて居るんです。」

「ソレは病氣なんでせう。胃腸の方が悪いとかで……………」

「ソレは公文書を偽造したものです。あなたの所へは胃腸病の缺勤届が出て居るが實はちがひませう。缺勤届は一個の公文書なんです。若し眞に胃腸病でなかつたらソレこそ公文書偽造ではありませぬか。」

「ソレは如何にもその通りです。シテ何病だと仰しやるんです。」

「不潔な男女關係に依る強烈な花柳病だと言ふ事です。で毎日子宮を洗滌してもらひに行くんです。話によると彼は随分澤山の男子に關係して居ると言ふ事です。彼を優良教員だとして居らるゝあなたの人格を疑はざるを得ない。あんな教員でなければ増俸もしてもらへないんでせう。若し眞正な戀であれば良いとして。」

「ソレは私の少しも知らなかつた事で、自分は彼についてはそんな大膽な女とは少しも知らなかつた。デ今聞いて驚いて居る。」

「彼は先日京極通りを酒にヨツバラつてヒヨロ／＼と歩いて居たと言ふ事です。何も女が酒をのむ事が出来ぬでなし。酔つてならぬと言ふ法も規則もないから別にかまはぬとしても、子供の目にはどんなに影響するでせうか。ソコへ村山君が自分の親友と二人で歩いて居たら、後から背中をタ、イて一杯やりませうかなど、進めたとの事である。かくして誘拐するんです。娼婦型の女ですね。あの様な娼婦型の女が教室でどんな授業をして居るかよく御承知でせう。あれが授業か何かは知らぬがマルキリ教室の様ではありませぬね。私にも大變に初めはナレ／＼しくしました。と言ふのは私には妻も子もなき者だ獨身者だと思つて居たらしい。ソコで私の方へお鉢が廻つて來たんです。何かにつけてナレ／＼しうするんですね。ソノ時私はハ、アと思つた。けれども黙して居ました。追々變になつて來た。私が教室に居るとヒヨロンと出て來て甘い事を言ふ。私も困つてしまつた。所が或る時私の教室へあはたしく入つて來た。」

ソシテ私に言ふ事が變なんです。先生あなたには奥様があるんだ相です。お子達もあるんだ相です。彼の顔色は不平不満嫉妬で満ちて居ました。私は私に妻と六歳になる子供のある事を告げまして別に驚く必要もありません。私に妻があらうと子供があらうと別にあなたに對して少しも關係のある事ではないでせう。と私は平氣で言つてやりました其後は私には一言も話しかける事がなくなりました。實際私が彼の際にナレ／＼しく言つて居れば遂に彼女の毒牙にかゝつた事でせう。けれども私はあの様な娼婦型の女は見ても嘔吐を催す様に思ふ。があれがあなたの優良女教員ナンでせう。

「イヤそれは話も初耳で、しかし私の知らなかつた事だから止むを得ない。私の手落ちです。」

「止むを得ないですむものならば止むを得る時がいつ来るんです。止むを得ない位な事では教育は眞に出来ない。花柳病にかゝつたり、公文書を偽造したり、ソレが優良教員と言ふ事になる。」

「イヤ、ソレは先にも申す通り、少しも知らなかつたのです。カラして今後は大に私自身について注意致しませう。」

「デハ次の御尋ねを致しませう。尋常一年生の受持は高年級の何かの學科を持たせて大體各教員ともに授業時間の平均を計つてもらい度い。是れは度々私の申上げた事なんです。中等學校の如き學科教員ばかりの所は止むを得ないが、小學校は可成學科に依て幾分か分け得られる者は分け、上級の方の授業は下級の方の時間の少ない教員に受け持たせる事にするんですね。スルと大體一週何時間位と平均する事が出来る。即ち能率ですね、エフイシエンシーの上に大變に關係があると云ふんです。然るにあなたはあなたに阿諛する者をして優良級だとか幼年級を持たして、三時間位で後は遊ばせて居る。遊ばして居るのではないとおつしやるかもわからぬが事實は遊んで居ると何の變りはない。事務と言つても一日三時間の授業を持つ者も五時間六時間の授業を持つ者も要するに同じだけの事はしなければならぬし、五時間六時間の授業をする者の方が明日の順備などより言へばヨリ仕事が多いと見なければならぬ。大體能率と言

ふ事も今少し御考をねがひ度いものです。同じ人間で一日三時間の仕事をするものと六時間の仕事をする者とを比較すればですね、何人だつて三時間の方の疲労が少ないと言ふ事は分り切つた事です。疲労が少なければ教授力は大にならなければならぬ。ソコで此の疲労の少ない教員を授業時数の多い級の何なりと受け持たせるんです。スルと全體のエフィエシエンスなるものがよく一致し児童が受くる深度と申しますか？が大體平均されるんです。此の件につき尙々教育的に私の意見を述ぶるならば随分あるんですが先づ大體に致して置ませう。」

「シカシ幼年級の授業は随分に骨が折れますからね。其骨が折れる所を少しは考へんければならぬと思ひます。」

「骨の折れる折れぬは絶對的のものでない。幼年級にて骨が折れるならば高年級にしたつて骨が折れる。ソんな事は比較にも何にもならぬと思ひます。ソレは人に依りけりで、校長に阿諛しては眞の教育の何物たるを理解しない、ソんな女教師や老朽先生が幼年級を受け持つたつて何の骨が折れるものか。私は大體眞の教育や眞の教育者を

あなたは馬鹿にしてかゝつて居られると思ふ。」

「イヤ私は馬鹿にしてかゝつて居るのでも何でもありません。しかし私の考がそこまで詳細に理解されてないんでせう。」

「デハ一步話を進めませう。優良學級なるものです。アレは眞の優良兒が進めてあるんですか。又優良兒と言ふ者はドンなものを言ふんですか。」

「優良兒と言つても大したもの集つて居ませぬ。又優良と言ふ事も唯算術と讀方との試験で撰擇したまで、すから十分に撰擇も出来て居ない。先づ大體區別したまで、す。」

「ハ、ア、すると算術と讀方の優良兒ですね。教良の目的は算術と讀方とさへよければ優良なんです。」

「マア重要な學科ですからね。」

「學科に重要だとか重要でないとか言ふものがあるんですか。」

「ソんな重要でないと言ふものもない。けれども先づ讀方と算術とは特に重要だとお

もつて。」

「スルと他の教科は重要であるが、特にと言ふ冠字はないんですね。特にと言ふ。ツマリ特に重要な學科、ソシテ唯重要ダケの學科、あなたの教育説は學科をこんな風に分けるんですね。」

「マア、大體さうです。」

「幼稚なお考です。一校の堂々たる校長がそんな事を以て優良學級を置いて居るとはなさけなくなつて來た。彼れ等優良學級の生徒はスルと讀方と算術がウマイから教育的に優良なんだと言ふ事になる。特に重要と唯の重要に分けると言ふ事は要するに逃げ言葉で、重要な學科と重要でない學科とに別けるのも同じです。大體あなたの教育説は……堂々たる、ハ、ハ、……わかりました。シテ、讀方や算術はどんな風に良ければ優良なんです。」

「よく出来る者が優良なんです。」

「ソノよく出来るとはどう言ふ風に。」

「讀方はよく字を讀み、よく書き取る。算術であればよく答を合はせるのです。」

「讀み書きをよくする。ソレは暗記して居れば出来ませう。算術それは推理力があれば出来ませう。スルとあなたの教育の目的は暗記と推理とあであると言ふ事になる。ソシテ暗記と推理がよければ教育上の優良生だと言ふ事になる。ト解して良ろしいか。」

「マアさうですね。」

「スルと想像、注意、分折と綜合、聯想、認識、判斷、辨別や把持、歸納や演繹の如き知的要素や品性行狀の如き道德的要素は教育上不必要だとおつしやるんですね。」

「不必要だとは申しませぬが。」

「デモ不必要なんでせう。」

「ソんな細かい考は私にはない。」

「デハ無鐵砲に區分した事になる。」ソんな無鐵砲な事をして教育は出来るものなんですね。」

「先づ大體常識的に區別したまで、無鐵砲だとは思はぬが、ソんな細かい事は私にはわ

からぬ。」

「ツマリわからぬでやるとは無鐵砲でせう。私は優良級について之以上申しませぬが優良學級と言ふ者はソんなものでなければ、又優良兒と言ふものもあの様な人間の力ではない。教師の撰擧干渉によつて級長が選擧される。選擧された兒童は村の有力者だとか市の大金持だとか或は父親が有名な人だとかを以て勝ちほこつて居るツマリ親の力でエラサウにして居る兒童なんかを級長にする。先生の御用兒童……イヤ兒童の御用先生かもわからぬ……なんでせう。此の選擧干渉と言ふ事によつて此處に變な優良兒が出来る。又優良兒にしても可成先生の宅へ澤山の品物を持參致す者だとか、何々市長の子供や市助役の子弟、又は別莊の奥に住んで居る大金持の子供、何々博士、何々大學教授、何々會社頭取や重役、ソんな者の子供バカリが優良なんでせう。彼等の多くは先生へ物質的持參品を贈る事によつて、又は先生がその親に阿諛する事に依つて優良でない者まで優良級に入れる事になる。ソシて他の學級の生徒を輕蔑して特殊部落の子供の如くにいやしめて居る。之が當校の優良學級なんだ。私は教育をもて

あそんで居る者があるならば、ソレはあなただと思ふ。之でも教育を馬鹿にして居るんではないんですか。」

「……教育を馬鹿にした？……」

「ソんなにお怒りにならぬでもよろしい。私は市長も知事も視學も校長も、ソんなヤクザな人間は少しも恐ろしい事もなければコハイ事もない。私の恐ろしいものは眞理あるのみである。眞理と天才の他には宇宙に少しも恐れる者はない。あなたが怒りになつても私は少しも恐ろしいとも何とも思はぬ。デ話は前について優良學級の問題として今一つ、彼の優良學級の受持教員はあなたの所謂優良教員なる方々ですね。」

「優良教員です。優良學級を受け持つに適當な人です。」

「スルと私は優良學級を持つに適當でないんですか。」

「ソんな事はない。」

「一體優良學級を受け持つに適當な人間ッてどんな要素が必要なんです。優良教員の要素ですね。」

「ツンな事を問はれては困つてしまふ。」
 「デモ無鐵砲に御認デあるまいと思ふ。クドい様ですが私の得心の行く所まで御伺ひ致します。」

「今の優良級受持教員の様なのです。けれども十分でないと思ふが、萬全は期せられない。今の處はあれで心棒しなければならぬ時代だと思ふ。」

「スルと今の受持も完全でない。失禮ですが私が優良學級を受け持つとして其の完全でない。ツマリ缺點を御指示下さいますならば、あなたが大體如何なる人物を以て優良學級を受持つに完全な人間だと思つていらつしやるか、わかる。」

「ソんな事は困る。僕には言へない。僕は君に満足のゆく様な返答は出来ぬ。」

「私も困つたですな。之れ位の御返答は堂々たる校長ともあらう人からは十分に理解された御言葉を伺ふ事が出来ると思つて居ました。ソレ位の教育説ならば別に心理學や教育學や哲學を研究する必要もないと思ひます。あの様な教員、女教員輩が優良教員だとは驚いてしまつた。開いた口がふさがらぬ。」

ですな。」

「シカシ悪い教員だとも申されませぬからね。」

「私に見ると悪いですな。」

「如何なる點がです。」

「デハ申上げませう。眞正なる愛は大に可として獎勵すべきである事は私の先程から度々申上げた事ですが、堀田訓導は如何です。あの様な女教員を先年七月に増俸し更に同年十二月に増俸し、又本年二月には二階級も飛んで増俸になつた。又あの子供にもおとる女教師を、色魔の如き娼婦型の如き女。アレを大變に好意を以て世話なさると言ふ理由が承り度いです。」

「イヤ堀田訓導の戀愛問題については堀田君の親も私の宅へ來た。そして以後そんな事のない様に申しつけました。今は多分ない事だと思ふ。唯俸給をあげたのは彼は過去に於て大變に安かつたからあの様に上げてやつた。」

「スルト、俸給と言ふ奴は安ければ悪い事があつても上るもので、俸給の高い者は悪

「い事がなくても上らぬと言ふ事になるんですね。」

「イヤ、さうではないが、彼の家庭は老母一人娘一人のさみしい家庭で、父は早くなくなり家政困難の中からもわづかの母の内職に依つて得た金で、ドウなりコウなりに教員養成所を卒業し、尋正となつて出たのを私が此の學校へ取つたのです。デ唯今は母も老體なり、尋常科の正教員である娘の僅の俸給で家計を立て、居る。生活も頗る貧弱なと言ふ次第で、君の如く家には澤山の不動産をもつて居り、本宅には留守番を置いて別荘の様にして何一つ不自由な事もないと言ふ様な生活とはちがふんです。ソコを私が同情したのです。」

「スルトあなたは公金を以て私的同情となさるんですね。」

「イヤ、さうではない。しかし増俸と言ふ事が公金を亂費する事とはちがふ。」

「ケレ共、同情とおつしやるのは私的感情でせう。ソノ私的感情を満足せしむべく公金増俸とは、事實に於て公費亂用である。家にいくらかの金の貯へもあるものには同情がない……私的の……ソレで力はあつても増俸相かなはぬ。ケレ共家貧だとすると

力もなく頭もなくおまけに悪い事をして居ても増俸してもらへる。と言ふ様な事は確に公金亂用である。堀田訓導は私も同情します。同情は自由です。ソレは私的感情だからです。けれども所もあらうに時もあらうに、電車の中まであの醜體は何であるか勿論ブラトニツクなものにはちがひない。しかしあの様では困ります。私は教育者を化石だとか木偶だとかは老へない。からして教育者にも戀のあるのは決して悪い事ではないと思ふが、ソレも程度だと思ふ。兎に角あなたは少しも人に指さ、れない人物が澤山あるのにもかゝはらず。撰りも撰りたりけり。あの様な人物のみを以て優良と見て居られる所が解し兼ねる。で「校長サンに妻君のないのは我々の幸福だ。」と女教員の言ふのもマンザラうそでも無い。又男教員が皆怒つて居るのもあなたが要するに女教員に厚いと言ふ事に原因があるんですね。あなたが御家庭は澤山の富を所有して居らるゝから今日學校長を止しても生活に不自由を感じる家ではない。それは私も知つて居る。しかしさうだからとて何時止めても良いと教育をオモチャにしてもらつては困る。教育は國家の大事業なんですから、之をオモチャにして女教員なんかをオザテ

騒がしてもらつては教育が崩れてしまふとおもひます。私に此の様な苦言を呈するの
も實は教育の爲、あなたの爲だと思つて被下い。良薬は口に苦し。この様な事を言ふ
のは私自身としても良い心地は致しませぬ。又聞いて居らるゝあなたも良い心地のす
る筈はなし。けれども言はざるを得ず。損だと考へながらも自ら死地に飛込む様なも
のですが、之も私の真心より出た言葉なんです。左様御承知をねがひ度いのです。」
「大體君の御意見は解りました。それで最後の一つの例は何ですか。」
「ソレは杉森君の件なんです。杉森君が……。」
「イヤ、ソレは私も承知して居る。デあれは私の大失敗なんです。何分にも内密に
願ひます。」

「私はソレを發かうと思つて居るのではないが、あの教育者としては不道徳、不行儀
極まる、即ち道徳上の大問題ではありませぬか。あの様な事を黙視して、彼を益々増
給し職員としては大變な重要な地位に置いたと言ふ事は一たい何う言ふお考なんです。」

「イヤ、ソレが私の大失敗なんです。」

「ケレドモ今になつてから失敗てふ事が解つたのですか。」

「イエ、さうではない。しかし彼の問題だけは何とか内密に致し度いものです。」

「イヤ、大體あなたの御意見を伺つて分明になりました。デ、私は今後一切私の増給
の申請はしないで置いて被下い。私はあなたに増給してもらはうと思ひませぬ。唯私
は此所へ赴任する時は三年間の契約ですから、今後二年間も此所に務めるつもりです
私は男一匹意地になつてでも此所にふみ止まります。デあなたが首にしよと思はる
ゝならば御勝手せう。首になる迄は意地を通します。デ私は教育上良いと思つた事
であれば、たとへあなたの命に反するともやります。又如何にあなたが命せらるゝと
も私が非教育的だと考へた事は決して致しませぬ。左様御承知をねがひます。」
「解りました。唯破壊的な行動のない事を切望します。」

「破壊は私がするのでない。あなたが破壊して居らるゝのではないか。私はあなたが
教育を破壊さるゝが爲に之だけの苦言を敢てしたのです。破壊は私になくてあなたに

なつた後は、此所の學校は女教師全盛だと言ふ事だ、何も不思議はない。藝者笑をす
るからだ。手を握らすからだ。一度手を握ると一段増俸してもらへるからだ。春山は
その最も有名なものだ。福田や武本などが校長の腰巾着となつて毎日提燈をもち廻つ
て居る相だ。

六 悲惨なる哉初等教育者の末路

私は再び私の友人の歌を借りて來る事にする。此の男は師範學校を卒業して小學校
教員を長く務めては居るが、天才は現代に容れられない如く、何所の天地でも容れら
れず、四十才に近い年をして居て今に薄給妻を迎へる事すら出來ない氣の毒な人であ
る。天の將に大任を下さんとするや、必らず其の人の身心を苦しむるものである」と
は支那の古聖賢の金言であるが、現今の社會では之は通用しない。稼ぐに追ひ着く貧
乏なし」と言ふ諺の今の世に通用しないのと同様に。明治の天才、若くして逝ける石
川啄木は、

はたらけどはたらけど尙我くらし

樂にならざりちつと手を見る

と詠んで居るではないか。福田博士や河上博士の數千枚に餘る經濟論文を僅に三十一
文字で言ひつくしたかの感がある。稼いでも稼いでも貧乏は追着いて來る。働けど働
けで尙我暮しは決していつの世にかは樂になる氣づかひはない。一方には使へども尙
我くらし貧しくはならずと言ふ人が澤山にある。困つた世の中である。さて私の友人
の歌に、

われ二十五人に教へて飯に換ふ

世にも光榮ある生業をする

一月の努力の報償三十に

たらぬかねをば得る日は悲し

教育は天職なればこがねなど

語るはいやしなどいふ校長

昔は稼ぐに追着く貧乏なしであつた。稼ぐだけ金はたまつた。稼ぐ者は金持になれた。今は此の経済的金言は——否とよ経済的真理は——遺憾なく破壊された。教育者だつて人間である。食欲もあれば色欲もある。妻もほしければ子供もほしい。教育は天職なれば黄金など語るはいやしなど、言ふ校長が澤山居て實際は口先ばかり、学校の公金を出来るだけピン引くことのみ考へて居るんだから困る。

何れの都市にても風景のよき住心地のよき所は丸に四角の所有者が大層高樓を争つて建て、庭園は池あり川あり山あり温室あり四時の草花は所得顔にさき亂れ、細民共が多くの金を出して得つゝある市の水道も夏のものなには断水すべきを憂ひ、僅の使役をもおしみつゝ、細き煙に飯をにつゝ、一日の空腹を漬物二三片に舌鼓打ちつゝ味はふあはれも顧みず。此の尊かるべき水道の水を、廣き庭園のもなかななる廣々とした池に引き來り、朝に夕に噴水の音断えず。朝には山海の珍味、酒池内林のうてなに遊び、夕には多くの美人にかしづかれては宛然阿房宮裏の歡樂に比す。出でゝはバルコニーの涼みに歌ひ、入つては晝をあざむくシャンデリアの光に酔ふ。世は又塵ながら

ず苦ならず。天の樂園もかくやはあらざらむ。大都の大路小路を疾走する自働車は彼等が酒池内林にあきて、四山に香る花街の花を手折りては、都大路に生業の爲に東奔西走する貧民にみせびらかす爲でなくて何であるか。外國に於ては自働車は一の實用的の車である。我國に於ては金持の玩具を乗せて走る道具である。昔は「ほとゝぎす都の空をすじかひに。」であつた。今の都は「自働車のヘッドライトがすじかひに。」である。まことに一度大都のものな四辻の繁華な地點に立ちて見よ。東よりも西よりも北よりも南よりも、ヘッドライトは不夜城をてらすサーチライトの如く、警笛の音高らかに道ゆく人を蹴飛ばして進んで行く。之等の多くは花街の花を手折りては乗せてあるのではないか。彼等の豪奢は今や其の極點に達して居る。こんな彼等にとつては有難い世の中にも「働けど働けど尙我くらし樂にならざりちつと手を見る。」となげいては若くして逝ける天才石川啄木があるではないか。一と月の努力の報ひ三十に足らぬ金を得る日はかなし。と歌ふ悲惨なる教育者がある事を忘れてはならぬ。世にもはえある生業かは知らぬが、一と月の報ひ三十に足らぬ金では筆一本購ふ事が出来ぬ洋

服や靴の問題ではない。住所や日用品の問題ではない。豊食ふ事が出来るか？ 尊か
るべき我生命をつなぐ事が出来るか？

私は此所に教育者の生活難とその末路を書き度いと思ふが、それより前に私は此所に割愛する事が出来ぬ材料を得た。實は唯今私の書齋になげ込まれた大阪朝日新聞の記事である。サラリーマンの内でも最も悲惨なのは小學校教員と巡査である。「光榮ある生業」であるかは知らぬが共にその生活はみぢめ極まつて居る。今左の挿話を新聞紙より切り抜き事をするしてもらひ度い。

大正九年八月四日の朝まだきの出来事である。新和歌の浦第二隧道附近松林の中に野犬の餌食となつて全身腐爛し惨殺後約一週間を経過せる八才と五才位の二人の少女の惨死體があらはれた。一人は絹の扱帯一人は古手拭を以て絞殺されて居る點から見て下手人は男と女の二人である事は難なく推測された。而も此の惨劇は現場に於て何等反抗の形跡なくやすくと兇手に殞れたる幼げき二人の可憐なるむくろを見ればたれか涙をせき止むるを得る者あらむ。和歌山署は必死となりて捜査につとめたる結果

山中叢の中より加害者の日記を發見し、本事件の真相が判明する事になつた。即ちかうである。加害者は大阪市外傳法町南二丁目鐵道院人夫三谷伊之助、及び妻しげの兩名で、殺されたのはその長女百々代(八才)と次女すみ子(五才)であつた。伊之助は和歌山縣伊都郡妙寺町中飯降の者で海兵團滿期後和歌山縣巡査を三年間奉職し後前記の如く大阪に轉じたが日々に加はる生活難は如何ともする能はず。遂に親子四人が悲惨や尊き生命を失つたのである。生前まで親子四人が雨露を凌ぎたる北傳法町五丁目三十三番地は月三圓の家賃にて伊之助夫婦が移り住みしは大正七年の春であつた。附近の人々の勤めによつて鐵道院製材所の職工となり月四十五圓を得て細き活計を立て居たるも、物價は暴騰又暴騰、所詮満足に木綿着物一枚購ふ事が出来ぬ。そして九年一月同所を辭し比較的収入よき西成驛の驛仲仕となつた。されども元來強壯ならぬ伊之助は忽腰を折り、去る四月中旬仲仕をやめて何のなす仕事とはなく職を得るまで一時凌ぎの借財は嵩みに嵩みて八百圓餘に及んだ。平素正直にして律義一方の伊之助は之が返濟法を苦し、身體が樂で金になるとの人々の話からアイスクリーム

賣りとなつたが、金にならばこそ、一日で止してしまつた。神よ何故に此の二人のあはれなる者を救はなかつたのか。遂に親子もろとも死出の旅路に急いだのであつた。七月十二日此のあはれなる親子四人は兵庫縣明石にあらはれた。彼等は一隻の漁船を借りて、親子四人が之に乗り漕ぎ出して身を投げんとしたるも果さず。此の所を日記には次の如く記してある。

七月十二日負債の結果親子四人死を決し明石に到り、漁船を雇ひ入れ死出の旅路に上りしも死に切れず、可愛さは我子の上にかゝり、涙をのむで引き返し、更に方向を轉じて他方面に赴く、十九日大阪に引き返し天満橋附近に至るも思ふ様にならず。更に城内に至りしも番兵の見張にて目的を達せず。二十六日妻しげは金策の爲に歸國の途につく。二十八日歸村。

とある。三十日は愈々薄命の親子四人が死を遂ぐる日である。之より先七月十一日夜附近の道具屋池内と言ふ男に家財の値踏みをさせ、十二日には餅箱三個、米櫃一個、釣道具、蒲團大小七枚と、十三圓にて佐々木質店に入質しある着物と、一切合切六十

圓にて賣り拂ひ、近所の人々には「國へ歸ります皆さん御きげんよろしく。」との挨拶を残して立ち出たのであつた。そして其の際には附近の人々より子供に至るまで、巡査したり、當時の名刺、海軍の徽章等を形見に分けて「もう二度とは御目にかゝれませんまい。」とのあはれな一言を残して立ち出たのであつた。中にも涙のといめあへぬは可憐なる百々代の手紙である。幼き筆にて無二の親友福崎福枝に宛てたる手紙は流石に鬼神を泣かしめるものがある。

福枝さん。ゆるしてください。私はお父様やお母様と遠い遠い所へいつてしまひます。福枝さんも今頃は一人學校で淋しがつて居るでせう。

宛名の福枝は今年八歳、伊之助方の向ひに住ひ居り、二人は本年四月より傳法小學校に通學した學校友達であつた。福枝の父丑松は次の如く語つて居る。

伊之助さんは海軍の兵曹から巡査に奉職しられた人で物事のよくわかつた方でした。此の方へ來られてから三年になります。近所の人と一回も衝突された事はありませぬ。愈家を明けて出て行かれる七月十二日の朝珍らしくも百々代さんの爲に唐縮緬

一尺九〇銭のを一反買つて來られて早速着物に仕立て、午後四時頃近所へ挨拶に出て行かれました。その時百々代姉妹は何れも新調の下駄をはき、伊之助さんは特に私の娘の福枝に「永らく百々代と仲好くしてやつて被下いました、二度とお目にかかれぬかわからぬから、記念の爲に。」とて自分と百々代さんとを寫した寫眞を一枚下さつてそのまゝ名残り惜しい袂を分つた次第です。姉妹はそれはそれは可愛い、お子達でした。」

愈々三十日、はかなき運命をのろひつゝ、新和歌浦第二隧道附近鷹巢山松林の内に現れたる親子四人。妻は直ちに一枚の紙に鉛筆の亂れ書きにて。

「百々代は私の言ふ事をよくききました。最後に學校を休んだので級長になれぬ。近所の福枝さんに負けると言つて居ましたので、死につく最後まで私は字を教へてやりました。私も將來のある子供を殺すに忍びんが自分の死んだ後を思へば如何にもあはれなれば伴ひ行かんと話しましたら、お父様やお母様と一所にならば何處へでも行き度いと申します。」

血を吐く思ひの時鳥、くるしき胸を筆にまかせての亂れ書き、讀むものをして、うたゝ人世のはかなきをおもはしむるのである。二人は各々一人づゝの血を分けた可愛い、いとしの我子を心を鬼になして殺さんとしたれども手ふるへ心わなきて如何ともせんすべもない。「百々代ちゃん。お父様もお母様も之から遠い遠い所へ行つてしまひますの。あの世には大變に美しい楽しい家がありますのよ。之から行かうと思つて居るの。百々代ちゃんは一所にゆきますか。」「アイ、お父様やお母様の御いでになる所へは、何んな所へでも私行きたいわ。」可憐な小女の無邪氣な一言は神もあざむく事が來出ぬ。かくして彼等夫婦は心を鬼になし、二人の愛兒を絞校し、同じ場所にて二人とも死ぬ筈なりしが遂に得ず、七月三十一日午後三時、新和歌浦を去る約一哩里の沖合には若き男女の死體が水泡と共に浮き上つた。

私は此の記事を書きつゝ泣いた。如何にしても涙止めあへぬものがある。右は新聞記事の文面を私が改作したものであるが事實はちがはぬつもりである。讀者の中には伊之助を腰ぬけだと思ふ方もあらう。男一匹、死なずとも何とか出來さうなものだと

けれども日々肉迫して来る生活難は彼等が糊口に窮して居る場合には想像の出来ぬ大敵ではないか。まして伊之助は新聞記事に依れば身體病弱の由傳へて居る。おまけに彼等に取つては八百圓は容易に返却の見込なき大金である。或は一生涯返濟不可能かもはかられぬ。初め四十五六圓の月給で生活して居た由であるが眞に四十五圓や五十圓の金は親子四人が露命をつなぐにはあまりに僅少である。果然彼等は浮世の窮乏生活を捨て、未來永遠不死の境地に旅立つたのである。月給四十圓乃至は五十圓。果して親子四人の生活が出来るか？ 小學校教員の俸給は尙之よりも至つて僅少である。知らず全國の初等教育者は如何にして生活をして居るであらうか。水泡と共に浮き上るべき死體は彼等伊之助氏夫婦のみではない。薄給に泣く教育者の死體は至る所に憂き世の水泡と共に浮き上つて居る。全國の教育者は生活難の極骨と皮となつて、あはれや殘骸に鞭打ちつ、身を教壇に運んで居る。教育者は神ではない。食はねばならぬ。洋服を着なければならぬ。靴をはかなければならぬ。家に住まなければならぬ。まさか露天に天幕をはつて住むわけにも行くまい。彼等には妻もある子もある。中に

は不生産的な老父母がある。まさか不生産的だからつて老父母を姨捨山へ捨てに行く事も出来ない。田毎の月はどんなにきれいで捨て、くれとたのむ老爺もあるまい。果然彼等の食つて居るものは身體を強壯にし血液を増加し舌に味のあるものではない。過去の身體を、唯是れ露命をつなぐだけの食物である。米が五十圓するではないか。之に加工して吾人の口に入るまでには一升の米が七八十錢にはたしかにつく。彼等の洋服は唯名のみである。形だけが洋服である。實は百姓の仕事服の方がよほど上等である。彼等の靴は長き生活難に疲れた御本人の顔の様になつて居る。月五十圓の俸給で果して靴の直し賃が出てくるであらうか。若し出て來るてふ一大発見が出来れば有難いが先づ不可能である。彼等は家と言ふ名ばかりの所に住んで居る。それも家賃が暴騰して居るから二間も借れば七八圓は月に支拂はされる。彼等にとつて七八圓は大金である。武士は食はねど高楊枝であるなど、金錢を輕視した徳川時代の武士は皆滅亡した。教育者も今に滅亡するであらう。徳川時代はそれでもよかつた。二十世紀の文明は食はずに高楊枝を使ふ事をゆるさなくなつた。教育者は金を儲ける商賣とはち

がふ。からして金の事を言ふはいやしなど、思ふは誤りである。金を儲ける商人でなければ金の事を言ふのはいやしいと言ふ三段論法は立たぬ。教育者も金の事を大に言はなければならぬ。現今の教育は社會學經濟學を根本とせなければならぬ。唯教育と言ふ事が金が目的でない事は事實である。戦國時代に公卿に面會をもとめた人があつたが、夏の着物がないとて面會せず、強て面會を求めたら蚊帳を身にまとひて出て來られたとの事が歴史の書物に出て居る。今の教育者は蚊帳をまとひ、教壇に立つて居るのだ。教育界の戦國時代である。

そこで教育者は他に轉じ様とする。商賣をしようとしても資本金がない。會社へ入らうか商店へ入らうかとあせつても素養がない。轉職してもすぐ失敗する。之は教育者てふ一つの専門家であるからだ。かくして又本の教育者に逆戻りする。教育者は教育を行ひつゝ、教育に殺されて行くのである。之が第二の國民に及ぼす影響は如何なるものであるか。寒心せざらんと欲して能はざるものがあるのである。

私は此所に事新しく教育者の家計簿の様なものを持ち出さないうで置かう。そんなも

のはもち出さなくても分り切つて居るからだ。夫婦に子供一人として月五十圓の月給での生活は算盤がどんなにしても持つてぬのは分り切つた事である。教育者で五十圓と言ふ月給は随分によい位置でなければならぬ。ソノ生活は推して知るべきである。私は教育者の悲惨なる生活の一例をもち來るに止めるであらう。

私の知つて居るSと言ふ男が病氣になつた。初め一月二月の間は時々腹痛があつて一時間休んだり二時間早引したりして居たがどうもはつきりしない。月日がたつにつれて劇痛が起るけれども、二三時間たつと又もとの状態にもどる。醫者に見てもらふにも金はなし。僅に二十五圓をもらつて自分一人が食ふや食はずの生活をして居た。所が一方校長は同情のない者である。あれは病弱だから授業に倦むと腹痛だと言つてサポタルんだと思つて居た。がドウも直らぬは事實である。或日校長はSを呼んで訓戒した。Sも口答は出來ぬ。首になれば大變だ。病氣の所へ月給をもらふ事が出來なくなれば大變だ。ハイハイと聞き流しにして居た。所が校長の訓戒は益々嚴重になつて來るし病氣は益々重くなつて來る。如何ともする事は出來ぬ。時には校長は机を

たゝいて怒る。尙、時日が過ぎて同じ状態がつらくと今度は蹴り飛ばしたり、擲り飛ばしたりして学校の貴重なる備品である所のSの机や椅子をタ、キつぶしてしまふ程腕力にうつたへて叱る。如何に大人しいSも今は之までなりと校長に其の心中をうつたへたが、愛なき校長は頑として聞かばこそ、或る日私はその男の宿所を訪ふた所、折も折なり劇痛の爲に七顛八倒して居る。のたうちまはりて苦しみもだゆる様見るも氣の毒の至りである。私は私で出来るだけの世話もし醫師もむかへたが、大變な事には臆石とか言ふ病氣で肝臓に石がたまると言ふ生命に關する大病であると知れた。そして醫師の言ふには早く手當をしなければよくない。病院へ入院して手術せなければ命が危しとの事であつた。困つたのは本人である。金はなし。病院へ入るべきには大した金が入る。私はSに言つた。早く病院へ入院して全快しなければならぬ。君には老たる父母がある。今死んでくれば大變だ。けれどもSは金のなき事を苦にして如何ともする術を知らぬ。先づ種々人の手をかりて大學病院へ官費入院を許可さるゝ事になつた。けれども一文もなしでは如何ともする事が出来ぬ。彼は彼の有り切りの

財産である所の机本箱、及び彼が僅少の金をたくはへて購入した彼の生命とも言ふべき書籍の外彼の所持品全部を賣り拂つて僅々二十圓餘の金を得た。私はあちらやこちらの知人の所へSの書物や本箱を賣りに行く時の氣の毒さ。私は何とも言ひ得ぬ悲哀の感に打たれたのであつた。若しも自分に僅少なりとも金があつたらば賣りに行かずに置くものと思つた。徳富健二郎氏が「黒い目と茶色の目」の中で自分が戀に落ちた同志社女學校の娘と東京へ落ち行くべく自分の机や本を寄宿舎で賣り拂ふのとは大分に趣がちがふが、私はSの書物や本箱を賣りに行く時、黒い目と茶色の目を思はずには居れなかつた。職員の内でも彼に同情する者は一名もない。否同情したいが金がおしい。校長は随分の金持であるが決して見向きもしなかつた。かくして先づ入院は出来た二十圓の端錢も出来た。一月位は十分である。老たる母は僅の耕作もさて置き病床に侍して居ると言ふ有様。けれどもこんな大病が一ヶ月や二ヶ月で全快する見込はない。私は彼にギロチン斷頭臺の上に登るつもりで大手術を受けよ。生命は神にまかせよと忠告した。彼は思ひ切つて大手術を受ける事になつた。彼が今に生命の

あるのは全く此の大手術を受けた御かげである。

此の挿話は別に大した事ではない。が教育者の末路はまことに悲惨なものである。一度病氣におかされては遂に再び浮ぶ瀬がないのである。そして今の醫者は金を取るのである。一度で良い所を十度も二十度も通はせる。例へば齒が痛む四度か五度で直る所を一ヶ月位は通はせると言ふ風だ。全く金を取る。ソシて眞に親切ではない。貧乏人だといふ可減にして置く。現今の醫者程たよりない者はない。醫者に金のたまり相な理窟はない。然るに今の醫者は皆金をためる。開業して二三年もすると家を建て倉庫を建てる。田地をかふ。妾を置く。ソレは人の生命をあづかり、命を引き止むると言ふ大責任のあるものゝすべき事でない事をやる。何でもない、病人は弱味である。醫者にたよらざるを得ぬ。ソコで弱味につけ込む風の神である。薬なんかでも決して高價なものではない。薬局法と臨床醫典位あれば素人でも出来る、そして極安價なものである。之は別問題だが私は眞に國民の爲に——否とよ貧しきものゝ爲に十分安價に薬を給する方法及び十分に親切に見てくれる醫者——公の醫者を置

く必要があると思ふ。實際従來の醫者、徳川時代の醫者は確に親切であつた様だ。

話は横道になつた様だが私はもとに戻つて物語りを續けるであらう。で教育者が病氣になると校長や視學など言ふものは何等親切も何もなく唯退ひ出してしまふ事はかり考へて居る。かくして病氣になればそれこそ教育界は地獄である。あはれなる哉小學校教員の末路よ。で年々師範入學者が減する。ソコで師範學校長輩はすぐウソをついて生徒の募集をやる。ナカナカ有難い様な廣告をする。地方の青年はその廣告にだまされて入學する。廣告には卒業するといきなり三十圓位の俸給を給する様に書いて居る。所が卒業して見ると三十圓くるとする。所で十年前前に卒業したものが皆四十圓五十圓位で居るからなかく増俸にはならぬ。いつまでも三十圓位で末席をけがして居なければならぬ。かくして教育界には若朽者と言ふ變な人間を作つてしまふ。

私は此所で一寸生活と言ふ事について考へて見たい。一體生活と言ふ事はどんな事だらう。食物を食つて生きて居る事が生活であると言つてしまへば頗る簡單の様だが

實際はそう簡単ではない。否とよ頗る複雑極はまつたものである。前にも書いた通り人間の生活程に多種多様なものはない。物を食ふと言つた所が何を如何なる場所でもんなにして食ふんかと言ふ事がちがふ。唯露命をつなぐ爲に、ヒボシにならぬ程度で食ふと言ふ事も、御殿の様な立派な居室で山海の美味に舌を打ちつゝ食ふと言ふ事も共に「食ふ」のであるが、唯食つて生きて居るだけならば犬や猫でも食つて生きて居る。味が良いと悪いとは別である。命がほしいから何か食はなければならぬで食ふんだ。毎日汗を出して働かなければ食へぬから働くんだ。ソシテ露命をつないで居るんだ。果して生活とはこんな事なのだらうか？ 私は生活と言ふ事は今少し人間的な事だと思ふ。唯食つて犬や猫の様に生きて居ると言ふ事は生活でも何でもない。食ふと言ふ事は一の藝術だと思ふ。自分の満足する居室で、美的に食ふと言ふ事が出来なければ生活とは言へない。唯生命をつないで居ると言ふだけでは生活でない。一週間に一度位は家族一同が立派な料理店に入つて人間として生れた幸福を祝福すると言ふ事は位は教育者に出来なければならぬ。所が教育者なるものは眞に生活して居ない。教育

者は生活して居るのではない。生活しようと思つても出来ない。犬や猫の様に唯露命をつないで居るだけが「犬もあるけば棒にあたる」と言ふ事があつて教育者も時々棒にあたる事もある。教育者は犬である。猫である。唯食ふて生きて居るのみである。料理店に出入する事などは年に一度も出来ない。果して一生に一度も出来るか？ 疑問である。果して人間の生活を味ふ事が出来るか？ 人間の生活をなし能はざる程に虚遇されて居ると言ふ事は即ち社會から殺されて居る事なんだ。例へば五十圓の俸給者があるとして、家賃十五圓——實際都市で十五圓と言ふと眞にみぢめなものである、——家族は四人として米四斗を二十圓と打算すると残額は正に十五圓である。露命をつなぐと言ふ事のよい標本である。此の残額十五圓で生活すると一人の月平均生活費四圓也である。市都市に於ける教員の多くはこの様なものである。他の大都市に於ても同様あまりに大差がない。私は教育者が果して如何にして食つて居るか？ 疑問である。外米に鹽位をぬりつけて食つて居ても俸給だけでは生活が出来ぬ。日外米價が高くなつた時外米をすゝめられたものだ。或る官僚の男が「自分でも外米を食つて居る

から教育者は是非とも食はなければならぬ。」と。ソシテその大官は教育者に外米を食ふ事をすゝめた。何ぞ知らん此の大官は外米をライスカレーにして食つたのだ。教育者でもライスカレーにすれば食へるがどうもあのまゝのものを食ふてふ事はまずい極みだ。しかしライスカレーにすると外米を食ふ方が高くつくのだ。官僚など言ふものは外米位食はせて置けば教育者は先づ死にはしないだらうと、動物園の動物を飼つて居る様に思つて居る。動物園の動物ならば教育者より金程立派な生活をして居る。立派な洋館の中に生活して牛肉と豚肉を一日に二貫目も三貫目も食はせてもらひ、冬はストーブを入れてもらつて寒さをしのいで居る。教育者は動物園の動物よりも余程低級な動物なんだ。要するに生きて居るだけなんだ。さて教育者は先づ生きて居るだけにはたしかだ。此の生きると言ふ事は生命をつないで居ると言ふ意味である。人間の生活と言ふ點から言へばモウ既に昔に脈が落ちて居る。先づ要するに露命をつないで居るとして、さて次に考ふべき事は臨時の場合である。月々の俸給は人間的な生活は出来ずとも先づ露命だけはつないで居たが、にはかに病人が出来た。生活の費用の全部

の生産者たる自分が大病になつた。最愛の妻や子供が床についた。此所に於て全生命は休止してしまふ。臨時の費用は常時に貯金せよと言ふ論者もあらうが、貯金が出来ない位であれば凋落の生活など送る必要はないんだ。切りつめた生活に貯金——貯金と名の附く様な、臨時の大病を救ふべき費用と言ふ様な事の出来る貯金——が出来ると思ふのが誤りである。あはれや病妻が床に侍して露命を引き取るのを見つゝ身の薄命をかこたねばならないんだ。

教育は國家社會の盛衰にも大なる關係があるものであるから、都市改良論者や都市經營論者は學校の事について、十分なる注意を拂はんければならぬ。都市のみに限らず町村に於ても同様である。近頃都市問題や社會問題が随分にかましようなつて來た。ソシテ各都市は都市改良や社會課の設置に多忙を極めて居る。しかし一向に教育そのものと交渉してくれぬ。私の考察を以てすれば都市計畫の第一歩は教育であると思ふ。社會課の役人の第一の仕事は之も教育である。都市の擴張もよい事だ。家屋道路の如きもの、整理も良い事だ。更に下水道の如き衛生的方面より交通運輸の方面は更な

り。公設市場。職業紹介所の細部に至るまで、決して重要でないものは一つもない。之等はトクの昔にチャンと出来て居なければならぬものである。今じぶんにさわざ立て、居ると言ふ事は大分はおそい話であつて今までの施政者の無能を證明して餘りありである。唯今時分にも気が附いたと言ふ事は、気が附かぬよりもましである。所が此の大問題に気がついたは良いとしてその大問題の大問題たる所以を知らない。要するに外國の形式をまねたまで、あるから少しも其の本體を明にしない。社會課の仕事と言ひ都市問題と言ひ要するに其の第一歩に於ては教育に向つての研究が必要である。此所に謂ふ所の教育とは頗る廣き意味で言ふので、決して先生が教室で兒童に字を書かせて居ると言ふ様なせまい範圍で言ふんではない。もつと廣い教育の意味である。

却説教育と言ふ事に最も必要なのは教育者である。此の教育者一つで教育がどんなにもなる。教育が盛になるか衰へるかば教育者一人に存する。若し眞に教育者がその天分を全うしない時には國家百年の計も水泡に歸する。社會問題が如何に論議されや

うが、都市計畫がどんなに立派に出来やうが水の泡である。太古のローマが滅亡したのを見よ。エジプトの文明は今やおぼろげに歴史の頁に、残つて史學者や考古學者の探究に依らなければわからぬ程に昔に滅亡してピラミットにその殘骸を物語り、ロセツタ村の石に依りてわづかに昔の盛大をしのぶ事が出来る位なものになつてしまつた。彼等の都市計畫は現在二十世紀の日本に於て論議されて居る様な小規模のものではない。彼等の社會問題は世界強國の一たる我帝國に於てやかましく言はれて居る様な幼稚な、不徹底な、低級なものではない。眞に彼等の都市計畫と言ひ社會問題と言ひ、實に根本的、徹底的のものであつた。然るに今やあはれなる殘骸がサハラの砂漠の夕陽に映らされてヌビヤの風にその悲惨を物語らねばならないのではないか。その原因は何であるか。彼等は教育を第二——否とよ第三にも第四にもした。國民の心の中の都市計畫が出来て居ない。國民の心の中の社會問題を忘れて居る。教育を中心とした社會問題や都市計畫は風前の燈火の様にすぐ消えてしまふ。ヌビヤの風に消えてしまつたエジプト文明である。私は我國の都市計畫や社會問題がヌビヤの風に消えてし

まふ様なものではないかと心配して居る。教育者は大なる都市計畫者でなければならぬ。教育者は大なる社會學者であつてほしい。眞の國家の建築は教育者に依りて行はるべきものである。教育者は眞に偉大なる國家の侍醫である。果して我國教育者中にかくの如き人物が一人でもあるか？ 上文部大臣閣下の人格や如何。下教育者の自覺や如何。

現在の社會は教育を重大なる社會的事業と見ない。又教育者も眞に自覺して居ない。社會が教育者を頗る虐待するし教育者も親切にやらない。此所に大なる矛盾が存在して居る。

教育の仕事は金儲ではないからして、教育者は金儲で仕事をするのではない。之は眞理である。幾百萬年の後も教育者はかくあるべきものだからとて、教育者を虐待するのは眞理でない。教育事業が金儲でないからとて教育者を虐待して良いと言ふ論法は成立しない。金儲でないからして十分に待遇を良くすると言ふのが眞理である。然るに官僚などは矛盾した考を以て居る。彼等はかう思つて居る。教育者は金儲をする

仕事ではないからして、待遇も良くする必要はない。先づ薄給にても我慢させて置くが良いと。彼等官僚輩の考の多くは、否とよ社會全般の考はかうである。丁度三つ子は言葉も出でず寒い熱いも言はぬから先づ大入は寒くなつて綿入を着ても子供は單衣でおけと言つた様なものだ。之位わけのわからぬ事は又とあるまい。デ教育者が待遇問題を云々するとお役人の方では「教育者が金の事を言ふとは不届至極だ。」とあつてその首謀者には例の「首だぞ」とやる。あはれ教育者は自由を奪はれて學校の片角に少なくなつて居なければならぬ。丁度僧侶が寺院の中にとちこもつてしまつた様にソシて葬式屋と言ふ一の職業となつてしまつた様に、教育者は今や生徒に號令をかける職業となつてしまふ。果してかゝる現狀に到らしめた罪は何人に歸するか？ 今や教育者は初期の基教教徒の様に地下のカタコムに主を禮拜して居るのである。

教育者は動物の内の人間である。ソシて人間の様な生活もなし得ずカタコムの中に泣いて居る。教育者も人間であるからには食つて着て住むでゆかなかちやならない。妻をもらう必要もあり、子供の教育をする必要もある教育者だかとして、肉食妻帯を禁

するわけには参らぬ。然るに教育者は實際に於て肉食妻帯を禁止されて居るのと同じである。實際妻帯する事が出来るか？ 肉食する事が出来るか？ 眞に教育者の告白は安樂に自然にソシテ全力を盡して教育する事が出来ぬと言ふ事にある。自己の壽命を如何にしてつなぎ得るかを考へつゝ他人の子供を眞に教育する事が出来るかを考へて見るが良い。人間の欲望の内では強いものは生存欲である。而して自己の生存を脅やかされつゝ如何にして教育が出来ようぞ。金がないから一日の勞を四條河畔の夜景に流す事が出来るか。日々に壓迫して來る生活の不安をおそれながら彼の不潔なる煤煙の下に如何にしてか教育の根本義を一の強固なる主義と主張のもとに實行する事が出来ようぞや。實際に於て教育者は生活して居るのではない。生活と言ふ事は前にも言つた如く三度の食事をして、曲りなりにも破れた帽子や洋服をまとつて、毎日七時から午後の電燈のつく頃まで事務を取つて、電車と言ふ文明の利器も金の爲に應用し得て、勞れた足を引きづりながら毎夜生活の悲哀を夢みると言ふ様な事を言ふのではない。生活と言ふ人間として最も有難い事を味ふを得ざる人間があるならばソレ教育

者は病氣にはならぬと限らぬ。三ヶ月も床に居ればすぐ退職となる。現今教育の問題は教授の問題ではない教育學の問題でもない。教育者をして如何にすれば全力を注がして教育事業に當らしめ得べきやの問題である。大日本の教育はかくして次第次第に凋落して行くのである。

私は先日の新報で東京女子高等師範學校の小林教務主任が文官分限令第十一條第一項第四號に依て休暇を命せられたと言ふ見出しで、それが堀江博士の講演からだと言ふ説明を見た時に、之ほどわけのわからぬ事が世の中に否とよ教育界にあるものかなと馬鹿くさくなつてしまつた。文官分限令第十一の第一項四號とは官廳の都合に依りと言ふ法文である。教育者は何の失敗はなくとも都合次第で何時でも首になつてしまふのである。女子高師の教授主任と言へば随分に教育者としてはエライ人であらねばならぬ。此のエライ人が官僚の都合で何時でも首になるのである。まして小學校の教員どもは都合次第でどんなにでもされてしまふのである。

此の際に大阪朝日新聞の東京支局記者が小林氏を訪問して居るが、その訪問記事の

内に次の如く小林氏は語つて居る。

堀江博士の講演より他に私が休職にされた理由はない。彼の講演の内には富豪は富の掠奪者であるとか、現代貴族階級、華族階級は石田三成に仕へたか徳川家康に仕へたか、若しくは日清日露の戦争に際し多少表面にあらはるゝ仕事をしたかに過ぎぬとか、其他現代の社會制度を罵る言葉が少くなかつたので其際私は第二の森戸事件だと大に湯原校長と争つた云々。

之位な講義を以て第二の森戸事件だなど、言つて居るのはいさゝかおめでたい感があるが、之を以て首にするのもちとむごすぎる。しかし森戸事件だなど、湯原校長と争つた様なあまりにひらけぬ老教員は教育界から首にしても然るべきである。私は小林と言ふ人の爲に言ふのではない。之位な講義の爲に教育者を首にする事は大まかちかひであるし、之位な事を第二森戸事件だとさわざ立てる事もあまりに開けて居ない。しかし教育者は之位な事で首になるのである。却説首になつても良いとして首になると食ふて行くのに困る。小林とか言ふ様なエライ人はお困りにならぬだらうが、小學校

の教員は日本全國おそろく首になつて食つて行ける人が居るであらうか？ 家に財産のある人は別として、ソレは自分で食つて居るんでないから例外であるが、首になつてから死ぬまで食つて行ける様な貯金は教育者には出来ない。薄給の上に貯金をして居る様な教育者は殊勝と言ひ度いが實はマヌケである。薄給で貯金して居る様な教育者は教育者として價値なしと見て良い。私を知つて居る教育者で今小學校の小使をして居るのがある。眞に職業に貴賤なしならば良いとして、職業には事實に於て貴賤高下があるではないか。職業に貴賤なしと言ふ事は或る道學者や御用學者の口にする所で、職業程に貴賤のあるものはない。或る青年を奮起せしめ、活動せしめる方便の格言としては良いかも知れぬが、今の青年はなかなかソんな安價な格言に満足する程馬鹿ではない。

大阪毎日新聞に小學校教師の偽らざる告白でふ題下に次の記事が出て居た。

私は二三ヶ月前大阪市の小學校教師として地方から來た者ですが生活上の不安は日一日と増すばかり、私は師範學校を出てもう五年になります月收は六十五圓で

す。學校の小使は六十三圓許り貰つて居ます。之で凡てのものを物質で以て甲乙を見別ける大阪で暮して行けるでせうか。洋服を一着作る爲に故郷から送金を受け、三日の旅行に一ヶ月分の収入が入る有様です。下宿と洋服代を拂ふと残りは殆んどないので併し此の職を棄てんとすると六週間現役の爲に兵役に就かねばなりません。當局は今度の俸給令改正で高級者は二等の進級を行ひ我々下級者は何等恩恵がないのです。之も大阪式だと涙を呑んで堪へても堪へられないのは精神的打撃です。所が學校では何等告別式も行はず。送別會も行はず、逃ぐるが如く學校を去つたのです。朝夕手しほにかけて育てた子供も一向平氣で道で出會つても全く知らぬ人の様な顔をして通る。噫何たる悲惨な事とせう。六週間現役の爲に國家から縛られ、市當局は此の弱みにつけ込みて老人輩の高級者にのみ厚くする方針を以て待遇せられ、五年七年の間月々十圓二十圓の補助を父兄より受けて此の天職に盡してゐる。學校の仕事は決して老年者に負けない熱もあり誠意もある。併し一生懸命働いたとて末は薄命だ。否現在がすでに薄運である。俸給が少いなら精神的慰

安が欲しい。之は大阪市に奉職する少壯教員の殆んど全部が願ふ所であらう。學校内で少壯教員の思想の一日と危険な方面へ傾きつゝある事が、めつたに巡視なさるぬ市視學にはお解りにならう筈がありませぬ。私は私の知つて居る事を露骨に申し上げます。露國の〇〇に就き最も熱心に耳を傾くるものは小壯教員であります云々。

(小學校教師の一人)

確に此の一文は初等少壯教員の血あり熱ある告白であると思ふ。文の巧拙、理論の當否はさて置き、私は現今大阪に限らず全國の少壯有爲の教育者は、その多くが此の考に共鳴を感じるだらうと思ふ。之に對して澤山な投書が新聞社に舞ひ込んだらしいが、多くは此の種の教員排斥の聲であり、その多くが兒童の父兄などで教育の書物一冊讀んだ事のない、つまり教育論をするとしては無學な輩の所論にすぎない。デつまり教育と言ふ根本問題に立ち到つて、馬鹿者の言葉なのだ。しかし此の馬鹿者父兄と言ふ奴が随分澤山あつて、否とよ兒童の父兄など言ふものは多くは馬鹿なんだから教育者になつても困つたものだ。中に次の如き投書もある。

露國の〇〇に熱心に耳を傾くる義は少壯教員だとは當局の神經過敏に付け込む脅迫的辭言である。私はあの告白を讀んだ瞬間戰慄を禁じ得なかつた。教員全體に極度の悪感を起し我子の通學は止めようかと思つた。

我子の通學を止めようと思へば止めたがよからう。何も心配する事はない。多くの父兄母姉は我子がどんな馬鹿でも低能でも天才の様に思つて居る。こんな父兄は毎日學校へ通學せしめないで自分で自分の子供を教へるが、ソンの兒童は學校の方も來て貰はうとは思つて居ないんだ。脅迫的辭言であるか否かは別として、之が心より出た告白だから致し方がない。尙他に投書に

誰にも不平のある習ひだから一概に此の教員の告白を卻けるのではない。或る點には同情もする。併し私は私の子供の此種の教員に依て教育して貰ふ事を絶対に忌避する。(兒童の父兄)

絶対に忌避するならば、學校へ通學せしめないでおけ。私が教へてやらうと言つて自分が教育すると一番上手に教育が出来ると思つて居るのが御目出度い。別に「同情

する」必要もない。天下の有爲の教育者は皆此の思想だ。天才の心理が凡夫に解つてどうする。遠大なる理想を有する教育者の心が凡人に解つてたまるものか。凡夫ならまだました。教育學の低能者たる父兄位なものに解つてどうなるものか。馬鹿者の言語も聞いて置くと良い事もあるから投書の内尙二三を摘録する事にする。

現今は中等學校の卒業者で四十圓の月給が相當だ。安くても相場なのだから仕方がない。當人達はモットほしくもあり不平もあるだらうが、兎角辛棒してそれで暮して居る。府縣の補助で殆んど學資を要せずして師範を卒業し五十圓取れたら割の良い方である。現に六十五圓の収入があればその範圍内で賄つて獨立獨行するべきである。洋服代がどうの、三日の旅行に一ヶ月分の給料が入るの、父兄から毎月十圓二十圓の送金を乞ふのと並べ立てるのは愚痴だ。假初にも學校の先生ともあらうものが貧乏長屋の傭衆の如き愚痴を並べるのは見つともない。

世の中には此の様な事を書く馬鹿者も居る。堂々たる毎日新聞社が貴重なる紙面を此の愚論に惜げもなくさいて居るのは如何かとも思ふが、又我々の參考として世の中の

父兄を知る上から利益がないとも言も兼ねる。私が此の愚論を此所に引いたも、その意味である。尙又かゝる所説を敢て鐵面皮にも出す者は卑賤人の常だから致し方がない。此所では馬鹿を研究するんだから馬鹿の愚論も引用すべく又止むを得ぬ。第一月給を教員の相場と言ふ事がすでに馬鹿者の言ひ相な事だ。次に學費を要せずして師範を卒業し云々と言つて居るのが馬鹿者の第二の真相を現して居る。官費と言ふ事は現今唯名のみで實は私費である。又官費であるから卒業後小言を言ひ得ぬと言ふ論法は立たぬ。官費にしなければ教育者と言ふ様な生きて行けない商賣を誰がするか。由來日本人は馬鹿が多い。ソノ證據には歐米先進國に後れて居るのでも知れるだらう。教育者ともあらうものが貧乏長尾の鳴衆の如き愚論」と此の馬鹿は言つて居るが、世の中の馬鹿者が多い爲に教育者は裏長屋にも住む事が出来ない様な事になつて居るんだ。馬鹿も此所に至つて徹底して居る。所が教育者の内にも前の小學校教師の様に血あり熱あり新聞にでも投書して見ようなど、勇む有爲の人もあれば又他方には官僚の奴隷となつて居るオメデタ先生も御座るんだから仕方がない。一教員の曰くに、

彼れ告白者は教員の風上にも置くを許さざる徒輩也。校長たるものは即時之等の不良教員を神聖なる學園より放逐せざるべからず。彼は吾人大阪市少壯教員の名を用ひて吾人の面に泥を塗りたる者なり。(一少壯教員)

一かどの名文の御つもりだらうが中學校の一年生の作文練習の様なものだ。こんな事を書く奴こそ教育者の面に泥を塗つて居る者だ。こんな徒輩は官僚に阿諛して唯是れ自分の位置のみ全からむとして居る奴にきまつて居る、校長に放逐せよとはおめで度い極みだ。小學校長はソンの權利のある者ではないんだ。何でも彼でも校長様々で通して居る奴は濟度し難い。大阪の教育界にもこんな教育者が澤山に居る事だらう。自己の主張すべき事も主張し得て校長や視學の奴隷となつて反デモクラシーを主張して居る様な者を教育界より一日も早く放逐し度いものである。私はあまり馬鹿者の愚論を多く此所に引用する事を止さうと思ふ。唯今一つ何か覺つた様な覺らぬ様な投書があるのを摘録する事にする。

貴下は自分の主張に對して父兄自身が自分の態度を内省して見るがいゝと言はれた

が、私は同時に貴下に對してモウ一度貴下自身に内省して見なさるが良いと思ふ。貴下は最初何故に教員を選んだかと言ふ事に振り返つてみる必要はあるまいか。若し貴下が物資の要求に依て教員を撰ばれたのであれば其の第一歩に於て誤つて居られるのです。日傭人夫が假令一日百圓の収入があるとしても、怠惰な華族が暢氣な生活をして居るとしても、それは何所迄行つた所で日傭人夫であり怠惰な華族であります。貴下が一圓五十錢の収入しかなくとも教育商買人でない限り、何所迄行つても立派に學校の先生である事が出来ません。貴下がより以上の収入を望まれるのならばすぐ教育商賣に早變りをする事です。然しその場合貴下の物資欲は何所迄行つて満足し得るかを考へて見る必要がありませう。父兄も公衆も小學教員の収入について内省する必要があるでせうが貴下等も亦モウ一度是非内省して貰ひ度いものです。(愛樂生)

此の男は一寸物のわかる男と見える。他の馬鹿者共の投書よりも大分に上手だが、此の覺つた様な文中に大に矛盾がある事に氣がつかぬらしい。物資の要求に依つて教育

と言ふ職を選んだ事は其の第一歩に於て誤つて居るとは正しい。是れ正論である。しかし教育者が神でない以上物資の要求なくして教壇に立つわけには參らぬ。教育者は人である。教育者は食ふ必要があり、大に向上進歩をしたい欲求がある。故に物質を求めぬ。物資もいらす女もいらぬ様なマヌケの教員が教育界に居たら進歩するどころでない。教育界はすでに昔に死滅してしまつて居るんだ。幸にして物質や女を要求する位な教育者が御用教員や官僚と今まで苦戦してくれた御かげで今日の教育がまだ餘命があるわけだ。日傭人夫が一日百圓で怠惰華族が安樂な歡樂生活をして居る場合、教育者とても十分なる物資を供給するのが社會の義務だ。日傭人夫が百圓取らうがどうしようが日傭人は日傭先生は先生に極つて居る。しかし社會の財界がソクソクな變動をすれば直ちに教育者にも相當の事はすべきが當然なんだ。つまり私の所謂活し得る程度の金を供給する事が正當なんだ。若しそれが教育者だけは取りのけであれば社會の組織は誤つて居る。人間の物資欲は何所迄行つても際限のない事は事實だが、教育者、殊に告白した少壯教員の如きも過分の物資を要求すべき主張をしたので

ない。唯食つて生きて居るだけならば犬も猫も同じ事なんだ。人間は食ふ以上に人間らしき生活をしなければならぬ。先生らしき生活が必要なんだ。日備人足と先生とは大分に違ふんだ。職業に貴賤なしなどは昔の貴人が賤民をはげました言ひわけであつて、職業程貴賤のある者はない。教員と小使を一所に見てどりする。小使は小使なんだ。先生は先生なんだ。唯物資をのみ得る事を以て教育者となつたとしたらその第一歩に於て論者の如く誤つて居るんだ。しかし教育と言ふ國家的の仕事も物資なくして出来る事ではない。教育者も物質的要求なくして生きて行けるものではない。若し教育者に物質的要求なくして行けと言ふ事は死んでしまへと言ふ事なんだ。物を食ふと言ふ事は物質要求ではないか。昔の禪坊主の様に肉食や妻帯を禁じて形式的な物質要求をしないものとしても食ふだけは食ふ必要があるんだ。其の食ふと言ふ事が吾人は人間である以上犬猫同様唯食つて生きて行くのとはちがふんだ。わかつたか。昔の禪坊主が生活して居た時代と違ふ。今の時代は昔の禪坊主式の生活が出来ない時代なんだ。物質的要求は教育者も當然の事だ。教育は教育者の職業である。つまり商賣であ

る。試に全國の教育者に一文も俸給を與へないで教育をやれと言つたつて誰がソんな馬鹿な骨折損をする者がある。若しありとすれば馬鹿だ。吾人は教育者と言はず日備と言はず、吾人の労働に對しては當然俸酬と言ふ物質的給與がある筈だ。經濟眼も何もなき凡人は唯自分自身だけ満足したら良いんだ。人はどうでも良いんだ。之が日本民族の國民性なんだからたまらぬ。同情もなければ博愛もない。支那人でも同じ事だ。亡國の民支那人の様な島國的小根性を以て世界の大舞臺から人種差別を設けられ日本人排斥をやられても自分だけよければ良いんだ。ソんな根性は亡國の民でなければ所有して居ない筈だ。日本人には同情も博愛もあつたものでない。私は先日赤十字社の正社員たる事を斷つた。眞に赤十字社の爲に博愛の爲に人道の爲に活動して居る日本の赤十字社ならば私は運動してゐても入會するが、日本人のやつて居る博愛は似而非博愛なんだ。日本人は博愛などの事が出来る民族ではないんだ、私が赤十字社を退會したら、ソレでは徽章を返却してくれと言ふ。僕等は赤十字社の徽章を後生大事と保管して居る様なノンキな田舎のオヤヂでないぞ。何所へ行つたやら分らぬ。失つたと言

ふとソレでは困ると言ふ。けれども失つたものは致し方がない。金を出せさ、なくば徽章の實費を支拂へと言ふ。僕は今まで六七年も拂つたからソノ内から徽章代位は十分にある筈だと言ふ。馬鹿な、赤十字社よ。日本民族が赤十字社を經營して形ばかりの洋館をキラつかして知事や官僚が頭に居る様な事で眞の博愛や何か出来るものか愛國婦人會でも同じ事だ。知事の鼻や郡長町長村長の鼻が自分の親父の官僚的權力に浴して會長になつた所で何が出来ると思ふ。日本人は博愛の出来る民族ではないんだ。教育でもさうだ。自分の子弟を託して居る教員が全う生活の保障を得て居らない事實を見て、苟くも常識あり人間味ある者ならば同情ありて然るべきものだ。自分の家を直させるに大工一日三圓も四圓も支拂する奴が、子供の教育建築をなすべく、教育上の大工たる教員に對して衣食住の保障をしないと云ふ事は正しい社會の所置であるか。ソシて食へない教員が食へないと云つたて當然なんだ。罪惡でも下劣でも何でもない。社會の父兄自身に内省せよなど言つたつて内省する様な者は一名も居ない。凡俗を相手にしないで鞏固なる少壯教育者の生活保護に對する一致團結的會合を必要とする。古い頭の教員や、同情も博愛もなき官僚や、凡俗の父兄を相手にしないで若い者は大にやるべきである。

私は此所に此の様な教育者の泣言を何故とどくどく並べ立てるだらうか。私はあまりにこの様な事は言ひ度くない。實際言ふ必要のない位にまで教育者が優遇されて居るんだつたら私が「殺人教育」なんか書く必要も何もないんだ。しかし此所迄言はざるを得ない。尙々もつと極端な例を擧げる事すら知つて居る。例へば大都市の女教員の内には、月かげを利用して公園等に於てはけしがる商賣をする者もあり、公園のみならず公然旅館に夜勤しては男の夜トギをする輩の少なくないのを見ても知る事が出来る。之は教育者としてあるまじき事だが生活の壓迫には如何ともする事が出来る。當局者は現代の悪思想に對して随分に嚴重なる取しまりをするが、如何に取締を厳にしても彼等に生活の保證を興へない限りは何の功果をもたらず事も出来ぬ。滔々と押しよせる奔流を一時に堰く事が出来ぬ様に。現在の悪思想は必らずしもクロボトキンやマルクス説の影響に依る事のみではない。社會思想の悪化は之等經濟的學説が

關する事の極少なきものであると言ふ事を知らねばならぬ。試に見よ。全國幾萬の初等教育者にクロボトキンやマルクスの説に共鳴する程に思想の豊富なものか何人居るか。若し彼等の學説に實際共鳴を感じる程の思想家が初等教育界に居るならばそれは眞にたのもしき事であるが、實際は不完全なる日本語の譯書位であつて、譯書すら十分に理解し得ない様な先生達が大多数を占めて居るんだもの。政府が心配する程に外來思想の影響などは無いものだ。私は外來思想をその様に嚴重に取締る必要はあるまいと思ふ。唯おそるべきは生活の不安そのものである。之は外來思想どころではない。もつと極端である。思想そのものを知らぬでも生きて行く上にはさのみ必要でないが物質的の壓迫はこらへ切れない。一週間食物を取らぬ様になど言ふ事は不可能である。一週間位はクロボトキンの思想を知らなくても生きて行く上に不都合はない。一月や一年位マルクス説を聞かぬで居ても我々の口は乾上るものでもない。しかし一週間食事を止せと言つたつて出来るものではない。食事である。食ふ事である。多くの眼前の苦しき生活より如何にして脱出し得べきかの苦悶こそは實に彼等の思想をしてクロボ

トキンやマルクス以上の危険へ誘惑する原因でなくて何であらう。即ち生活に窮する結果は如何なる人も捨鉢氣分になる。此の「捨鉢氣分」是れが危険なんだ。現實の生活に逐はれたる心身の疲勞は直ちに人をして此の捨鉢氣分に誘ふ事となる。彼の無智の勞働者が種々なるプロバカンダに動かさるゝを見よ。無智の彼等にクロボトキンが解るか。マルクスが解るか。ストライキやサボタージュをやる勞働者に之等思想上の煩悶があるとはどうしても考へられぬ。初等教育者に於ても既に前に述べた通り日本譯が理解される程度の人すら少ない。まして英譯をや、實際彼等大思想家の思想は實に偉大なる内容を有して居る。からして斯道の學者ですら御自身に十分理解なくして譯出するんだ。譯出するのは自分の勉強の爲なんだ。勉強や生活の資金を得る爲に不完全なる譯書をも出版するんだ。デ大思想家の思想そのものは眞に理解せんはその原々本を讀んでも尙不十分なんだ。まして譯書の不完全なるものをや。而して種々のテクニカル・タームを知らざる教育者が日本の不完全なる譯書を讀んで——たとひそれが完全なる譯書だと假定しても——共鳴するなど、言ふ所まで行くには尙々年月の經

過と教育者の智識思想の向上である。ツマリ生活の不安よりして生の煩悶極度に達し此所に危険なるプロバカンダに誘惑さるゝ事となるんだ。之が危険なる原因の重大要素である。人は生命の欲望がある。死を恐れなかつた場合には如何なる事も成し得る彼等の行方に横はつて居る大問題は此の「死」そのもの、他に何も無いんだ。ドウせ死ぬんだ。同じ死ぬならと言ふ事になつて来ると大變だ。何をしでかすかわからぬ。獄舎へ入れられる事を以て幸福だと言ふ事になる。國家の危険是れより大なるはなしだ。正直に眞面目に勞働をして居ても生活は少しも安定にならぬ「稼いでも稼いでも尙我くらし樂にならざりである。ソコで、人間は前途を煩悶する。此所に於て獄舎の生活が自己の生活よりも幸福なる事を知るに至つて社會の秩序は亂れる。教育者の生活は尙ソコまで切迫しては居ない。しかし此の調子で行けば遠からずして獄舎の生活を希望する様になるかも知計り難いのは目の前に見えて居る。あゝ困つた事になつて来た。斃れて止むの決心があれば如何なる危険も犯す事が出来る。死は平等である。衣食に窮して自ら身を殺すも、大なる危険を犯して從容死につくも共に死と言ふ一事に於

て等しい。キリストの死も釋迦の死も、さてはブルノ一の悲惨なる最後も石川五右衛門の死も、食に窮して自殺するもの、死も、共に是れ「死」と言ふ事に於て變りはない筈である。生活の不安は此所に生の不安となり、引いて死の方法を彼等に與ふるに至る。危険の極致と言ふべきでないか。私は思ひを此所に致す毎に身に寒汗せざらむと欲して能はざるものがあるのである。

世の中の一番底に墮落てみむ、

それより墮落る所なければ

とは我輩の拙詠である。何人が何と言はうと私の此の説を否定する者は天下廣しと雖も無い筈である。若し此の説に反對な者があつたとしたならば、ソハ馬鹿者が狂人かだ。論ずるに足らぬ者である。あはれ教育者の末路よ。實に悲惨と言はずして何とか言はせ。

“Thy life thou shalt gain,
In the sweat of thy brow;

After long toil and pain,

Death beckons thee now."

「汝の額の汗を以て汝の生活を得よ。永き勞苦に次で死が汝を招く。」百雷の轟く工場内の勞働者よ。文明の利器も應用すべき資なき薄給なる教育者よ。永き勞苦に次で死は汝等を招くであらう。

私は此の項を大分に長く書いた。讀者もさぞ倦怠された事だらうと思ふ。しかし私は書かざるを得ないのである。幸に著者の心情に同情して今少し心棒して讀んでもらひ度い。生活の不安は思想問題の悪化以上の危険である。と言ふ事は前に述べたが、却説、たとひ生活の不安が決して悪化しないと假定しても危険は更に他に存するのである。抑々我々人間が活動するには幾カロリーの熱量が必要とする。活動の盛なるに従つてカロリー量を増加する事は今更事新しく述べる必要もあるまいと思ふ。ツマリ活動の度とカロリー量とは正比例すると見る事が出来る。生活の不安は勞働者や教育者をしてそれに比例するカロリー量の熱を給與しない事になる。機械でも油を與へ

ずに回轉せしめる事が出来るか。家を修繕しないで五十年も百年も置くと遂には倒れてしまふ。勞働の度に比例しない食物を取つて居る事は追々と身體のカロリー量を減せしめる。エネルギーが減る。活動が十分出来なくなる。身體が弱つて来る。ケレ共滋養分を取る事が出来ぬ。勞働能率が減退してくる。かくして去精された教育者が日本の教育を扱つて居る。見るべし肺患者の多き事を。よく働く者はウマイものを食はなければ身體がつかぬ。私は夜通し書齋に筆取る事が度々あるが、ソンの時には誰が何と言つたつてウマイものを食はなければ心棒が出来たものでない。スグ神樂坂を下りてレストランへ入る。ウマイ洋食がある。咽がなる様な酒が並べてある。綺麗なカーテンが掛つて居る。晝をあざむくシャンデリアが輝いて居る。西洋花の強烈な香氣が鼻をつく。白いエプロンをつけた優しいウエートレスが嬌な手つきで一杯注いでくれる。何とも言ひ得ぬ樂がある。一日の勞苦は忘れてしまつて更に次の仕事に専心取りかゝる事が出来る。たとひこんな事は別としても肉のスキ焼位は毎日やらなければ生きて行けない。彼の米價の暴騰した際に政府は國民一般に外米を食へと奨めた。

私はその時分に俵に乗つた事があつた。蒲團着てねたる姿の東山は夜の巨人の如く黒すんで、加茂川の水も音を立てず静に流れて居た。京都は今や平安の昔の如く深きねむりに落ちて居る夜半二時である。淋しきまぎれに神樂岡の下宿まで俵夫と話しながら俵上にウツトリとして居た。此の時外米の話をしたら俵夫はかう附け加へた。「旦那！ 私達の様に毎日かうして強い労働を夜となく晝となくつゞけて居る者は、外米なんかを眼をつぶつて食つて居る様な事では到底仕事が出来ません。ソレよりか高くてもウマイ日本米を食つて、ソノかはりにウンと働く方が餘程利益なんです。」と。然り。此の俵夫なかなか話せる奴だと思つた。眞理は決して遠い所にあるのではない。道は近きにあり。此の無智なる俵夫の一言に確に學者の統計以上の價値が含まれて居る事を知らなければならぬ。

教育者の薄給の結果は、ソレがたとひ危険なる心理状態にまで進んで行かないと假定しても、彼等は自己の身體を保つべき十分なる滋養品を探る事が出来ぬ。流行病には一番に斃れる。デなくとも年月の悪食は遂に肺患や其他の病氣に取りつかれる。假

令病氣にかゝらないとしても「青瓢箪に屁かました」様な顔をして骨皮瘦右衛門が教壇に身を運ぶべき悲惨を敢てしなければならぬ。教育のエフィシエンシーがどうして舉るものか。現今教育の改造が種々學者に依つて論議されて居るが、如何に論議されても机上の空論何にかならんやである。學校の内部の設備が如何に完全に出来て居てもダメだ。要するに教育者を優遇する事が現今教育改造上イの一番に大切な事なんだ。或る學校の様に理科の設備に何萬圓とか運動の設備に千金を投ずるとか。別にわるい事ではないが、其の學校の職員が生活の不安を煩悶しながらその何萬圓の設備に何の價値ありやだ。教育は機械や設備に存せずして「人」にあり。

七 眞の教育者は喧嘩する者なり

喧嘩もなし得ざる腰拔教員の多き事よ。喧嘩もなし得ざる御用教員の多き事よ。彼等は顔に道學者を装ひ内心校長や官僚に如何にしてか阿諛せむかとのみの計畫に日夜汲々たる者である。眞の教育者は然らず、眞の教育者は喧嘩する者である。實際現今

の教育は墮落しきつて居る。喧嘩せざらむと欲して能はずではないか。眞に此の腐りはてた社會と教育界に於て、吾人は善人となるを恥づるものである。

吾人は眞理の外におそるべきものはない。若し事成らざれば敢てギロチン斷頭臺も辭せずである。正行等が首を彼等に取らるか彼等の首を正行が取るか二つの内の一つである。老朽教員や校長、官僚の首を取るか、然らずむば己が首を彼等に與へよ。陰で官僚俗吏の悪口をなしながら、表面低頭平身して一言半句もなきもの、よくも鐵面皮に人間の面して教壇に立てるや。吾人は彼等下劣極まる教育者を見る度に眞に憫然の情禁する能はざるものがあるのだ。月五圓の増俸をしてもらふ爲に彼等は何回頓首せしや。月十圓の増俸を乞はむが爲に視學の子守までなしたる校長があるではないか。悲惨も此所に至りては滑稽なものだ。

私の知つて居る男にKと言ふのがある。大正元年、ツマリ明治四十五年に師範學校を卒業した。直ちに一枚のウスツペラな辭令——實際辭令と言ふものはウスツペラな紙に印刷した。冷やかなものだが——のもとに田舎のUと言ふ小さな村に赴任した。

所が校長が缺けて居た爲に丁度校長事務取扱と言つた風だつた。女先生四人、男教師三人、Kは校長缺員中十分に學校の爲に盡した。丁度此の時首席も缺員だつた。——私は首席など言ふものを認めないが先づ此所では便利の爲に首席と言つて置く。——其の首席は校長が缺員だから自分が校長になり度かつた。勿論運動もしただらうし、村民の御機嫌も取つたにちがひない。一ヶ月程の間に前校長にかはつて此の小さな田舎小學校の校長になつた。實際田舎では小學校の校長と言へば随分にエライ人の様に思つて居るんだ。所が幸か不幸か校長の辭令を受けると同時に重い病氣に取りかゝつた。學校へ出る事は出来ぬ。多分呼吸の病氣なんだらう。ソコでKは校長兼首席代理として日々校務にいそしむで居た。折も折なり女教員の一名は結婚して退職し、一名は病氣の爲に休職となつてしまつた。かくして小さな小學校は教員の半數を失つてしまつた。Kは困りはて、郡役所の方へも交渉し一方教員をさがし回つた。

しかし郡の方でも何等交渉もせずうちやつて置いた。所が此所に困つた事が出来たと言ふのは、女教員YとKの男女關係があると村民が言ひふらしたのであつた。男女關

係ツテ何だ。男女關係は人間が地球に棲息した時から今に變らぬ神の定めた大道徳ではないか。天の岩戸の開けてよりこの方、吾人の祖先の男女關係に依て今日吾人々類の祝福する世界の燦爛たる文化があるのではないか。何も男女關係だからと騒ぐ必要は少しもないんだ。所が田舎のクラシカルな土地では困つたものだ。一犬虚を吠へて萬犬眞を傳ふ。Y女子とKとの關係は今はいかぬ事實の如くに言ひはやし立てたのだからたまらぬ。Kは直ちに郡役所に呼び出さるゝ事となつた。所がKは平氣だ。吾人は眞理の他におそるべきもの宇宙廣しと雖も一もある事なしと平然として居た。偉人天才とは誤解さるゝ事なりだ。實際に於て後より調査して見ると此の問題の出所には二個の大なる陰謀があつた。一つは新しく校長となつた前の首席教員が自己の位置をKに奪はれむ事をあやふんだのと、他にNと言ふ女教師があつてKを戀ひしたつて居たがKは我關せずとソシラヌ顔をして居た。果然NはKの事を村民に言ひふらしてしまつた。時は十二月の義士會である。會が終ると日はズツブリと暮れてしまつて居た。雪は全山をうづめて言ひ得ぬ寒氣は身を切る様であつた。NとKと他の

りうしんとは
四甲に、トイ
とりふまふは
あしす。

一人の男教員とは小使室の火鉢に手を出して寒さをしのいで居た。ソコへ男教員の宅から使が来て一寸用事だから歸れと言ふ事で男教員は歸宅した。残つたのはNとKだつた。KはNに早くお歸りなさいとすゝめた。Nは止むなく歸つて行つた。ソコへ會場をしまつて居たY女教師が入つて來た。所がY女教師は之から一里もある野邊を歸らなければならぬ。まして此の間は至つてさびしい所で渡船がある。此の寒い田舎道をシカもヅッポリ暮れてから此の長い道を歸らなければならなかつた。Kは大變に同情した。私が送りませうと言ひ出した。Kは此の時何等戀愛なんかを考へる餘裕は更になかつた。唯同情的に言つたまでだつた。涙にもろき情ある教育者としては當然の事だつた。Yは大變によろこんだ。しかし先生に遠方を送らせるなんかは御氣の毒ですと言つた。イヤかまひませぬ。私は又自轉車で走りますから。KとYと二人が校門を出た時は既に雪が五寸程もたまつて居た。Kは自轉車をころがしながら道々自分のすきな音楽の話などをした。村はづれまで來た時先に歸つたNの弟に出會つた。豈其のまゝにはすむべけむやだ。

事件は更に大となつた。Kは郡役所へ呼び出されて種々難題をもち出された末今後
は注意をせよとて歸された。彼の教育界に對する憤怒は赤き血潮と共にムラムラと湧
いて來た。教育界何ものぞ。郡視學何ものぞ。郡長何ものぞ。彼は岩石の如く突立つ
て叫んだ。己の運命は主義は主張は、郡視學や馬鹿な教員、凡俗な村民位にあやまら
れて如何するものか。進め正義の道。彼は實際あまりに世俗や教育界を買ひかぶつて
居た。師範四年の學窓から眺めた社會は實に整然たる立派なものだつた。教育界は實
に麗しかつた。花の春に會へる思ひをして飛び出した。實際身を教育界に投ずると事
實はちがつて居た。四ヶ月の缺員を満たすべく新しく赴任した校長は郡役所で十分に
YとKの事を聞いて居た。新校長池邊は町の小學校の訓導であつたが官僚の御おぼえ
よろしくとあつて此の村の小學校長に命せられたのであつた。池邊は町の小さな自分
の家に住んで毎日自轉車で通勤して居た。先代は米屋と質屋で儲けたとかで今は細々と
と自活して居た。何しろ官僚に阿諛する事を以て生命とし、小學校の校長様となつた
事を以て大臣になつた様に心得て居る男なんだから、眞理の他に恐るべきものなしと

高く、つて居るKと會ひ想な道理はない。忽にして衝突してしまつた。衝突は更に
他の結果を生むだ。Kは自分デちやんと覺悟して居た。衝突は更に更に甚しくなつ
た。なるにつれてYとK女教師の問題は更に火の手をあげた。擧る筈である。問題の
裏にはチャンと校長がかゝつて居るんだ。實際教育者を攻撃するのは男女關係を言ふ
のが一番早道なんだ。社會から道學者の様に見られて居るんだから、男女關係を云々
すると忽にして社會から見すてられ指彈さるゝ事となるんだ。校長池邊は直ちに此
の早道を取つてKにかゝつた。冷やかなる一枚の辭令と共にKは他へ轉任を命せられ
た。Kは不思議に思つた。自分は首になるだらうと思つて居たのに轉任であつた。ソ
シて自分の家に大變に近い所であつた。

此の不思議なる謎は後より解く事が出來た。Kは時々T料理店に入つて酒をあふつ
た。Tと言ふ料理店は町では第一流の高尙なる、古き歴史附の料理店であつた。官僚
も時々此の料理店に足をふみ込む事があつた。時は二月の上旬。雪を冒してT料理
店に入つたKは直に酒を命じた。十二疊の大廣間は寒いが一番に氣持が良くてKの大

變に好む一室であつた。自分の知つて居るウエートレスを呼んで酒をつがせながら話
し會つた。談はたまたま〇視學の事になつた。〇視學は此頃此所へ來るかね。「此の
頃はチツトも御みえになりませぬ。〇視學ツテひどい奴だぞ。ほんとに驚いた奴だ。」
「あの方はお拂がね悪くて困りますの。私等は何回おねがひに參りましてもだめなの」
「ウンそんな奴だ。先日も或る學校の女教師と三日も或る所へ遊びに行き、……マア
言はないで置かう。」言つて頂戴な。何もいゝぢやないの、私に言つたつて。「マア
その事よりも酒だ酒だ、酒をつけ。」彼は又二三杯酒をあふつた。「あなた〇さんがこわ
いの。」「何郡視學や郡長位おそれるものか。」「デハおつしやい。」「ウン言つてやる
×小學校の藤田信子ツテ到つてハイカラな美人ね。アレさ。アレをつれて京都へ三日
も泊りがけで遊びに行つてたの。さソレはまあ良いいさ。愛し合つた仲だつたら假令妻
君がある男だつて女教師だつてさしつかへない事さ。しかし郡視學てふ權利のもとに
引きつれて行つた奴だ。行かなければ之だとチャンと權利と言ふものを引ずり出す
んだ。若し信子さんが行かなかつたら直ちに首だ。デ信子さんは困つたが附いて行つ

たらしい。其事を信子さん自身が自分の戀人の所へ手紙で言つてやつた。何、自分の
操を辯解する爲にさ。所でソノ手紙は僕がもらつたのさ。何故僕がソノ手紙をもら
つたかは別として、問題は自己の位置を利用して女教員の貞操を破らうと言ふんだ。
けしからぬ奴だ。己は己の考で一つ彼の首を取つてやらうと思つてるんだ。「オホ
、あなたは恐ろしい方ね。」「何、恐ろしくも何もないさ。あたり前の事だ。己の
首も彼れにやるさ。少しもおしくはないよ。……」
三時間程してKはT料理店を辭した。ソレから二三日を経て〇視學がT料理店へ行
つて酒をあふつた。時にKがウエートレスに言つた話を女給が皆郡視學に告げた。驚
いたのは〇視學である。Kを首にしないで良い學校へ轉任せしめてしまつた。ソシテ
今までは打つて變つてKの爲に巧言を盡した。内密は頗るKを恐れて居た。
Kは家庭に近い良い所へ轉任をした。しかしKの心に一日も愉快はなかつた。唯心
にかゝるのはY女教員の事だつた。Kの事からして遠い山間に轉任を命ぜられて。父
母戀しと泣いて居た。

Kは其後Y女教員に同情をもつた。自分の妻にしようと考えたが之は不可能であつた。Kは此の郡視學が随分に食ふと言ふ話を聞いて。教育者からの捧げ物を以て食つて居ると言ふ事であつた。或る教員の如きは何十圓かの高島屋の呉服の切手を以て行つたが爲に増俸もしてもらつたり良い位置に轉任を命ぜられたりして居た。かくして視學は專政治下のタイラントとして随分に無茶をやつた終りに〇〇市の小學校長に轉じてしまつた。所が次に來た視學は先の視學からKの事をチャンと聞いて居た。ソシテKに對しては大變なる壓迫を加へた。Kは直ちに此の悲惨な教育界を捨て、〇〇市に轉じた。〇〇市は市内に七八十も小學校があつた。所がソノ市の教育も大變に腐敗して居た。Kの轉じた小學校は市内に於ける有名なる學校と賞せられて居た所であつた。所がソノ有名なる學校の校長と來ては無能無主義無方針で眞に官僚に頭を下げる事だけしか知つて居なかつた。女と金と來ては彼の最も欲する處であつた。貪慾と來ては下手な商人以上であつた。出入商人を使つては公金を自由にして居た口には道を説き心は鬼の如く生徒の生血をすつて居た。學校へ出入する商人は澤山にあつたが彼

等は此の貪慾な校長に官判を押させられたものだ。ソシて毎日官僚のもとへ阿諛しに行く巧妙さと言つたらソレは成つて居なかつた。Kは或る個人の所へ音楽を教へに行つた御禮を學校へもつて來た。所がKはその時音樂の授業中であつたので校長に一の封筒を渡してKが教室を出たら渡して置けと言つて歸つて行つた。無論親展狀である。所で此の貪慾な校長は直ちに金だと見て取つて封を切つてしまつた。ソシて自分の財布へ入れてしまつた。所でソレがKにわかつた。ソコで校長は現金をそのまゝKの前に出してオゴレと言ふ。Kは可笑しくなつた。何と言つたつて親展狀ではないか。ソシて中には金が入つて居るんでないか。ソノ封も切つてしまひ、Kにわかつたからとて現金をゾロリ出して謝罪するのならまだしも、あつかましくもオゴレとは又何事ぞ。彼は〇〇市に於て有名なる學校の有名なる校長の此の一事を見てアキレて口が開かなかつた。「ドウなりとなさい。」彼は歸宅した。一週間程してから職員會があつた。其の時菓子が出された。メツタに菓子を出す様な事のない職員室に、しかも時ならぬ茶菓とは眞に不思議であつた。所が計らざりきKがあまりの事に受取らずに去つた時に

ソノ金は再び校長の財布に入れられ、ソノ金の一部で職員に菓子がおごられたものだつたと聞いてアキレ果てしまつた。

如斯にして非教育的の校長、ツマリ教育屋とKとは合ふ氣づかひはなかつた。口には甘言を以て人の心をさぐり内面には金を得んものとのみが彼校長の全力のそゝがれた主義方針であつた。Kと衝突してしまつたのは二年の後であつた。此所に二人の女教師が居た。大變な美しい女と大變に醜い女とであつたが二人が二人ともに校長の爲に犬の役をつとめた。美しいのは手を握らせては増俸してもらつた。醜いのは教員の内部探偵を校長に告げては増俸してもらつて居た。お互にまけず劣らずに校長にもてゝ居た。Kは出た。次に轉じたのは〇〇市の北東部にある小學校であつた。ソコの校長は實に金持であつたから先の校長の如くに貪慾な事はなかつたが、無意無能無策と來ては殆んど前の校長と變りはない人間であつた。あはれKは何所も同じ此の教育界の惨事を見てかなしくなつて來た。所でKが〇〇市に初めて赴任した當時の課長は實際にあまり教育てふ事に深い人ではなかつた。何れにしる官僚てなもののに大教育者

のある氣づかひはない。此の課長殿は〇〇市の最中に一人の美しい女教師のある事を知つて居た。ソシて自分に妻も子もありませんながら、之を我ものにして居た。ソレは時々其の女教師の口から漏れて出た事などもあつた。所が其の課長は他に轉じて行つた。は、市の役人とも合はないのは事實であつた。合はう筈がない。眞理の爲に突進しやうとして一生懸命な彼と、教育を弄びつゝある彼等とは何等の一致點をも發見し得なかつた。かくしてKは増俸してもらへず力も認められずに還々と壓迫されて行つたのである。Kの教育界の半生は如斯にして終つたのである。

私が今此所にKの事を持ち出したについて、Kは許してくれるだらうと思ふ。ト言ふのはKは私の親友である。ダカラ私の此の冗長な文もKは許してくれると思ふ。私は現今の理想に向つて突進しようとする新進の教育者の内にはKの如くに虐げられて居る人々が少なからずある事を知つて居る。又事實虐げられた人の話を直接に聞く事もある。かくして我國の新進の若き教育者は鄙劣なる校長や官僚の爲に虐げられて行くのである。

ソンの馬鹿な事かと思ふ様な事でも教育界にはよく有り得るんだ。一度官僚や校長と喧嘩でもしようものならソレが最後だ。頭の上る氣づかひはない。實際に困つた世の中だ。困つた官僚や校長だ。私は或る視學が巡視して來た時教師が禮をしなかつたので視學殿大變に怒つた事を知つて居る。ソンの視學先生が居るんだ。或る何でもない一事を以てすぐ其の教員の俸給に關係せしめるんだからたまらぬ。私は實際全國に居る視學や校長などの内にはドンなものが居るかわからないと思ふ。我々が眞劍になつて教育の進歩發展をはかつて居る反面には、教育を破壊してかゝつて居る者もあるのである。

八 教師は一體生きて居るのか死んで居るのか

法は人間が作つたものであるから人間は法を有効に使はなければならぬ。然るに法に使はれて居る。日本には法に使はれて居る人が多くて法を使ふ人がない。法は一道徳である。しかし道徳の全部ではなくて其の一部である。道徳に反する様な事があつても法には違反せない事がある。しかし法に違反する事は道徳にも違反した事になる。と言ふ人がある。然れども之は理想的の法律の場合に限る。法がいやくも人間の作つたものなる以上は缺點なしとは限らぬ。しかも有権者階級に便利に出來て居る日本の法などは随分に缺點が多々あると信ずる。故に其の論法から行けば法に違反した者は必ずや直ちに道徳にも違反した者だとも言ひ兼ねる。私は一般の法についての知識はもつて居ないから法律についてエラ相には言へぬが、少くとも教育上の法などは一般法とちがふから最も理想的に使用してもらひ度いものだと思ふし、尙權利を以て教育を壓迫する様な事の絶對にない様にしてほしい事だと思ふ。

私は絶對に眞理を尊重する。眞理に向つて絶對に敬服する。故に私は教育法などの如き制裁法でない限りに於ては十分に寛大にして現代思想に順應する様に法を解してもらひ度いと思ふし、又權利づくで以て思想や教育を壓迫しない様にしてもらひ度いと思ふ。

此所に面白い話がある。或る學校の職員會に校則を讀み上げた中に上席訓導とか

首席訓導とか言ふ言葉があつたのを見て取つた下席訓導は、「此の學校には上席訓導と
 下席訓導とか言ふものがあるらしいが、現代のデモクラシーの論盛にして又ソレが
 眞理なる以上ソンのものをば校則より廢止してお互に同じ主張のもとに力を合して教
 育にたづさはつては如何です。」と言ひもあへず校長の曰くが振つて居る。「ソレは法に
 きめてあります。吾人は法を尊重するが、上席下席などの職員組織は決して法には定
 めてない筈である。校長たりとも上席では決してない。徳川時代の寺小屋や明治初年
 の一等教生二等教生てな事思想が今にも残つて居て、頭の古い校長なんかは俸級が
 高ければ上席だと言ふ風に解して居るらしいが、ソんな上席や下席を作つて權利的に
 軍隊的に教育と言ふものは出来るものではないんだ。私は小學校令をあまりに調査し
 た事はないから、上席下席首席末席てな事を——ソんな教員組織を——せよと言ふ様
 な教育法があるかないかは十分に詳細には承知して居ませぬが多分無だらうと思ふ
 假令法文中に熟字として上席や首席と言ふ様な文字が使用されてあつてもソんなもの
 を盾に取つてクダラヌ組織をする必要は更にないのである。上席や首席なんかと言ふ

言葉はソレ自身が下席や末席の對象語でないか。末席や下席と言ふ事は人を馬鹿にし
 た言葉なんだ。ソシテそんな言葉や事實を許容して教員を使用して居る。つまり教員
 を奴隷視して居るんだからお話になつたものでない。校長だつたつて決して上席教員
 でもない筈だ。校長は教員の内で一番にエライ人ではない。唯五人なり十人なり居る
 教員を代表するだけのものだから、代表的の名詞である。實質に於ても價値に於ても
 ツマリ能力に於て一番上だなんと言ふ意味では決してない筈のものだ。所がソんな校
 長が至る所に教員を奴隷視して居て、所謂下席や末席の教員の人格も何も認めないん
 だからたまつたものでない。口には色々デモクラシーを唱へながらテンデ足もとが暗
 くてならぬ。
 教育は法で壓迫して見たり官憲で以てオドシをかけてみたりする事が最も悪い事だ
 ある。私は面白い例をもつて居る。或る男教師が轉任をしようと云つて校長にも郡視
 學にも依頼した。所が郡視學も郡長も許可してくれなかつた。所で校長は或る無根の事を府
 廳に通じた。トにかく轉任はさせないで置く豫定である。ソコで轉任する方も出る郡

な時代には教育が進むきづかひはない。朝日新聞九年十一月七日に左の記事がのつて居た。

滋賀縣下の小學校教員有志は現在の縣教育會より離れた自治的教員團體を設立せんと今年の夏縣下に飛檄して同志者を募り二千四百餘名の教員中一千三百餘名の賛同を得たが先に郡市長會議の席上堀田知事が「右教員組合は危険性を帯ぶる者で小學校教員者の態度として不穩常だから宜しく郡市長の手で取締る様にせよ」と述べたので郡市長は更に視學に通じ入會者の壓迫につとめて居る、現に東淺井郡の如きは極力官僚的威壓に全力を注ぎ校長會では之に参加せぬ様に訓示した、野洲郡の如きは警察官の手に依つて教員中入會者の身許調査を行つたとの事である。之が爲氣の小さい教員は入會して居ても急に退會すると言ふ状態である。

之が朝日新聞に出た本文である。小學校教員の團體設立を以て危険性を帯ぶるものとなし、知事の訓示で以て官憲の力で壓迫を加へ、警察官が内々身許を調査するとは又何とした事か。果して危険性のものであるか否かは宣言書に明である。曰く、

- 一、宇内列國の趨勢に鑑み、國民教育の尊重を圖り、其の實を向上發展せしむ。
- 一、國民通法の精隨を發揮し、日本人たるの志操を鞏固にし、立憲的自治的精神を培養する事。
- 一、社會奉仕の思想を鼓吹し、人類生活に對する熱愛に眼覺めしめ、崇高博大なる同情を涵養する事。
- 一、自發自動の教育を重んじ、兒童生徒の生活を尊重し、文化創造の人格者たらしむる事。
- 一、教育者の天職を自覺し、相互に信愛輯睦し、協力一致以て教育的理想の實現に努力する事。

之が宣言書の全部ではないが其重要な點の抄記したものである。若し右の宣言が危険なりと言ふならば危険でないものは此の反對だと見なければならぬ。果して此の宣言の反對は危険にあらざるか？ 私にはあまりに見えすいた事だと思ふが、こんな事を壓迫するならば壓迫そのものが頗る危険だと思ふ。何故とならば此の宣言に反對な

る思想の宣言をせよと言ふ論法になるから。今馬鹿らしいが盲に教へるつもりで一寸聞いてもらひ度い。最初の「宇内列強の趨勢に鑑み」を「宇内列強の趨勢に鑑みず。」と書き直したならば如何。「國民教育の尊重を圖り」を「國民教育を尊重せず。」とすれば如何に。「其の實を向上發展せしむ。」を「其の實を向上發展せしめず。」とすれば如何に。而して此の宣言により或る團體を作り此の宣言を實行する事が何所が悪いのか。新聞の記事に依ると氣の小さい教員は退會を申込んで来たのである。ソンの腰ぬけ教員が何人集つたつて鞏固なる教員團體が出来たものではない。昔から官僚や俗吏に理解ある様なものはないと言ふ相場にきまつて居る。ソワな盲目的俗吏輩を自覺せしめ、教育してやる事もそれ自身が間接には教育者の任務なんだから、大に覺醒する様に運動してやると良いと思ふ。新聞に依ると「覺醒せる新進教育者は其の壓迫に堪へ兼ね一日も早く設立を望み六十餘名が男子師範に會合して委員會を開いた。」とある。まことに當然の話であつて、力強い事であると思ふ。

露して居るのが日々の新聞に報導せられて居る。私は實際困つたものだと思ふ。實際教育の改造は第一に彼等俗吏の手より教育を獨立せしむるか、さなくば第二には彼等俗吏の頭腦を改造してやる事だ。如何に聲を高くして教育の改造を絶叫しても、教育の改造の第一歩は教育者の改造でもなく、兒童の改造でもなく、俗吏の頭の改造それ自身である。教育が當分彼等俗吏の手より獨立せしむる事が出来ないとなれば先づ教育改造の第一歩として官僚俗吏の頭を改造してかゝらなくちやダメである。

彼の廣島に於ける縣當局の女教員壓迫事件なるものを見よ。アレが堂々たる師範の校長か、アレが可愛想にも縣視學てふものかと實際憫笑に價するものであるではないか。私は此の事件についてあまりに詳細に記述するの必要を認めぬ。ソレは新婦人協會の機關雜誌であり女性同盟の大正十年一月號に事件の顛末が詳細に書かれてあるからである。私は彼等官僚や師範校長なるもの、如何に可愛想な程に浅い知識の所有者であるかを同誌に依て知つた。頑迷なる固陋なる横暴なる淺識なる輕佻なる浮薄なる彼縣當局の所置は何ぞ。私は事も程がありけりだと思ふ。一體廣島縣の知事や女子師

範校長縣視學等はドンな顔して居る男か——多分一匹の男であらうが——見てやり度くなつて来た。私は本書を読んで被下る方々に同誌一月號を是非讀んでもっひ度いと思ふ。ソレはこの事件によつて私にこの様な事を發見せしめた。第一に官僚俗吏師範校長など言ふ者には一寸の靈もない事だ。一寸の蟲にも五分の靈があるのに、彼等六尺の男子に一寸の思想もないと言ふ可愛な動物である事、第二には同誌を全部通讀して女教師連の頭腦が彼等官僚俗吏師範校長輩よりも更に更に進歩して居るし明確であるし自覺して居るし理解して居る事である。同誌を拜讀して第一に感ずる事は女教師諸君の整々堂々たる陣立である。思想に依つて戰つて居る所である。然るに所謂、「其筋」なる方々の陣立は如何。權利と暴力をふりかざして丁度大人が子供の手をねち上げる様に、オレは視學だぞ、オレは知事だぞ、オレは女子師範校長だぞと言つた風な、所謂「其筋」式を發揮して、如何にも上官にペコペコ頭を下げてメシを食つて居ますと言つた所がアリアリと見えて来て實に御氣の毒な程の氣がする。私は彼の當局の無智を曝露して良くも其の職にスガリ附いて居るかゞズルイと思ふが、又一面

鐵面皮な所を見ても劣悪なる人間の根性としては決して心にそれ程恥ぢて居ない事も知れる。兎角日本人には奴隸的根性がある。官憲を振りかざして思想を壓迫する様な事はドーせ日本のお役人だけだらうがソノお役人が上官に對しては奴隸なんだ。カラして下々の者として女教師を壓迫するてふ事も彼等に取つては應分の考かも知れぬ。可愛さあまつて憎さが百倍と言ふ事があるが私は憎さが餘つて可愛さ百倍になつて来た。ドウもドウも廣島の「ソノ筋」とか言ふ所はエライお方々のお集りと見える。現今各種方面に随分取締と言ふ事が流行する様であるが、ソレが等しく大なる誤謬である事は具眼者のよく承知して居る所なのである。例へば社會主義の取締を見てもよくわかると思ふ。かゝる方法を以て取締を斷行すれば社會主義ソノものを撲滅する事を得ずして却て反對に増加するの虞がないとも限らない。大本教の如きもその通りである。壓迫もせず關涉もしなかつたら私は到底あれだけに發展はして居なかつたものだらうと思ふ。私は危険なる思想に對してはドシドシと取締つてもらはなくてはならぬと思ふ。ガ言論の自由は憲法の保障する所であるから之を取締る事は十分なる

法律上の根據がなくてはならぬ、徒に盲目的に取締る所に、危険を恐れて自ら危険に落ちて行く事となる。彼の廣島の事件を見よ、大本教事件を見よ、更に社會主義者の取締を見よ、社會主義者が一言半句も論述せざるに集會が解散せられると言ふ様な例である。其の言論の内容が果して治安に害ありやは初めより問題としない。警察は彼等の演述の中止と解散を豫定して集會にのぞむのである。之等はたしかに警察官そのもの自身が法律違反である。廣島縣の事件を見よ、初めより平塚氏そのものを以て批判してしまつて居る。ツマリ豫定の筋書がわかつて居るんだ。私は社會主義の如何を此所に論じようとする者でもなく、法律に渡つて説明する必要もないが、憲法治下にある國民である以上は、ソノ憲法に保障する權利は何等の理由なく之を蹂躪すべきものでないと思ふ。私は廣島に於ける女教師壓迫事件に於ても、所謂其筋なるものがイデヅクで以て何等の理由なく壓迫したと言ふ事を以て最も遺憾に思ふ者である。法に違反したり正義と眞理に悖る所の取締は如何に周到に行はるゝとも遂に結局は其の美果を治むる事が出来ない事と信ずる。彼の女性同盟に依ると、協會の方から所謂其筋

なる北川女子師範校長に問合せた所、返答が來ない、ソコで電報で以て催促した所、拜誦、御尋の件につき差當り職務上から御答するには及ばぬと認めます云々。同じく小濱視學からの手紙として、
 小生より局外の向へ御説明申上げ難く候云々。
 二通とも略同様にして何等の明瞭な理由を説明して居ないと言ふ事である。ソんな横暴な返事、馬鹿げた事が何所にあるものか。或る社會主義者の集會を一言半句も言はずして解散を命じた時、署長の曰く「理由は言明の限りに非ず。」大阪朝 と言つた相だ。理由のない斷定と言ふものがあるか。こんな馬鹿げた理窟が何所の國にあるものか。
 私は同じ祖先の血を分けた日本人同志が、お互に兄弟であるべき日本人同志が、同じ一天萬乗の君をいたゞき其の萬世一系皇統連綿を誇る日本人同志が、何故に理解もせずしてお互がお互に挑戰的に反抗をして見たりするのがテンと解せぬ。等しく之れ國家の隆盛と國運の進歩の爲ではないか。去るをお互が外國人の如くに相反抗し合つ

京都府「ケレ共アレは警察の部長さんと新聞記者とです。」警察の部長はソレ等を取締る人である。ソノ人が此の有様は又どうした事だと私はホッホッ先の料理屋の老爺の話とを合せ考へて、教育がこんな所で破壊されつゝあるのだなと信じた。

話はチト横の方へ行つた様だ。何之も殺人的教育の良い材料なんだから。デ私は本論に歸つて話をつけてゆく事とする。私は現代の教育者は——無論横暴なる官僚から殺されて居ると言はゞそれまで、あるとして——一體生きて居るのか死んでゐるのか解らぬ。私は大分に脈が上がりかけて居はすまいかと心配して居る。今の教育者は實際木偶の様に下を向いて生徒を教へる道具になつて居る。ヤレ生徒の贈り物を受けた。ヤレ男女関係が起つた。ヤレ何だヤレ何だと周囲からせめ立てられて四面楚歌の中に籠城して居る様なものだ。今に兵糧がつきはてるやもはかり難い。贈り物を受けるのが何だ。贈つてくれて受けないと言ふ事は非教育である。男女関係が何だ。男女が居れば男女関係が起つたつて何の不思議もない筈だ。横暴なる其筋や校長から奴隷視されてへコンでしまつて居るアハレなる教育者よ。今少し元氣を出して活動したら

どうか。

私は或る府立中學校へ行つた事がある、ソレは或る會員が其の學校で會合する事になつて居たからだ。其の時の會場は職員室にツイた廣間であつた。ソノ中學校の校長も其會の會員であつたから會の方へ來て居た。所で職員室下は同校の職員が澤山一所になつて雑談をして居た。所で校長はスタスタと席を離れて職員室へ入り、餘りに騒がしい、其さまは何だ。」と大喝一聲。私は生徒でも叱つたのだなと思つて居た。後で聞いて見ると自分の學校の先生を叱りつけたのだつた。私は驚いた。何事だらう。中等學校の校長とある者が同校の職員を叱り飛ばしたりして居る。人格をみとめぬのも程があると思つたが私は歸路あまりの事に可笑しかつた。實際今の中等學校の校長てなものはソンなものだ。校長サンにしてもらつた事を天へでも登つた様な氣になつて部下の職員をしかり飛ばして居るんだ。ソンな奴に教育の何かわかつてたままるものか。官僚なども其の通りである。視學と言ふ役人は何所の學校へ行つてもエラバル事が一番に能事だと思つて居る。府縣視學が地方を巡視する場合を見よ。ソレは實際

に可愛想になつて来る。憫笑せずには居られぬものである。憫笑すべき視學や官僚俗吏の手より教育を獨立せしむべきは吾人筆硯を以て立つもの、大責任であるが、教員自身もあまり勢がひがない様でないか。被選舉權も與へられぬ國民、ソんな者が國民教育にたづさわつて居るんだ。私は此所に此の問題も持ち出し度いがあまりにわかり切つた事だから事新しく述べない事とする。要するに小學校教員は立憲治下の奴隷である。立憲治下に居ながら被選舉權も附與せられず。困つた壓迫された臣民である。デ私は生きて居るのか死んで居るのか解らぬと言ふんだ。京都の教育會の主事とか言ふ人が朝日新聞の京都附録に「小學校教員に選舉權を與へるとする。若し當選する場合全國の小學校兒童は如何にするか。授業に支障はないかを心配する。」と言つて居た。コンナ馬鹿な奴が教育會の主事だとは驚く。考へて見よ。全國の小學校教員に一名も残らず被選舉權を與へたからとてソレが一名も残らず議員になるのではないぞ。一體彼等の頭の中はドンな者か不思議でならぬ。立憲とか選舉とか言ふ事が解つて居るか。

教育者は何處へも頭の上る所はない。壓迫され切つて居る。壓迫され壓迫された結果は青い悲惨な顔をして身を教壇に運んで居る。生きて居るのか死んで居るのかテんと分らぬ。朝登校が十分か二十分後れると校長の御氣嫌がわるい。校長の妻君が死ぬと飯たきにまで行つた女教師もあれば、視學さんの子守役をする校長もあり。校長の御氣分をうかゞふ爲に毎日校長室へ入つて御うかゞひせなければならぬ。出勤簿なんか言ふ至つて面倒なものがあつて若し印を捺さなかつたら御目丸である。教室を五分か十分早く出たので叱られて見たり。一日休んで見ても明日は早速校長の御氣嫌をうかゞふ。一寸女教師と笑話でもすると直ちに色關係だと悪口さる、教案とか週録とかさては細目など言ふソレは何の價値もなきものを作らされる。作らなければソレコン大變なんだ。

朝、五分や十分後れたつて何だ、ソんな事が教育のドンな所にドンな影響をするのか。五分や十分後れたつて六年間の教育事業の何千分の一だ。實際先生が居なかつても生徒は自由に活動をつける様な十分なる訓練をして置け。一時間や二時間教員が

後れて来て教育が出来ない様な教育はスデに根本が誤つて居る。教育てふものは二進が一や二二が四の如き數學でできるものところがふ。一時間教へたからドウかなど、言ふ切り詰めたものとはちがふ。ソんな事が天下の大勢に關係するものではないぞ。校長の御氣嫌や視學の御氣嫌を求めてする必要はないが、校長の飯たきに行つたり、視學の子守に行つたりする必要は決してない。或る學校に一人の女教師があつた。一寸美しい方なので皆の職員が相手になる。スルと其の女教師も相手になる。手を握らす。其次は何うしたか知らぬが如斯にして男教員の内幕の事をチャンと知つてしまふ。所がソノ學校の職員の事が直ちに役所の方へ知れて居る。變な事だ役所に知れる氣づかひはない筈だと思つて居ると、其の女教師は視學と通じて居てワザと男教師にナレナレしくして居て其の内情を總て報告に及んで居る。實際注意しなければならぬのは女教師である。昔から女子は實際おそろしい者だ。國家の大事な事が多く其の内部にヒソむ女子の力に依る事の多いのは歴史の證明する所なんだ。出勤簿なんかも休んだ日だけ印を捺せば良いんだ。何も毎日出勤して御本尊がソコに居るのに印を捺し

てまで出勤を證明する必要はないものだ。ソんな馬鹿な何ならぬ事に力コブを入れて本氣になつてせなければならぬ大問題を忘れてしまつて居るんだからお話にもなにもならぬ。

教室を五分や十分早く出したつて何だ。時期に依り晴雨に依り時間の初終に依り兒童の受ける能率や教師の力、さては注意集中の如何など皆異なるんだ。デ此の時間は注意が集中しないとと思つた時は——ツマリ教授の能率が十分に上らぬと思つた時は——直ちに教室より出してウンと運動でもさせてやる事だ。古い頭の校長なんかは一時間四十五分の間兎に角教室へ入れて何かやつて居なければ教育の能率は上らぬものだと思つて居るんだ。モ少し心理學と言ふ有難い學問があるからソんなものなりと讀んで勉強してみると良い。兒童が疲勞したと思つた時などは一日や二日は臨時休日にしたつて決してさしつかへない事なんだ。大體今の教育者や督學官なんかは、子供を生きて居るものだと言ふ事を知らない。

小學校には教案と言ふものがある。ソシて御ていねいにも週録とか細目とか其他種

々雑多な事が随分に澤山にある。成績なんかでも点数と言ふものに現はして考察帳だとか学籍簿だとか成績一覽表とか言ふものに現はすんた相である。大體人の人格を点数と言つた様な數字で以て現はせるものであるか無いかを考へて見よ。統計學者の眞似をして人格の点数なんかにドンな價値ありやだ。或る人は点数に現はし得るものと現はし得ないものとがあると稱して居るが、私は如何なる教科も如何なる人格も數字なんか言ふもので現はす事は出来ないと思つて居る。又教案や細目なんか必要な様な教師は、眞に教育なんか言ふ大事業は出来て居ないんだ、教師自身が一個の教案であり細目でなければならぬ。或る教員が校長から細目や教案を作つて居るか尋ねられて「作つて居ます」と答へた。「見せ」との事で「私は見せられませぬ。」「作つたら見せられるぢやないか。」「其時の教師の言に曰くが實に面白い。「私は人に見せる爲に教案は書きませぬ。又ソソに教育の目的は人に見せる爲に行はれて居るのでもありませぬ。ソソな教案は作つたつて駄目です。私の教案は頭の中に作つてありますから御覽に入れる事は出来ませぬが、何時でも御質問にはお答致しませう。」校長は大變

に怒つて「作ると言ふのは筆で書く事だ。」と言つたら「作ると言ふ事は筆で書く事とちがひます。頭の中に作つて置く事も作る事であり、野菜を作るのも作るんです。教案を筆に書かなければ教授が出来ない様な事では到底教育者としての價値はありませぬ。」と平然として居つたとの事である。之位な自信のある教育者が教育界に澤山ほし

いものだ。
私は悪口ばかり言つたが、悪口の序に教員そのものも随分に間がぬけて居る。例へば何々教授日案だとか、教授週録だとか、教案中心の教授法と言つた様な、高等師範の訓導が一夜漬の金まうけに作つた、噛んで含める様に書いた教授法の書物が洛陽の紙價を高からしめて居る現代だから推して知るべしである。ソシて何所の小學校の職員室へ行つて見ても、先生の引出しや書物箱の中を見るとソソな低級な教授法の書物で埋まつて居るんだからタマらぬ。又毎日學校へ通勤する時に持つて居る風呂敷包の中にはアルミの辨當とソレから此の低級な教授日案式教授法とが入つて居る。ソレも學校で書いてしまつたら良いものを家にまで持つて歸つて御調になる。實際教案を見

なければ教授が出来ない様な先生であつたら教育者としてそれこそ價値はないと思ふ。何たる馬鹿の教育者よ。ソレをしも校長や視學など言ふものは強要するんだからたまらぬ。一言する、重ねて言ふが教案や細目なんかを作らんければならぬ様な教育者は眞の教育者でない。

殊に校長が教案を誤丁寧にも赤書して批評を書いたり直したり御檢閲になるに至つては誠に馬鹿げ切つてしまつて居る。ソんな校長に限つて授業もなし得ないで官僚にはペコペコである。生徒を教へる。生徒の自然の天賦を發揮せしむべき教育と言ふ神聖なる事業の陰にかくれて自分自身の榮達の道具として居るんだからまことに以てけしからぬ事である。

私は何回もクドク言ふ様であるが、實際現今の教育者は生きて居るか死んで居るか判明しない。教育者には血があるんか、脈が打つて居るんか、私は實に寒心の至りだと思ふ。教育者が死んで居たり教育者が殺されて居たりする様な事で教育は——否とよ大日本帝國の教育は——出来ないと思ふ。果して我大日本帝國廣しと雖も殺されて

居ない、死んで居ない教育者が何人あるかよ。思ふて此所に至り如何に現代教育の内部の權威なく實力なきかを知る事を得ると共に、カ、ル教育者に依りて養成さるゝ兒童の不幸又大なりと言ふべきである。

私は教育者が——否とよ現代我大日本帝國の教育者が——横暴なる官僚や俗吏さては校長などに悲惨にも殺されてしまつて居る實例の多くを知つて居る。尙又教師自身も自ら自分を殺して居て何とも思はぬ世の中である。私はあまりに澤山の例を持ちすぎて居る。此所に述べたのはソノ一部分なのである。若し總てを書き擧ぐるならば遂に此の小冊子に盡くす事が出来ぬ。

九 鐵窓裏の教育

現今の女子教育は實に鐵窓裏の教育である。或る女學生が男子と共に散歩をして居た。所が受持女教員が之を見つけた。翌朝何心なく學校へ行つてみると一寸職員室へ來いと事だ。何だか變だと思ひつゝ、受持先生の前へ行くと先生常に似合はず御立

腹、昨日男と共に散歩して居た事を大變に咎め、口を極めて罵つた。「あれは私の眞の兄で御座います。」「さうですか、私の言ふ事があなたはまだ解つて居ない、兄でも何でも若い男と散歩して居るなんかは、他人が見て居ると兄弟とは見えなですからね。」あまりに人を馬鹿にした抱腹絶倒の言葉ではないか。此の女教師はオールドミスである。オールドミスと言ふものは大變にヒガミをもつて居る。自分の眞の兄と散歩する事すら出来ないのが現今の女子教育である。今の中等學校の教師なんかテンデ教育の何物たるかを知らない奴が多い。殊に女學校と師範學校に多いのだから困つたものだ。今の女子教育は決して良妻賢母主義でも何でも無い。悪妻愚母教育である。教育すると退々人間が悪くなる。悪妻の型、愚母の型が何所の女子教育にも見えるではないか。大人しく、ソシて男を理解しなければ性も知らず。小説も讀まなければ文學もテンデわからぬ様な女生徒でなければ優等生でないんだ。女學校の寄宿舎と言はい何所でも一樣に監獄の様に高い塀で取り巻いて、尙塀の上にはしのび返しをつけたり、硝子のカケを並べて見たり、窓には皆首の出せぬ様に柵を入れてまるで獄舎の様

である。特別製の牢屋の中へ押し込めて、外界と引き離した所に如何なる教育が出来ると思ふ。若き血潮のみなされる將來有望の小女子よ、汝等はかくして無自覺な教育者や父兄の爲に鐵窓裏に呻吟して、あはれや囚屋の月に故郷戀し山戀しと涙ながらに悲惨な叫びを敢てしなればならぬ薄幸の者どもなるぞ。無邪氣な罪なきもの迄を罪人扱ひにして獄舎に入れて居る様な教育者、女學校の先生達が皆死んでくれるか、首にするかしなければ今の女子教育は改造も何もあつたものでない。世に籠の鳥と言ふ言葉がある、籠の鳥位であればまだやさしい所がある。鐵窓裏の罪人扱である。人間の心の改造をやつてくれたツルゲニエフやルツソーやドストエフスキーの名は音に聞くだけで購讀を禁止されて居る。トルストイやゲーテまでも禁止してしまつて如何な教育が出来んだ。小説はおろか文學書と來ては總てが危険視されるんだ。かくして牢屋へ入れて教育された女子は卒業すると籠の鳥を離した様なものだ。好奇心にかられて小説も讀む活動も見ると何の自覺もなく男子と言ふものに好奇心を持つ。ナツカシミを生ずる。如何にも牢屋に入れて獄中生活をさせて居る間は、鐵窗外へ出

る事は出来ぬ。ソレで治まつて居る様に見えて居る。しかしそれは人生の長き一生中四年間か五年間ではないか。如何に獄中に生活させて居ても、性の發達までも——總ても人間の一度は必らず通るべき——禁止する事が出来るか。僅に四五年間男子と引き離されたる反動は無自覺にもドンな男子に對しても好奇心を持つ。男といふものであれば唯何かなくなつかしくなる。好奇心の養成所、男になつかしむ心を養成する所が現今の女子教育である。一たん卒業すれば手のとやく所に小説がある。毎日男子に接する機會が多くなる。接しなくとも人間の半数は男子であるから何とはなくて交際する事となる。自由は更に自由となり、社會の文化は自然と血潮みなぎる青春の若き女の心をそゝる。今の女學校の校長や教師なんかは眞に困つた奴ばかりだ。四年か五年間の——人生五十年とみて其の五分にも當らぬ短き年月の——無事太平を夢みて國家百年の計を知らぬ。女子が相當の年頃になれば月經がある。性的に發達して來たものだ。愛情が出來て來たんだ。何に對する愛か、何に對する情か。理解と言ひ自覺と言ふは總て是れ男子に對してではないか。女子のみの世界や男子のみの世界に眞の

愛があり眞の情があるか。小説を禁止した女先生達は、此の性的發達——即ち月經——までも禁止する事が出来るか。先づ動物を考へて見るが良い。人間も動物であるから生活欲がある。之は三つの重要素に分類する事が出来る。第一は生命欲である。第二は食欲で第三が性欲である。問題になるのは此の第三である。性欲のない人間は動物にも劣る片輪者だから致し方がない。女生徒に性欲の出來るのは當然である。之を權力を以て壓迫する所に危厄が生ずる。壓迫する事が絶対に出來ないのみならず。人間の眞の發達ではないか。性欲なかりせば世界の人類は昔に滅亡して居た筈だ。我々は生を父母に受ける。すでに父母の性欲ではないか。男と言ひ女と言ふ。すでに性的名詞だと言ふ事を忘れてはならぬ。性の最も大切なる要素は愛である。慾である。戀である。一般の動物に戀はない。性欲はあるが愛はない。愛や戀の神聖なる發達をさせる爲に、ソレ等を要素とする小説などは教育上最も必要なる教科書ではないか。女子に小説を禁止するなんかは以ての外の不眞面目な教育である。青年男女には眞の戀愛を理解せしめなければならぬ。眞の愛を理解せしめなければならぬ。小説は此の